
吹田市 第7期障がい福祉計画の 策定に向けたアンケート

－ 報告書 －

令和6年(2024年)3月

吹 田 市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査方法と回収状況	2
2 調査結果の概要	3
II 調査結果	11
1 調査対象者の属性と支援の状況	12
2 生活環境と将来の暮らしについて	21
3 日中活動の状況と就労に関する意識	27
4 情報入手や相談支援に関する状況	40
5 障がい者の人権や障がい者理解について	55
6 災害など緊急時の対応	60
III その他回答	66
IV 自由記述	84

I 調査の概要

1 調査方法と回収状況

第7期吹田市障がい福祉計画の策定に向けて、障がいのある方々の日頃の生活の様子、福祉サービス等のあり方に対する考えや利用意向を把握し、今後の施策立案に必要な資料を得るために、アンケート調査を実施しました。

調査の方法と回収状況、回答者の主な属性

調査対象	令和5年(2023年)5月現在、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方、本市障がい福祉サービスの支給決定を受けている方及び本市難病患者等給付金支給対象者の中から無作為抽出
調査方法	郵送による配付・回収、WEB回答フォームによる回答を併用
調査期間	令和5年(2023年)5～6月
回収状況	配布数：2,000件 有効回答数：1,052件（調査票用紙による回答997件、WEB回答55件） 有効回答率：52.6%

※アンケート調査結果の各設問の母数n (Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

※属性別クロス集計のグラフ・集計表には、属性が無回答であったサンプルの集計結果を割愛している場合があります。

※属性別クロス集計におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生します。この誤差を考慮して、有効回答数が30サンプル未満の属性については参考値として扱います。

※障がいの種類別の集計では、「精神障がい者保健福祉手帳」を選んだ方と「自立支援医療（精神通院）」を選んだ方をまとめて「精神障がい」として集計しています。

※選択肢「その他」に記述された内容は、構成比が20%を超えるもののみ紹介しています。

2 調査結果の概要

(ア) 現在の生活に必要な支援（グラフは次ページ）

各種障がいへの支援を行える訪問ヘルパーやガイドヘルパーの養成及び確保が必要です。

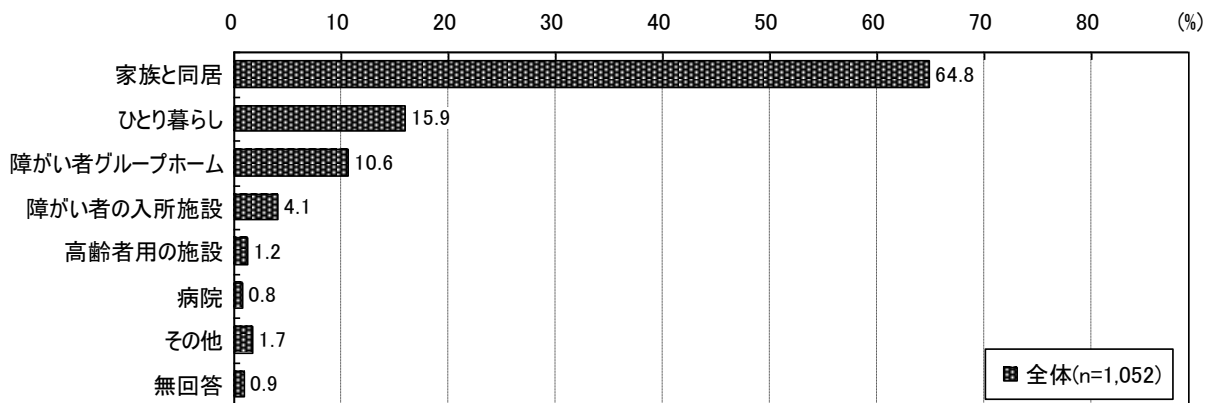
何らかの支援が必要な人は全体の71.6%で、支援を必要とする主な内容は「外出」(49.7%)、「買い物」(48.3%)、「お金の管理」(46.2%)、「家事」(45.7%) などとなっています。また、障がい種別では、特に知的障がい、発達障がい、高次脳機能障がい、強度行動障がいにおいて、支援が必要であると回答した人の割合が高くなっています。

(イ) 現在暮らしているところ、将来どのように暮らしたいか

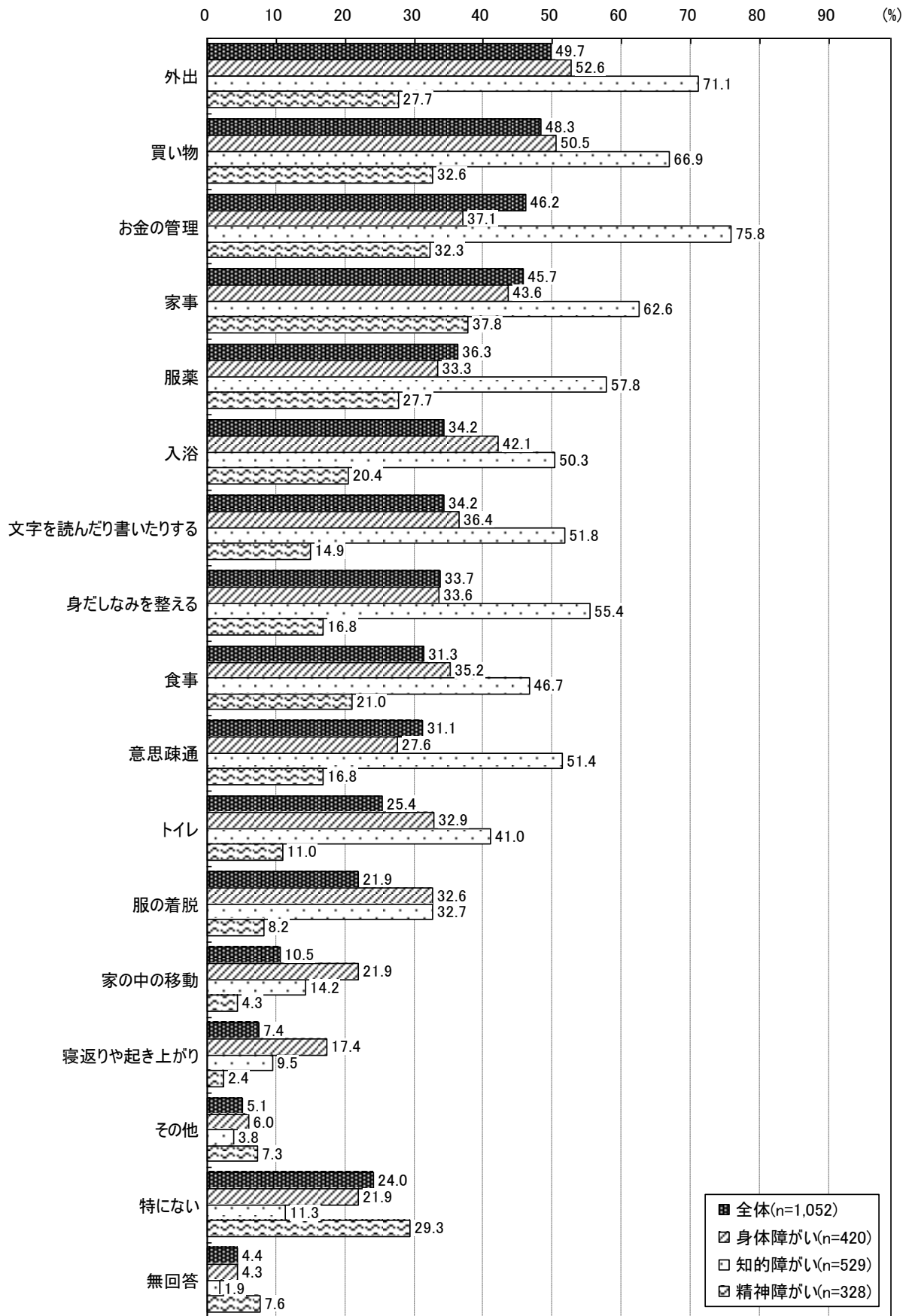
グループホームの整備促進を図る中で、強度行動障がいや重度障がいに対応したグループホームの整備促進策の検討が必要です。

「家族と同居」(64.8%)、「ひとり暮らし」(15.9%)、「障がい者グループホーム」(10.6%)、「障がい者用の入所施設」(4.1%) の順となっています。

現在暮らしているところ



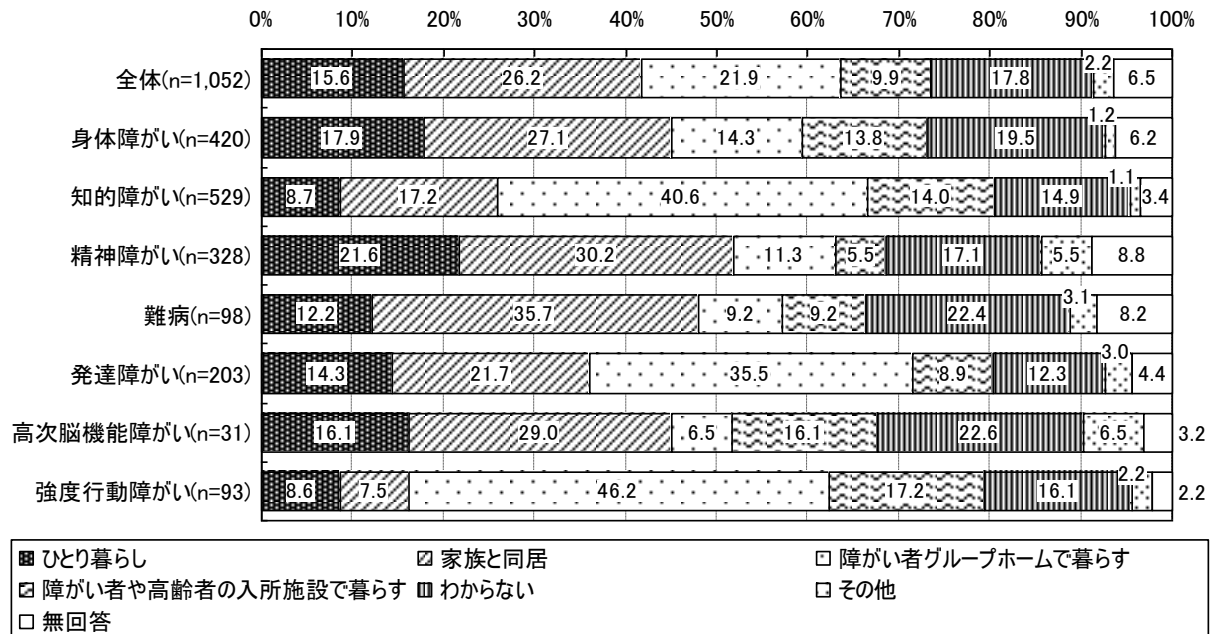
現在の生活に必要な支援



「障がい者グループホームで暮らす」と回答した人は全体では21.9%ですが、知的障がい（40.6%）、発達障がい（35.5%）、強度行動障がい（46.2%）で多くみられました。

また、現在家族と同居している人のうち19.6%が、「障がい者グループホームで暮らす」と回答しています）。

将来どのように暮らしたいか



（ウ）希望する暮らし方を実現するために必要なこと（グラフは次ページ）

障がい福祉サービスの提供に関しては、1つのサービスだけでは完結しないことを認識した上でサービス提供体制の充実を図るとともに、適切なサービスにつなげることができるような相談支援体制の充実が必要です。

全体では、「年金や手当などの充実」（47.9%）が最も多く、次いで「身近な相談体制」（34.0%）、「制度やサービスの情報提供」（28.2%）、「グループホームの充実」（23.5%）、「医療体制の充実」（21.9%）の順となっています。

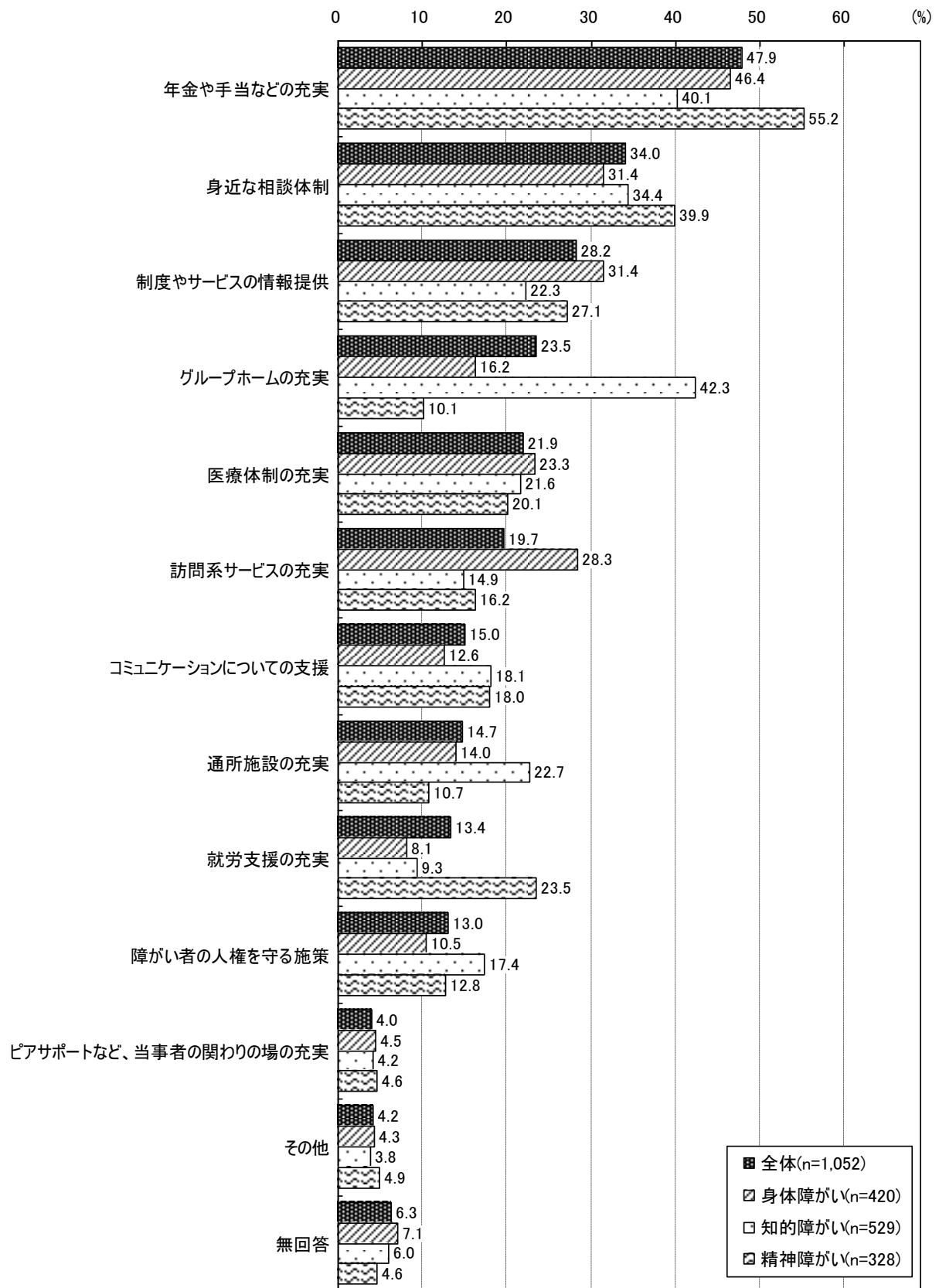
障がい福祉サービスに関しては、「グループホームの充実」と回答した人は、知的障がい（42.3%）、発達障がい（39.9%）、強度行動障がい（48.4%）、で「訪問系サービスの充実」と回答した人は、高次脳機能障がい（32.3%）、「就労支援の充実」は精神障がい（23.5%）で、それぞれ多くみられました。

将来ひとり暮らしを希望する人は、「訪問系サービスの充実」（32.9%）や「就労支援の充実」（23.2%）と回答した割合が高くなっています。

将来家族と同居を希望する人は、「訪問系サービスの充実」（25.0%）や「通所施設の充実」（19.9%）、「就労支援の充実」（15.6%）と回答した割合が高くなっています。

将来グループホームでの暮らしを希望する人は、「通所施設の充実」（19.9%）と回答した割合が高くなっています。

将来の暮らしを実現するために必要なこと

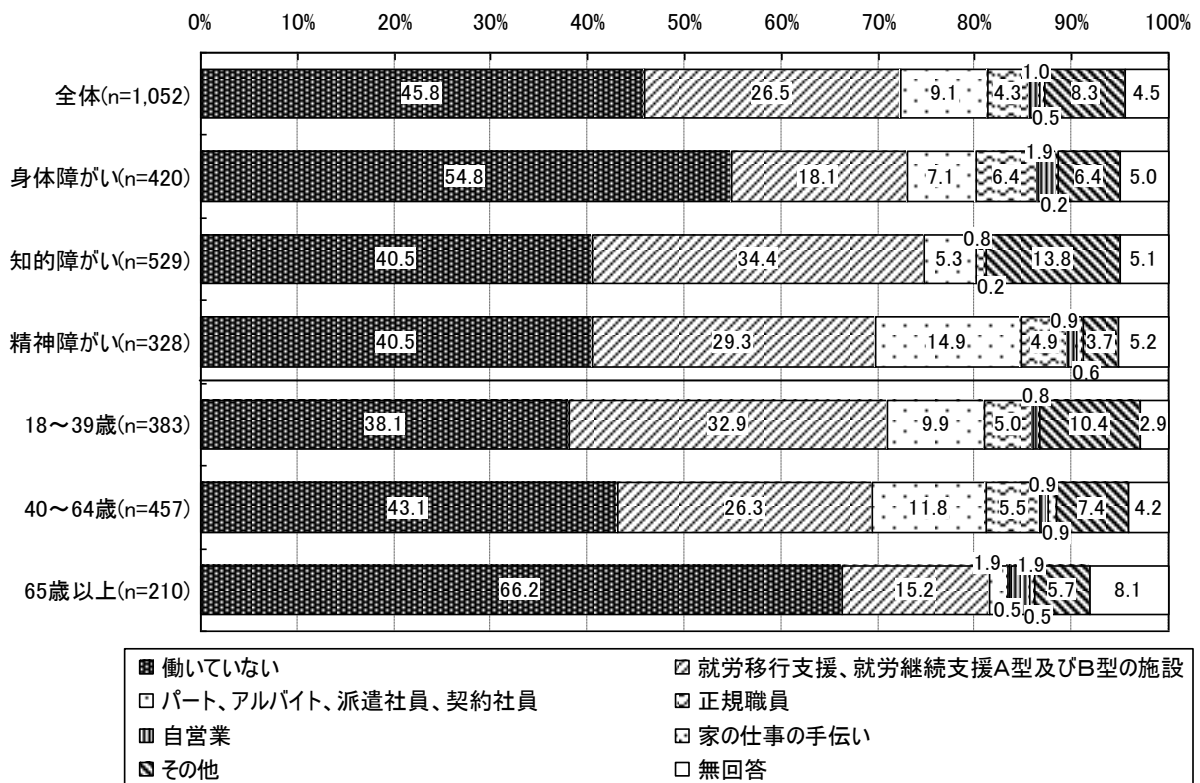


(エ) 現在の就労状況、現在の仕事に必要な支援

障がい者雇用に対する企業の理解促進に努めるとともに、障がい特性に応じた就労支援を提供できるような体制整備に取り組む必要があります。

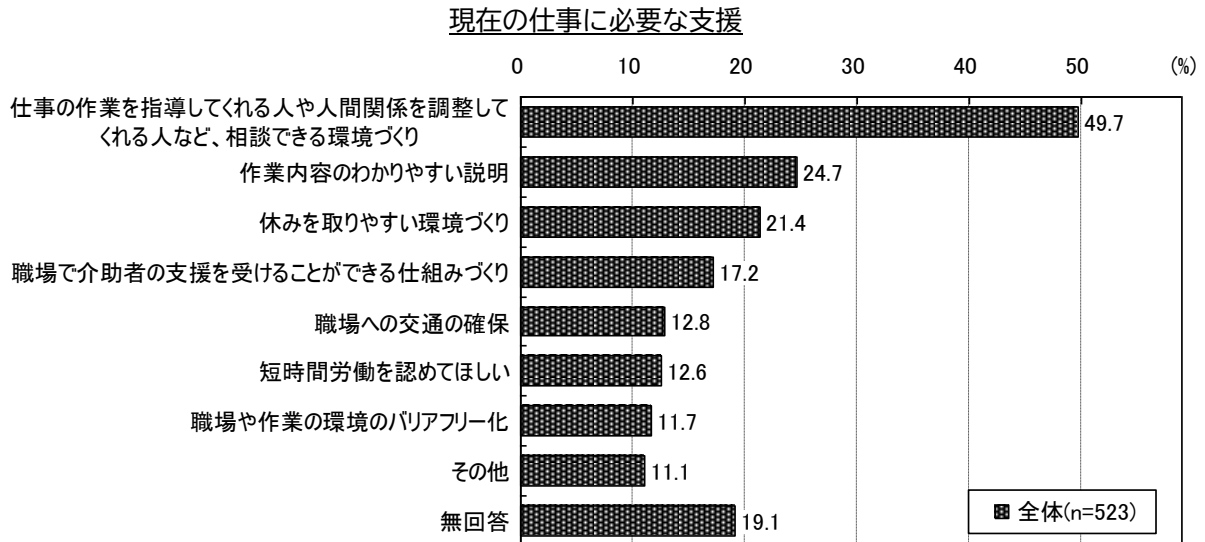
全体では、何らかの形で働いている人は49.7%で、働いていない人が45.8%となっています。内容別にみると、「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」(26.5%)、「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」(9.1%)、「正規職員」(4.3%)の順となっています。年齢別にみると、「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」は年齢が若いほど、「働いていない」は年齢が高いほど多くみられます。

現在の就労状況



「仕事の作業を指導してくれる人や人間関係を調整してくれる人など、相談できる環境づくり」(49.7%)が最も多く、次いで「作業内容のわかりやすい説明」(24.7%)、「休みを取りやすい環境づくり」(21.4%)、「職場で介助者の支援を受けることができる仕組みづくり」(17.2%)などとなっています。

また、障がい支援区分別にみると、区分4以上で「職場で介助者の支援を受けることができる仕組みづくり」と回答した割合が比較的多くみられます。

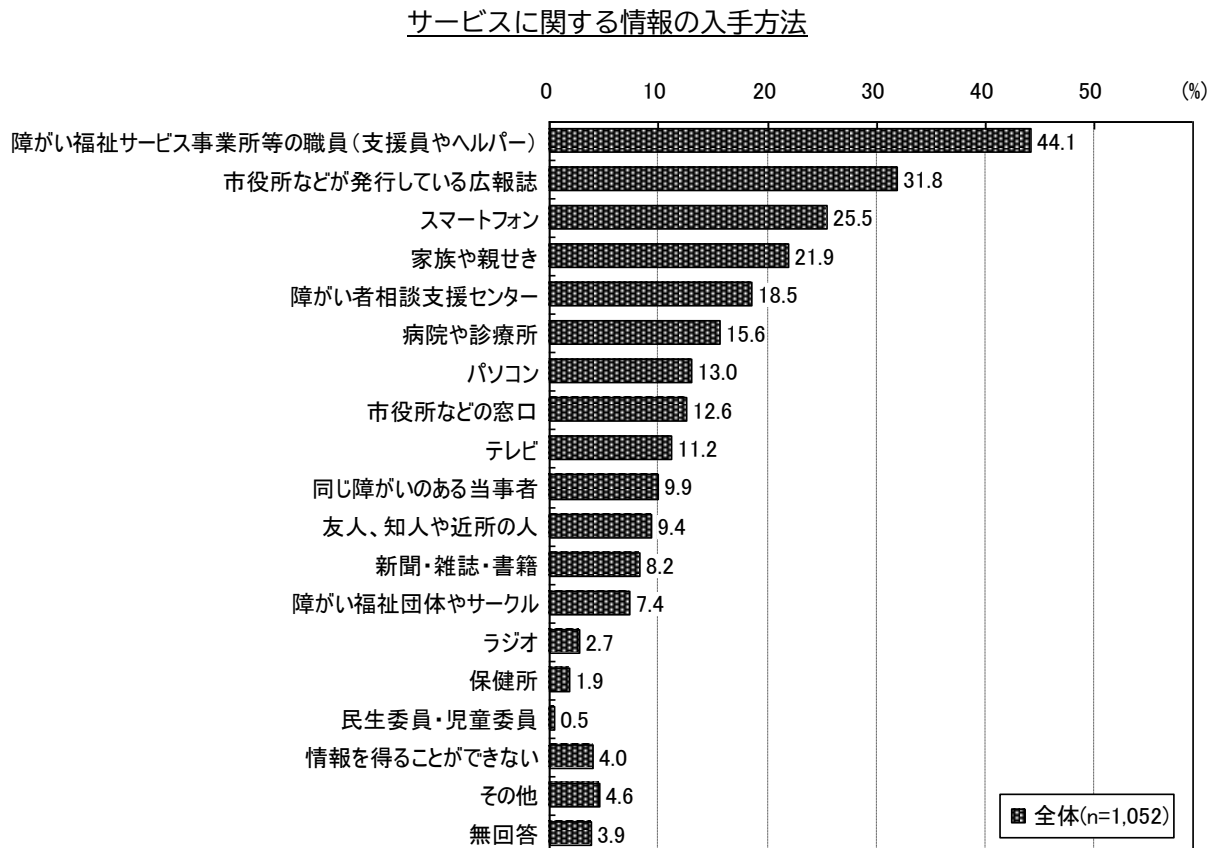


(オ) サービスに関する情報の入手方法

障がい福祉サービス事業所等に、適切にサービスに関する情報提供を行うとともに、障がい特性に応じて選択が可能な様々な媒体での情報提供を行う必要があります。

「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」（44.1%）が最も多く、次いで「市役所などが発行している広報誌」（31.8%）、「スマートフォン」（25.5%）、「家族や親せき」（21.9%）、「障がい者相談支援センター」（18.5%）の順となっています。

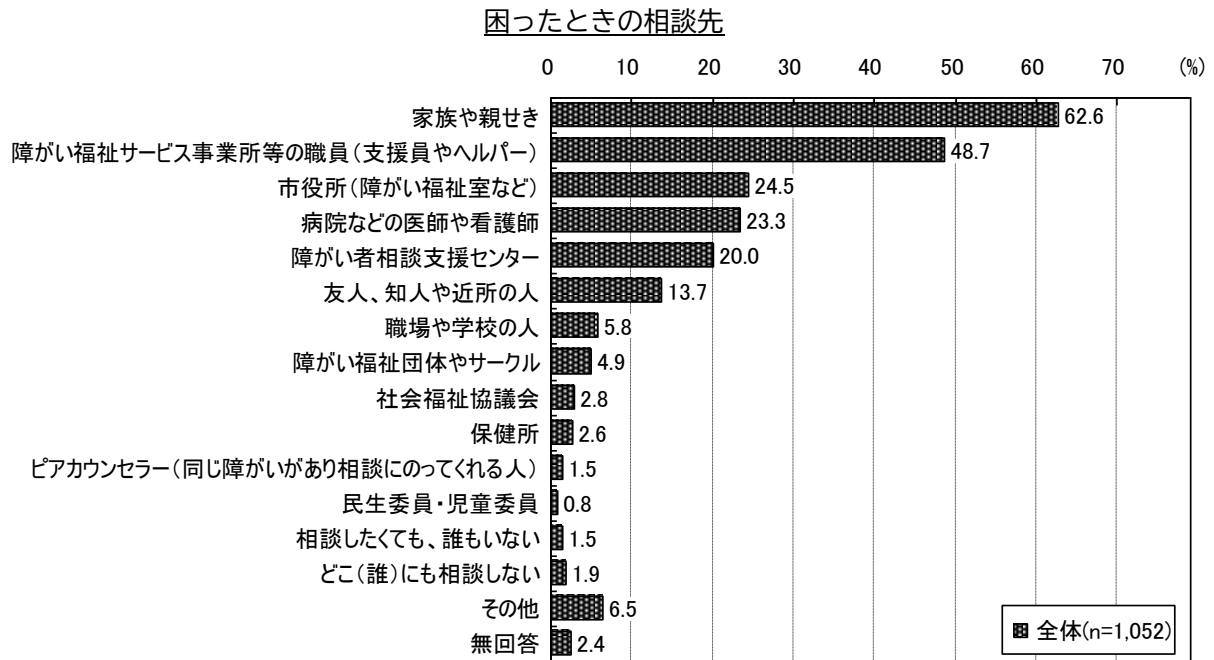
障がい支援区分別にみると、区分が高くなるほど、「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」と回答する割合が高くなる傾向にあります。



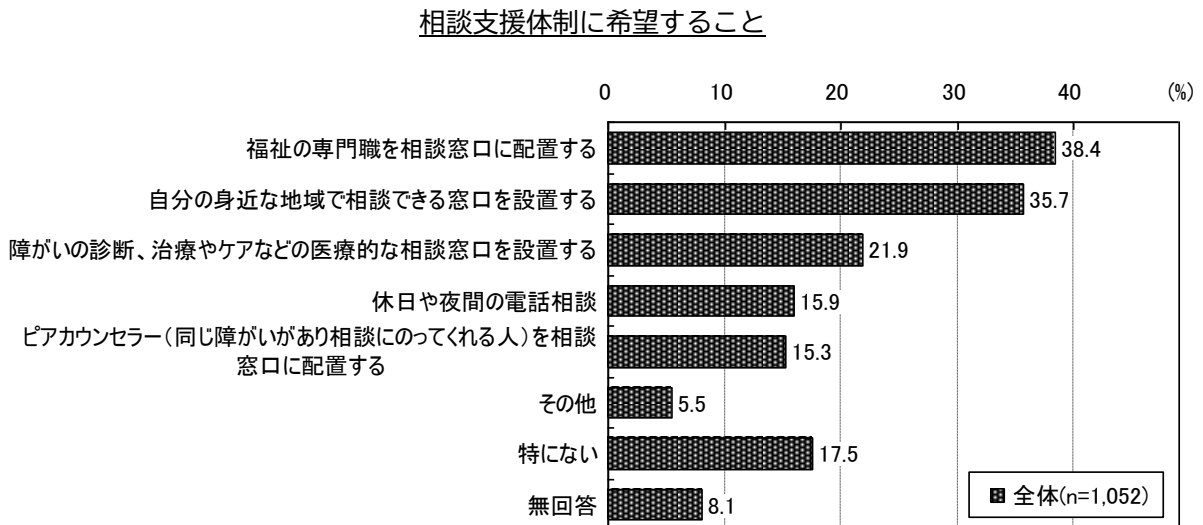
(カ) 困ったときの相談先、相談支援体制に希望すること

障がい者相談支援センターの機能強化に取り組むとともに、認知度を高めることで地域の身近な相談窓口としての役割を果たす必要があります。

困ったときの相談先として、「家族や親せき」(62.6%)が最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員(支援員やヘルパー)」(48.7%)、「市役所(障がい福祉室など)」(24.5%)、「病院などの医師や看護師」(23.3%)、「障がい者相談支援センター」(20.0%)の順となっています。



相談支援体制に希望することは、「福祉の専門職を相談窓口配置する」(38.4%)、「自分の身近な地域で相談できる窓口を設置する」(35.7%)、「障がいの診断、治療やケアなどの医療的な相談窓口を設置する」(21.9%)となっています。

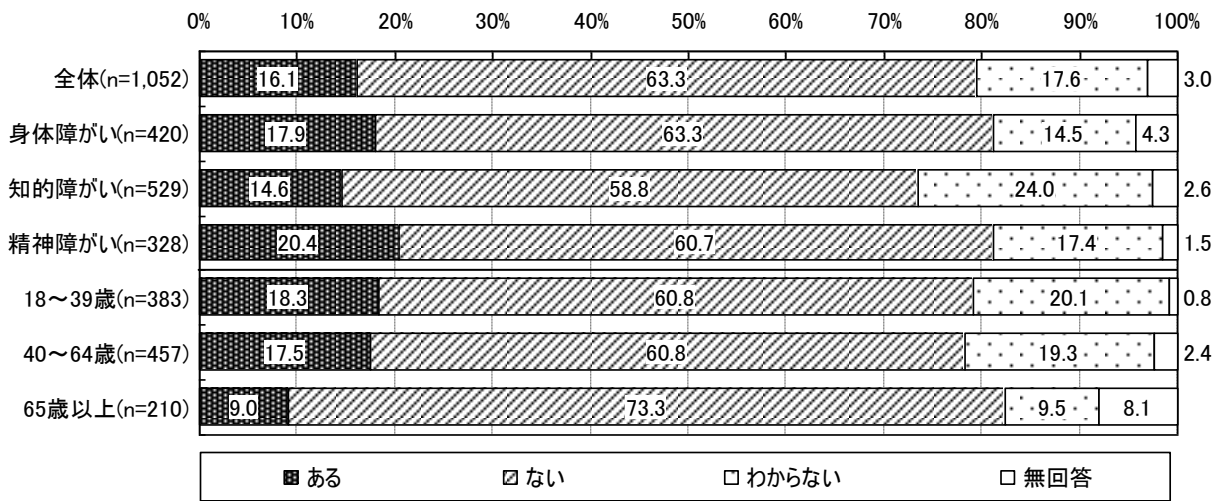


(キ) 障がいがあることで差別を受けたり偏見を感じた経験

地域全体で障がい者差別の解消に向けた取組を推進するため、啓発活動や福祉教育等を通じた障がいや障がいのある人への理解の促進や差別解消、合理的配慮の推進に取り組む必要があります。

最近3年以内に、正当な理由なく、障がいを理由として拒否されたり、場所や時間帯などを制限されたり、障がいのない人にはつけない条件をつけられたりするなどの差別を受けたり、偏見を感じた経験がある人は16.1%となっています。

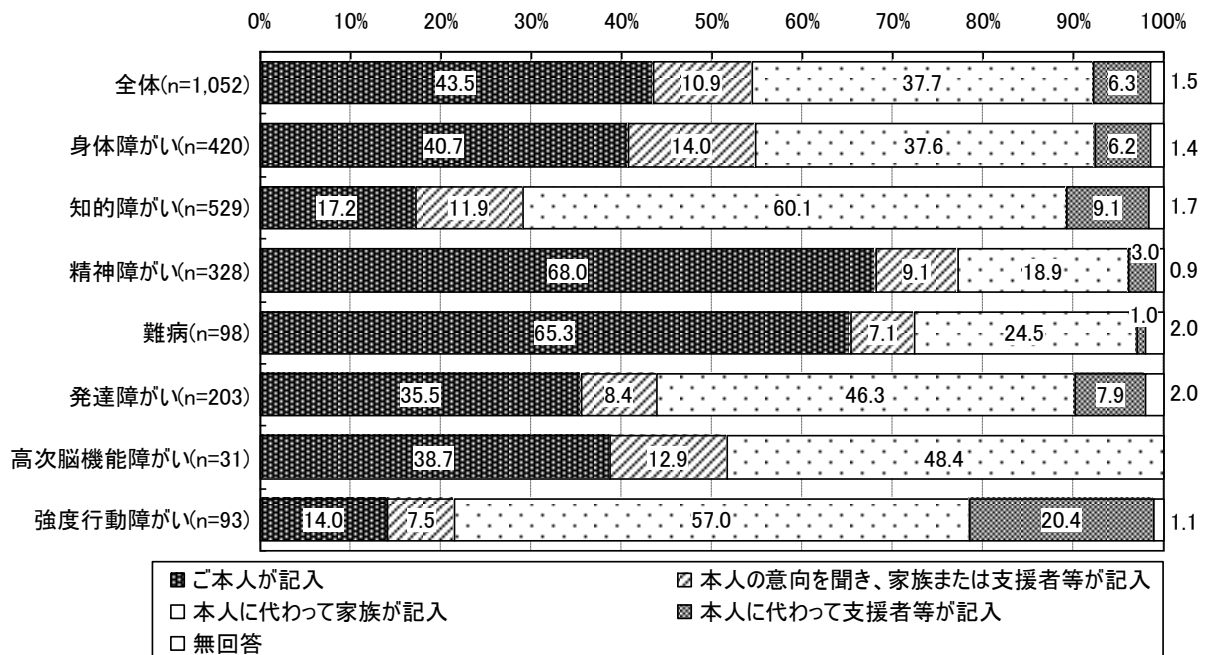
障がいがあることで差別を受けたり偏見を感じた経験



Ⅱ 調査結果

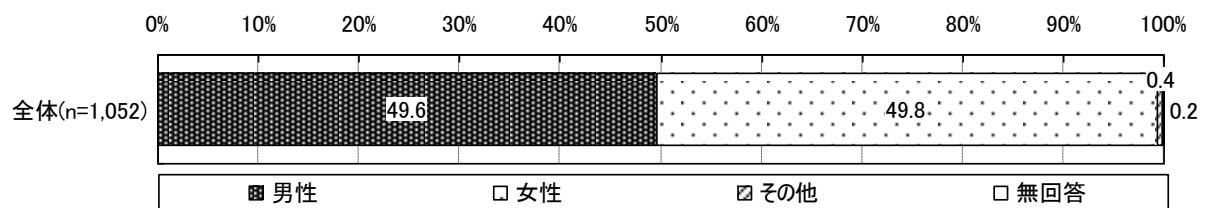
1 調査対象者の属性と支援の状況

問1 この調査票を記入した人はどなたですか。(〇は1つ)



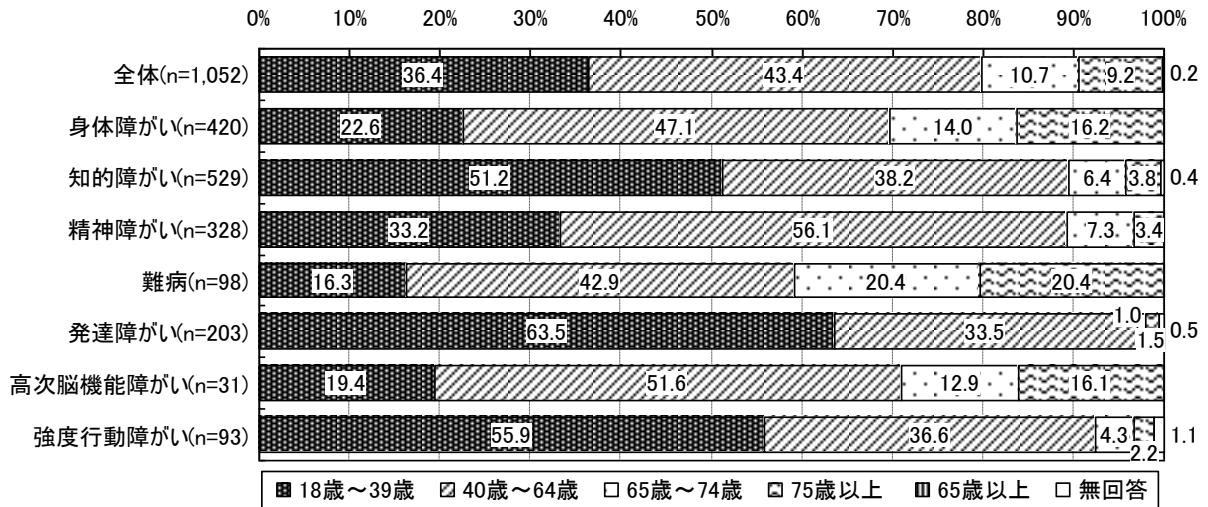
- ・「本人が記入」が43.5%、「本人に代わって家族が記入」が37.7%となっています。
- ・「本人が記入」は精神障がいでは68.0%、難病で65.3%、また「本人に代わって家族が記入」は知的障がいでは60.1%、強度行動障がいでは57.0%を占めています。

問2 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



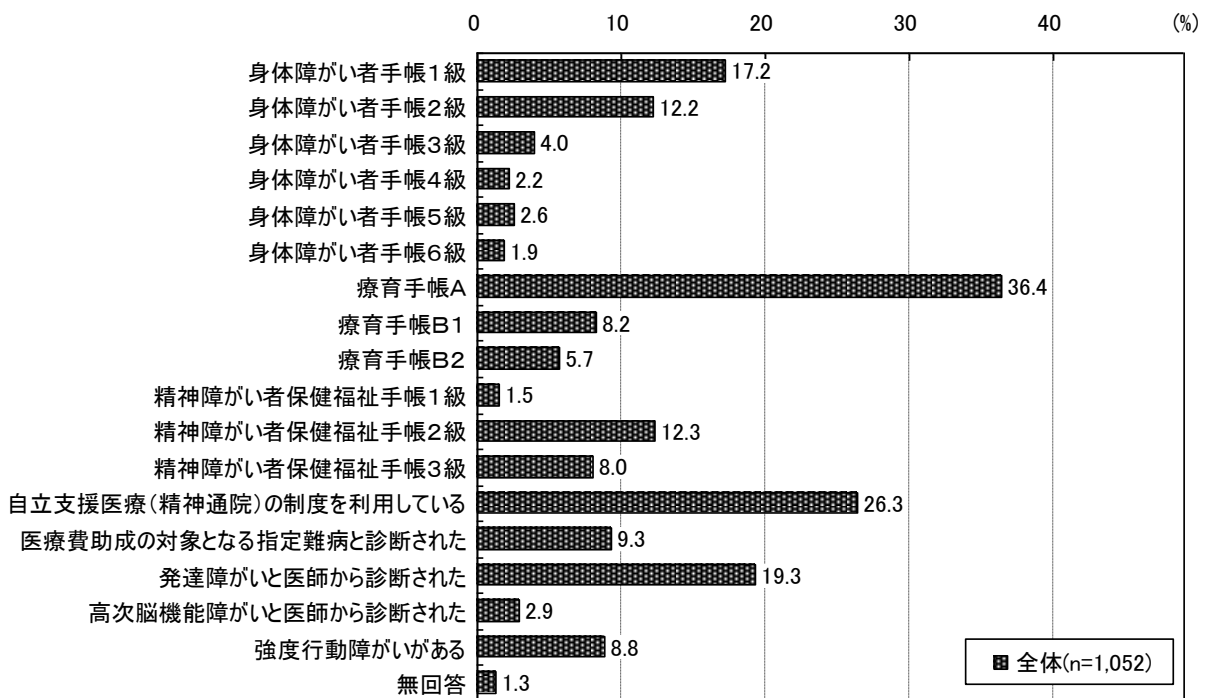
- ・「女性」が49.8%、「男性」が49.6%となっています。

問3 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)



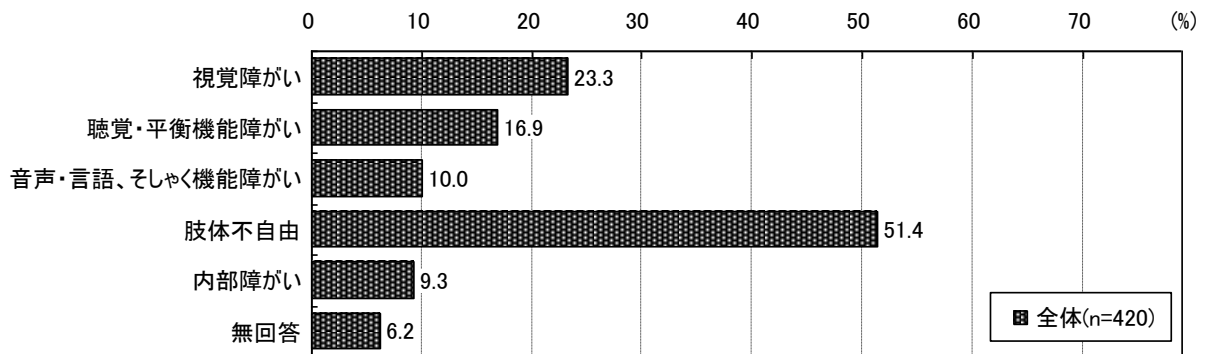
- ・「40歳～64歳」が43.4%、「18歳～39歳」が36.4%、「65歳～74歳」が10.7%、「75歳以上」が9.2%となっています。発達障がいや強度行動障がい、知的障がいでは「18歳～39歳」が多くを占めています。

問4 障がい者手帳を持っている人は等級を教えてください。また、指定難病、発達障がい、高次脳機能障がいの診断、強度行動障がいの有無について、教えてください。(あてはまるものすべてに〇)



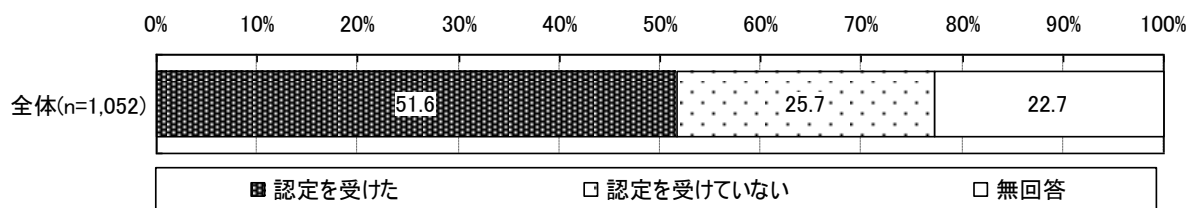
- ・多い順に「療育手帳A」が36.4%、「自立支援医療(精神通院)の制度を利用している」が26.3%、「発達障がいと医師から診断された」が19.3%、「身体障がい者手帳1級」が17.2%となっています。

問4 付問 身体障がい者手帳をお持ちの人は、障がいの種類を教えてください。（あてはまるものすべてに○）



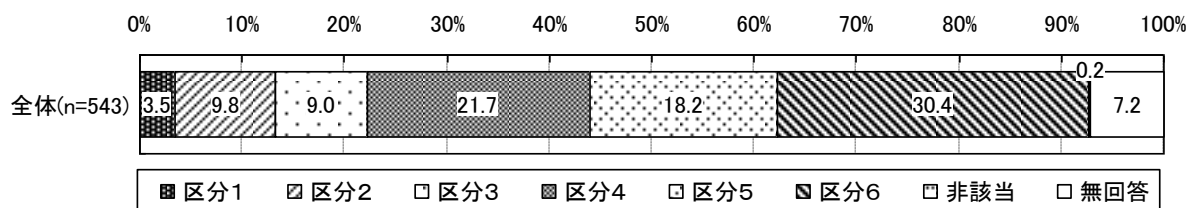
・「肢体不自由」が51.4%と最も多くなっています。

問5 障がい支援区分の認定を受けていますか。（○は1つ）



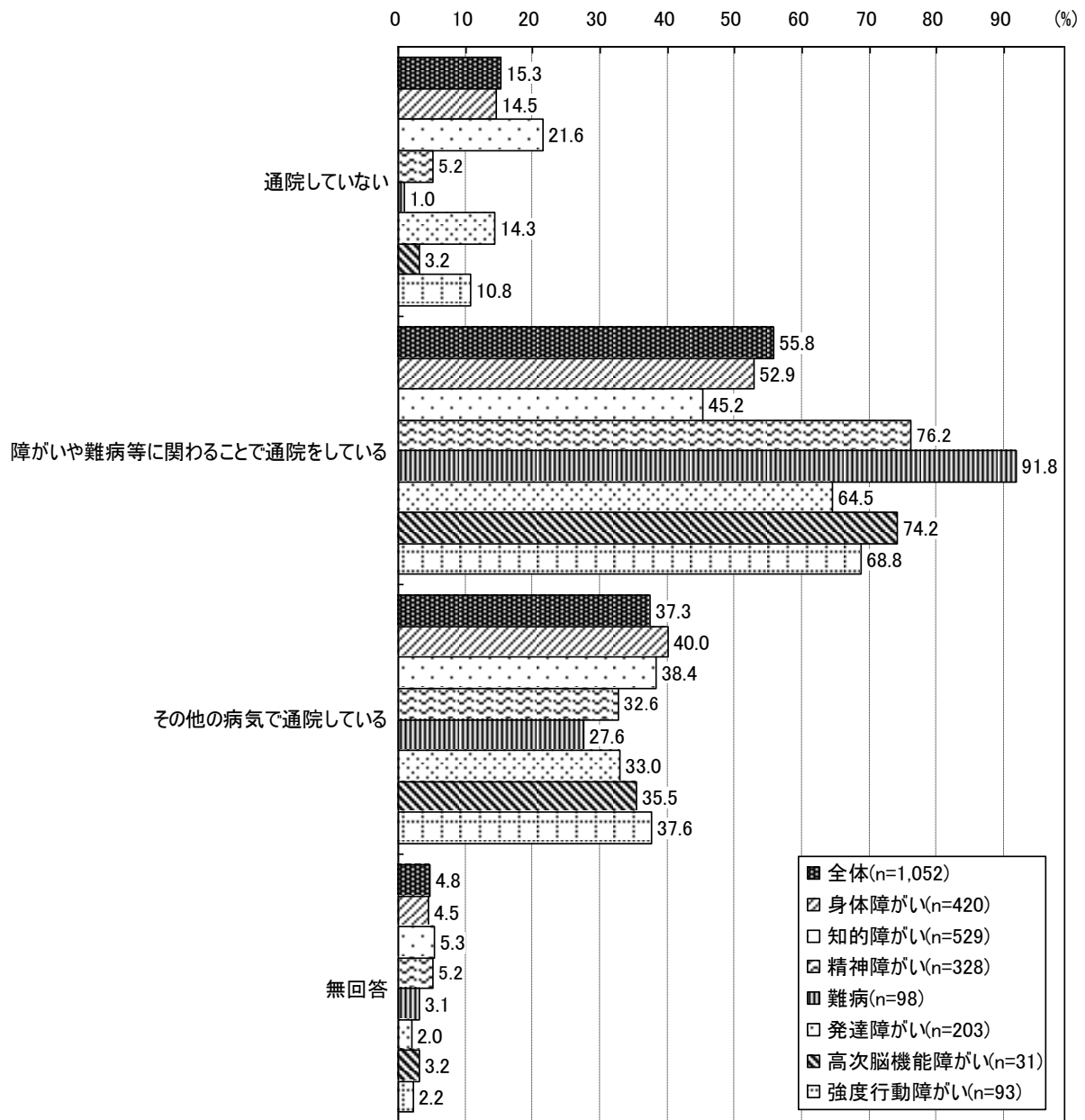
・認定を受けている人が51.6%、受けていない人は25.7%、無回答22.7%となっています。

問5 付問 受けた人は、どの区分で認定を受けていますか。（あてはまる区分に○）



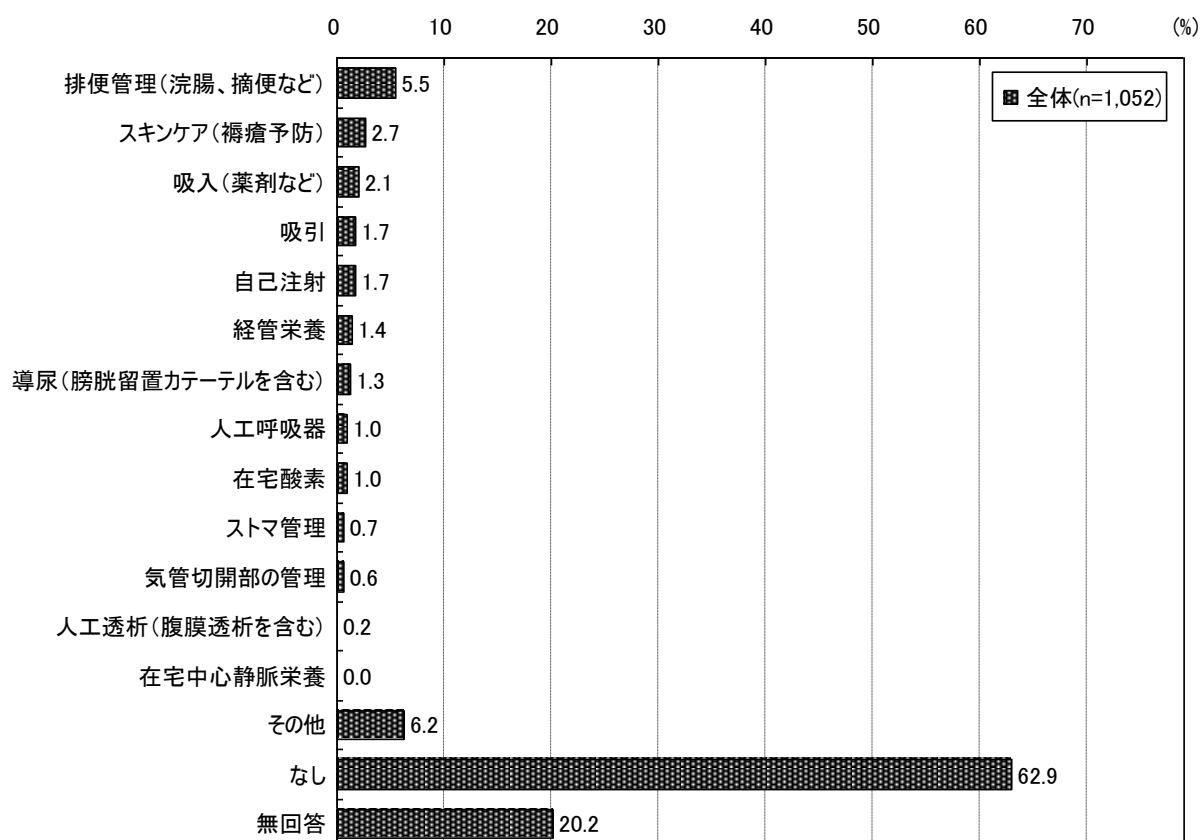
・最も支援を必要とする「区分6」が30.4%と一番多くなっています。

問6 現在、病院に通院していますか。(あてはまるものすべてに○)



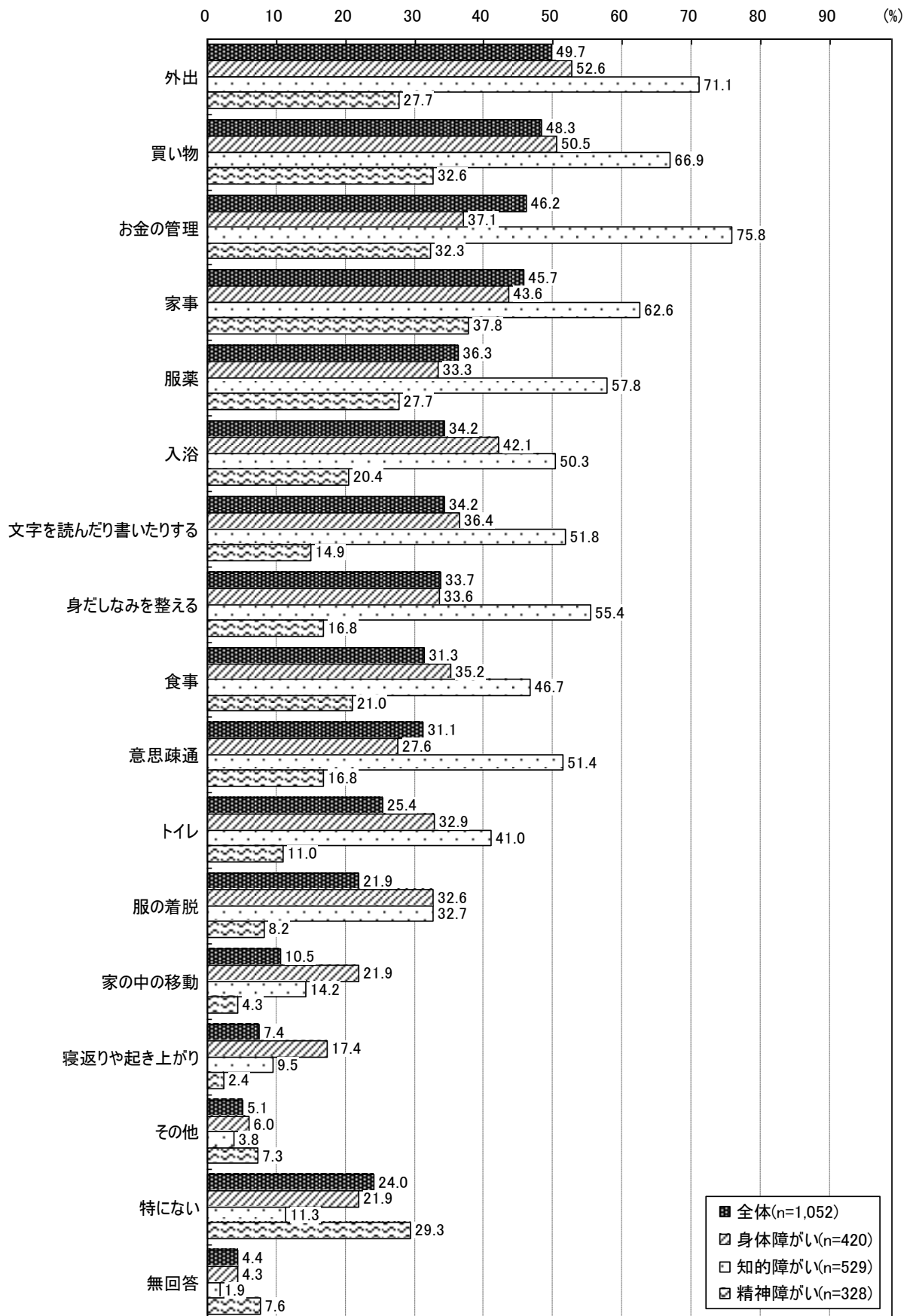
- ・「障がいや難病等に関わることで通院をしている」が55.8%、「その他の病気で通院している」が37.3%となっています。
- ・「障がいや難病等に関わることで通院をしている」は、難病で91.8%、精神障がいで76.2%、高次脳機能障がいで74.2%、強度行動障がいで68.8%、発達障がいで64.5%を占めています。

問7 自宅で日常的に行っている医療的ケアはありますか。(あてはまるものすべてに○)



- ・ 16.9%の人が何らかの医療的ケアを必要としており、内容別には「排便管理（浣腸、排便など）」が5.5%、「スキンケア（褥瘡予防）」が2.7%、「吸入（薬剤など）」が2.1%、「吸引」が1.7%となっています。
- ・ 選択肢「その他」の主な記述内容は、「褥瘡処置」、「服薬管理」などとなっています。

問8 あなたの現在の生活で、必要な支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



- ・全体では、「特にない」と無回答を除く71.6%の人が何らかの支援を必要としています。
 - ・3障がいの種類別にみると、身体障がいでは「外出」(52.6%)が最も多く、次いで「買い物」(50.5%)、となっています。
- 知的障がいでは、「お金の管理」(75.8%)が最も多く、次いで「外出」(71.1%)、「買い物」(66.9%)となっています。
- 精神障がいでは、「家事」(37.8%)が最も多く、次いで「買い物」(32.6%)、「お金の管理」(32.3%)となっています。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
外出	49.7	52.6	71.1	27.7	33.7	57.6	54.8	82.8
買い物	48.3	50.5	66.9	32.6	30.6	60.1	48.4	80.6
お金の管理	46.2	37.1	75.8	32.3	16.3	66.5	54.8	83.9
家事	45.7	43.6	62.6	37.8	23.5	61.1	45.2	77.4
服薬	36.3	33.3	57.8	27.7	19.4	50.2	48.4	82.8
入浴	34.2	42.1	50.3	20.4	23.5	37.9	45.2	71.0
文字を読んだり書いたりする	34.2	36.4	51.8	14.9	17.3	45.8	35.5	72.0
身だしなみを整える	33.7	33.6	55.4	16.8	19.4	46.8	48.4	73.1
食事	31.3	35.2	46.7	21.0	19.4	39.4	41.9	65.6
意思疎通	31.1	27.6	51.4	16.8	15.3	45.8	32.3	75.3
トイレ	25.4	32.9	41.0	11.0	18.4	33.0	25.8	64.5
服の着脱	21.9	32.6	32.7	8.2	21.4	24.1	35.5	48.4
家の中の移動	10.5	21.9	14.2	4.3	9.2	7.9	12.9	12.9
寝返りや起き上がり	7.4	17.4	9.5	2.4	9.2	3.4	16.1	6.5
その他	5.1	6.0	3.8	7.3	8.2	5.4	6.5	5.4
特にない	24.0	21.9	11.3	29.3	42.9	15.8	16.1	5.4
無回答	4.4	4.3	1.9	7.6	8.2	2.0	9.7	1.1

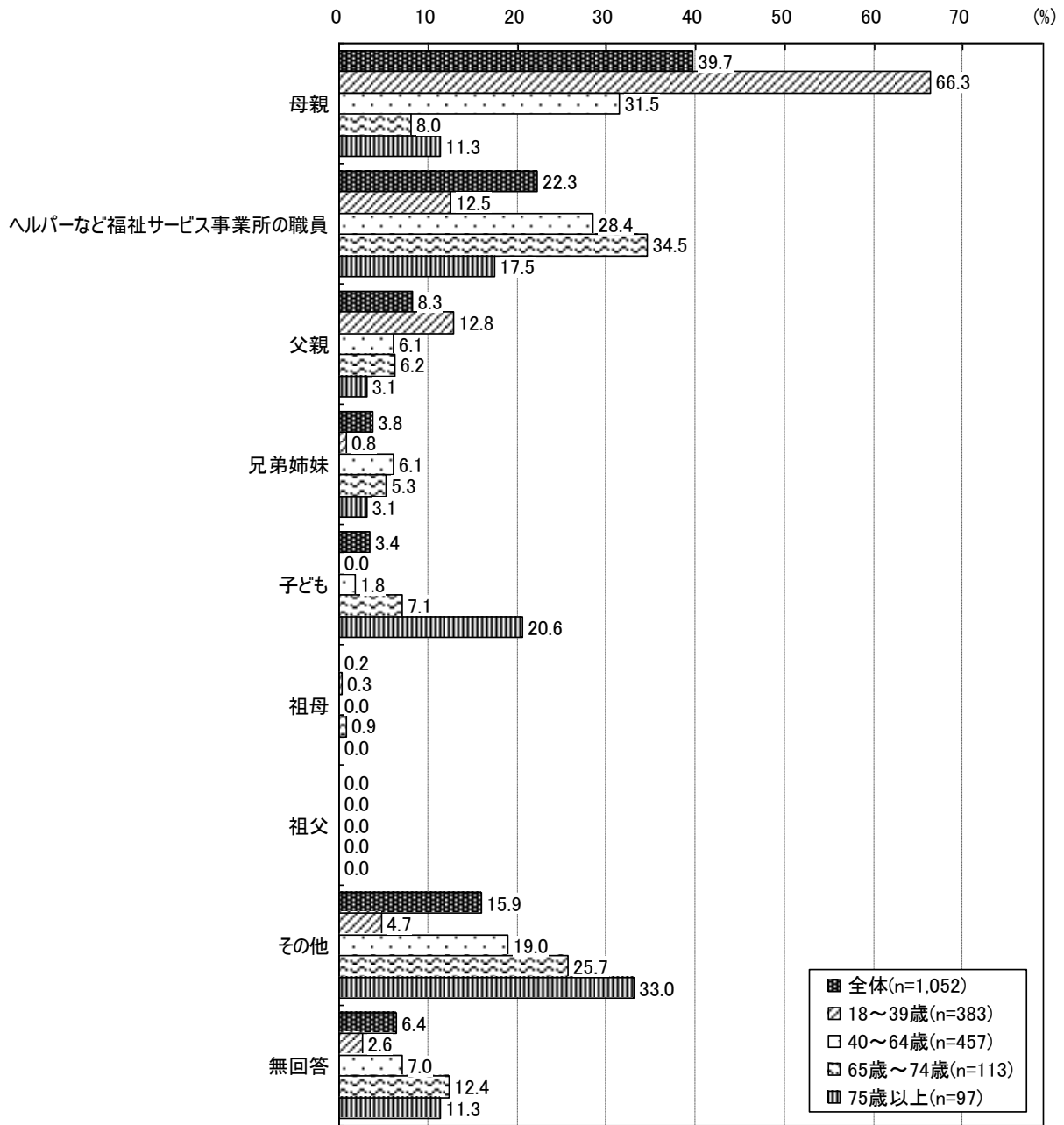
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
外出	49.7	59.2	16.9	52.4	69.4	48.7
買い物	48.3	55.1	21.1	47.6	64.4	46.2
お金の管理	46.2	35.7	16.9	50.0	60.6	43.6
家事	45.7	21.4	15.5	52.4	67.6	35.9
服薬	36.3	26.5	15.5	57.1	51.9	41.0
入浴	34.2	56.1	8.5	42.9	41.2	35.9
文字を読んだり書いたりする	34.2	22.4	12.7	42.9	54.2	28.2
身だしなみを整える	33.7	17.3	8.5	45.2	53.7	28.2
食事	31.3	21.4	15.5	45.2	51.4	33.3
意思疎通	31.1	14.3	7.0	42.9	55.1	23.1
トイレ	25.4	14.3	5.6	40.5	55.1	17.9
服の着脱	21.9	10.2	25.4	50.0	39.4	38.5
家の中の移動	10.5	12.2	5.6	26.2	38.4	10.3
寝返りや起き上がり	7.4	7.1	4.2	26.2	31.0	7.7
その他	5.1	6.1	2.8	7.1	6.9	5.1
特にない	24.0	19.4	52.1	16.7	10.6	15.4
無回答	4.4	3.1	0.0	4.8	3.2	5.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

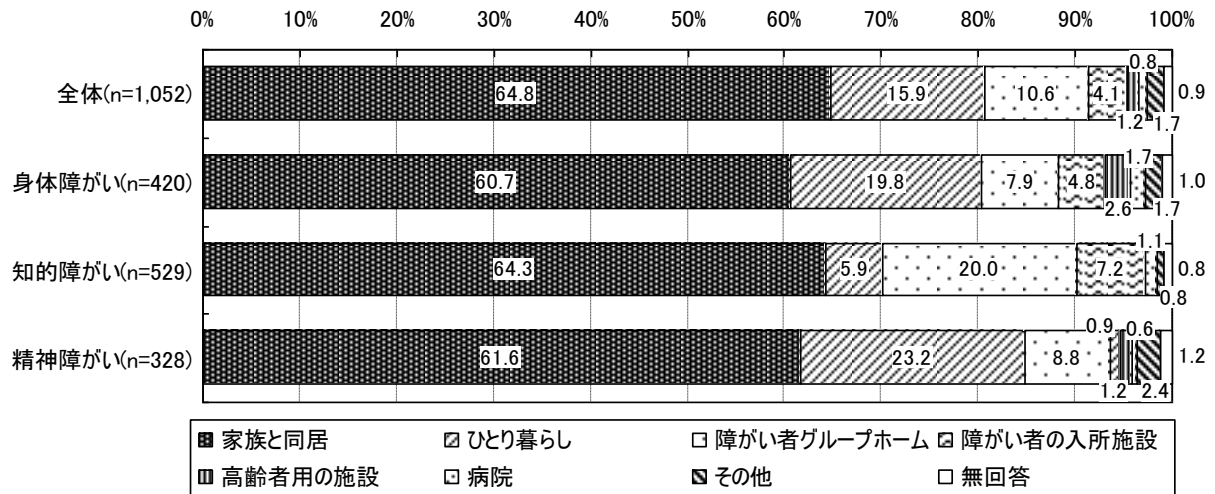
問9 あなたを主に支援しているのはどなたですか。(あてはまるもの1つに○)



- ・「母親」が39.7%、「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」が22.3%、「父親」が8.3%、「兄弟姉妹」が3.8%、「子ども」が3.4%の順となっています。
- ・年齢別にみると、「母親」の割合は本人の年齢が高くなるにつれて減り、「ヘルパーなど福祉サービス事業所の職員」や「子ども」が増えています。
- ・選択肢「その他」の主な記述内容は、「配偶者」「夫」「妻」などとなっています。

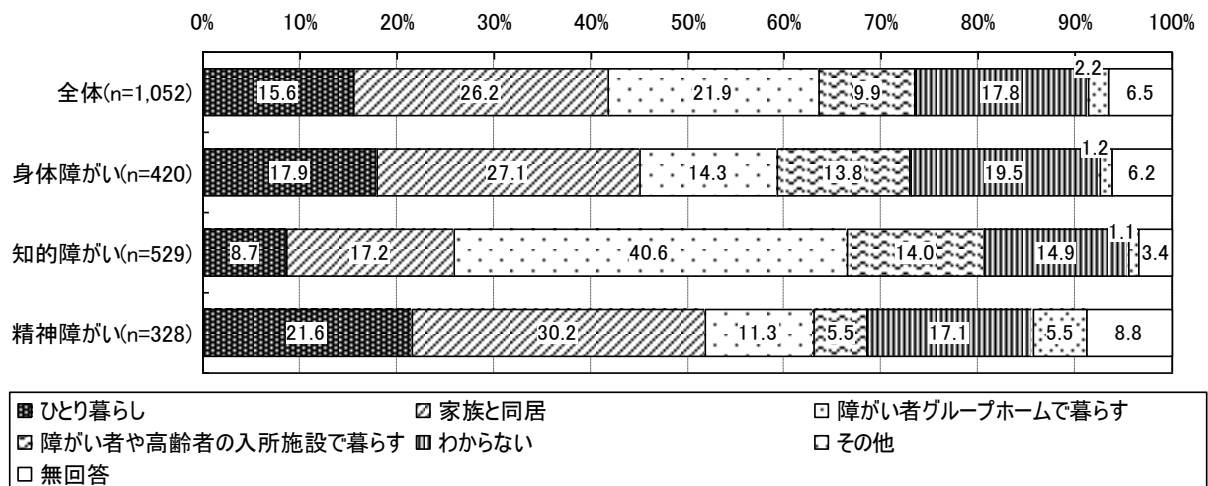
2 生活環境と将来の暮らしについて

問10 あなたはどのようなところで暮らしていますか。(あてはまるもの1つに○)



- ・「家族と同居」が64.8%、「ひとり暮らし」が15.9%、「障がい者グループホーム」が10.6%、「障がい者用の入所施設」が4.1%の順となっています。

問11 あなたは、将来、どのような暮らし方をしたいですか。(あてはまるもの1つに○)



- ・全体では、「家族と同居」が26.2%、「障がい者グループホームで暮らす」が21.9%、「わからない」が17.8%、「ひとり暮らし」が15.6%となっています。
- ・障がいの種類別では、「障がい者グループホームで暮らす」は強度行動障がい46.2%、知的障がい40.6%、発達障がい35.5%と多くみられます。
- ・現在の居住形態別では、「家族と同居」している人の19.6%が「障がい者グループホームで暮らす」を選び、「ひとり暮らし」をしている人の25.7%が「わからない」を選んでいました。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
ひとり暮らし	15.6	17.9	8.7	21.6	12.2	14.3	16.1	8.6
家族と同居	26.2	27.1	17.2	30.2	35.7	21.7	29.0	7.5
障がい者グループホームで暮らす	21.9	14.3	40.6	11.3	9.2	35.5	6.5	46.2
障がい者や高齢者の入所施設で暮らす	9.9	13.8	14.0	5.5	9.2	8.9	16.1	17.2
わからない	17.8	19.5	14.9	17.1	22.4	12.3	22.6	16.1
その他	2.2	1.2	1.1	5.5	3.1	3.0	6.5	2.2
無回答	6.5	6.2	3.4	8.8	8.2	4.4	3.2	2.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(障がい支援区分別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	区分1 (n=19)	区分2 (n=53)	区分3 (n=49)	区分4 (n=118)	区分5 (n=99)	区分6 (n=165)	非該当 (n=1)
ひとり暮らし	15.6	10.5	32.1	16.3	12.7	10.1	6.1	100.0
家族と同居	26.2	31.6	18.9	26.5	22.9	18.2	12.1	0.0
障がい者グループホームで暮らす	21.9	26.3	15.1	18.4	35.6	35.4	43.6	0.0
障がい者や高齢者の入所施設で暮らす	9.9	10.5	1.9	6.1	6.8	12.1	24.8	0.0
わからない	17.8	15.8	15.1	24.5	14.4	18.2	10.9	0.0
その他	2.2	0.0	11.3	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0
無回答	6.5	5.3	5.7	8.2	5.1	6.1	2.4	0.0

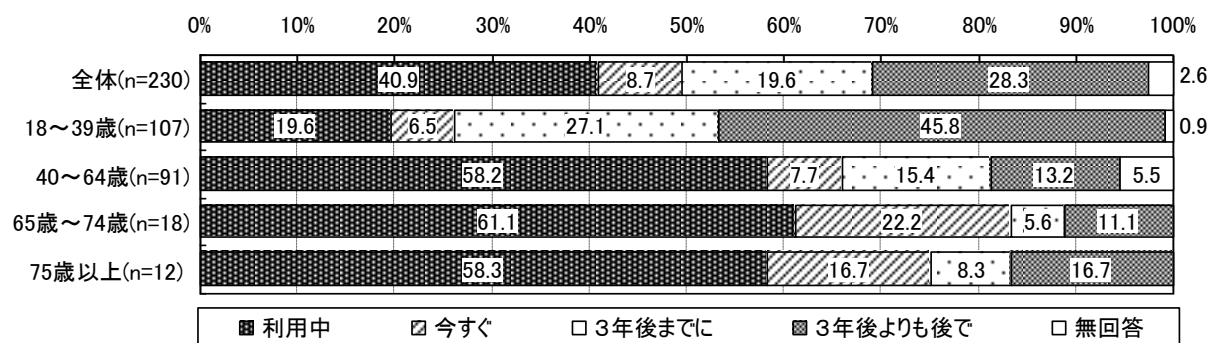
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(現在の暮らし方別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	一人暮らし (n=167)	家族と同居 (n=682)	グループホーム (n=112)	入所施設 (n=43)	高齢者施設 (n=13)	病院 (n=8)	その他 (n=18)
ひとり暮らし	15.6	47.9	10.7	6.3	0.0	0.0	12.5	11.1
家族と同居	26.2	6.0	37.8	0.9	2.3	7.7	0.0	5.6
障がい者グループホームで暮らす	21.9	1.8	19.6	80.4	2.3	0.0	0.0	11.1
障がい者や高齢者の入所施設で暮らす	9.9	3.6	6.7	4.5	72.1	76.9	50.0	5.6
わからない	17.8	25.7	17.0	6.3	20.9	7.7	25.0	38.9
その他	2.2	5.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
無回答	6.5	9.6	6.2	1.8	2.3	7.7	12.5	22.2

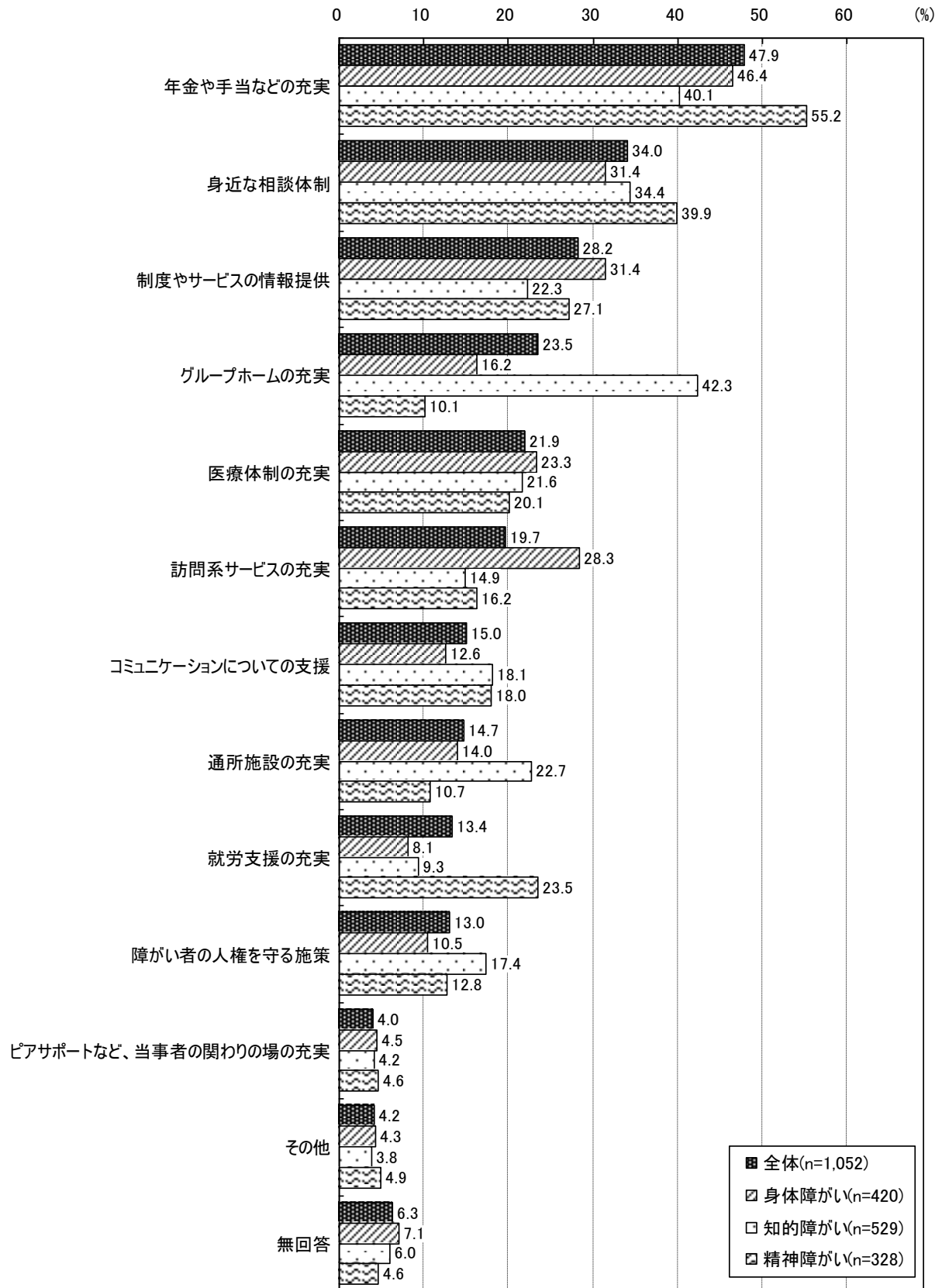
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問12 (問11で「3 障がい者グループホーム」と回答した人) いつからグループホームを利用したいですか。(あてはまるもの1つに○)



- ・「利用中」が40.9%と最も多く、40歳以上では60%前後を占めています。これに次いで「3年後よりも後で」が28.3%、「3年後までに」が19.6%となっており、18歳～39歳で多くみられます。

問13 あなたが、希望する暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)



- ・全体では、「年金や手当などの充実」が47.9%と最も多く、次いで「身近な相談体制」が34.0%、「制度やサービスの情報提供」が28.2%、「グループホームの充実」が23.5%、「医療体制の充実」が21.9%の順となっています。
- ・「グループホームの充実」は強度行動障がい、知的障がい、発達障がい、「医療体制の充実」は難病で、「訪問系サービスの充実」は高次脳機能障がい、「就労支援の充実」が精神障がい、「障がい者の人権を守る施策」は強度行動障がいそれぞれ多くみられます。
- ・「コミュニケーションについての支援」を選んだ人を障がいの種類別にみると、身体障がいでは12.6%、知的障がいでは18.1%、精神障がいでは18.0%となっています。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
年金や手当などの充実	47.9	46.4	40.1	55.2	50.0	47.3	38.7	33.3
身近な相談体制	34.0	31.4	34.4	39.9	24.5	34.0	35.5	26.9
制度やサービスの情報提供	28.2	31.4	22.3	27.1	36.7	25.6	32.3	25.8
グループホームの充実	23.5	16.2	42.3	10.1	11.2	39.9	12.9	48.4
医療体制の充実	21.9	23.3	21.6	20.1	38.8	19.7	22.6	24.7
訪問系サービスの充実	19.7	28.3	14.9	16.2	19.4	11.8	32.3	14.0
コミュニケーションについての支援	15.0	12.6	18.1	18.0	8.2	20.7	9.7	22.6
通所施設の充実	14.7	14.0	22.7	10.7	10.2	17.2	16.1	17.2
就労支援の充実	13.4	8.1	9.3	23.5	12.2	20.7	19.4	7.5
障がい者の人権を守る施策	13.0	10.5	17.4	12.8	11.2	17.2	6.5	31.2
ピアサポートなど、当事者の関わり場の充実	4.0	4.5	4.2	4.6	3.1	3.9	9.7	4.3
その他	4.2	4.3	3.8	4.9	7.1	4.4	3.2	3.2
無回答	6.3	7.1	6.0	4.6	8.2	1.5	6.5	2.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
年金や手当などの充実	47.9	54.1	42.3	38.1	41.7	41.0
身近な相談体制	34.0	39.8	35.2	26.2	28.2	20.5
制度やサービスの情報提供	28.2	36.7	35.2	23.8	27.8	33.3
グループホームの充実	23.5	30.6	15.5	23.8	33.8	30.8
医療体制の充実	21.9	22.4	14.1	19.0	29.2	12.8
訪問系サービスの充実	19.7	4.1	11.3	19.0	22.2	23.1
コミュニケーションについての支援	15.0	9.2	9.9	23.8	17.6	12.8
通所施設の充実	14.7	8.2	26.8	21.4	8.8	12.8
就労支援の充実	13.4	6.1	7.0	14.3	13.4	5.1
障がい者の人権を守る施策	13.0	5.1	9.9	4.8	6.5	15.4
ピアサポートなど、当事者の関わり場の充実	4.0	4.1	1.4	9.5	5.1	5.1
その他	4.2	5.1	5.6	4.8	6.0	0.0
無回答	6.3	8.2	7.0	9.5	6.5	10.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

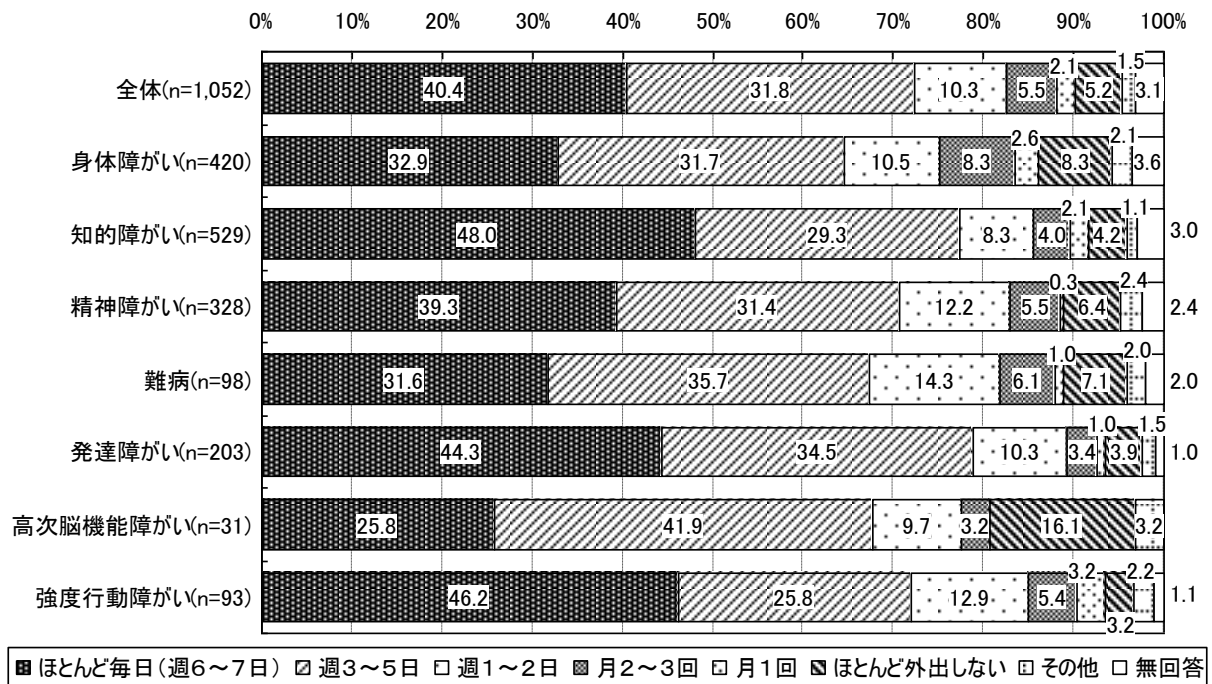
(将来の暮らし方別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	一人暮らし (n=164)	家族と同居 (n=276)	グループホーム (n=230)	入所施設 (n=104)	わからない (n=187)	その他 (n=23)
年金や手当などの充実	47.9	57.3	61.2	33.9	40.4	44.4	60.9
身近な相談体制	34.0	46.3	34.1	25.2	34.6	36.4	47.8
制度やサービスの情報提供	28.2	31.7	32.2	20.0	33.7	31.0	8.7
グループホームの充実	23.5	3.0	5.8	77.8	12.5	15.5	8.7
医療体制の充実	21.9	22.0	26.4	19.1	28.8	18.2	26.1
訪問系サービスの充実	19.7	32.9	25.0	7.0	8.7	24.6	21.7
コミュニケーションについての支援	15.0	10.4	9.4	16.5	33.7	15.5	26.1
通所施設の充実	14.7	5.5	19.9	20.0	20.2	10.2	4.3
就労支援の充実	13.4	23.2	15.6	6.1	2.9	15.5	21.7
障がい者の人権を守る施策	13.0	9.1	10.5	17.0	20.2	15.0	8.7
ピアサポートなど、当事者の関わり場の充実	4.0	3.7	2.9	3.9	4.8	5.9	13.0
その他	4.2	1.8	2.9	1.7	6.7	9.1	8.7
無回答	6.3	2.4	2.2	8.7	2.9	2.7	4.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

3 日中活動の状況と就労に対する意識

問14 あなたは、どれくらい外出しますか。(〇は1つ)



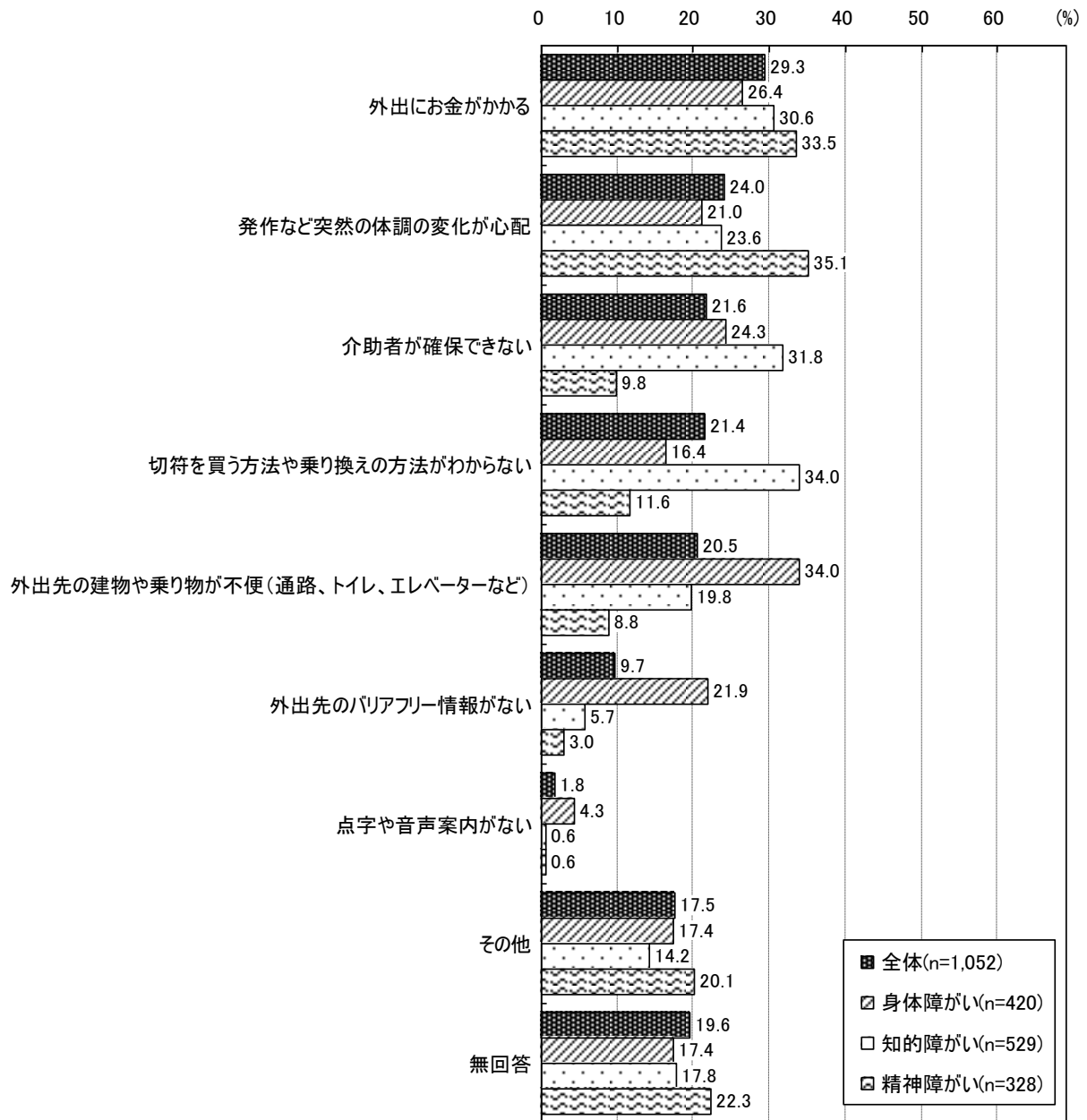
- ・全体では、「ほとんど毎日（週6～7日）」が40.4%、「週3～5日」が31.8%、「週1～2日」が10.3%となっています。
- ・障がいの種類別にみると、知的障がいのある人の48.0%が「ほとんど毎日（週6～7日）」外出しており、他の障がい種別に比べて割合が高くなっています。
- ・また、身体障がいの種類別にみると、聴覚・平衡機能障がいのある人の46.5%が「ほとんど毎日（週6～7日）」外出しており、他の身体障がいの種類に比べて割合が高くなっています。

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
ほとんど毎日(週6~7日)	32.9	28.6	46.5	28.6	32.4	23.1
週3～5日	31.7	34.7	32.4	31.0	29.6	33.3
週1～2日	10.5	10.2	7.0	11.9	10.6	17.9
月2～3回	8.3	11.2	5.6	9.5	8.3	5.1
月1回	2.6	4.1	2.8	0.0	2.8	5.1
ほとんど外出しない	8.3	7.1	1.4	9.5	9.3	10.3
その他	2.1	2.0	1.4	0.0	2.8	0.0
無回答	3.6	2.0	2.8	9.5	4.2	5.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問15 あなたは、外出するとき、どのようなことに困っていますか。(あてはまるものすべてに○)



- ・ 全体では、「外出にお金がかかる」が29.3%と最も多く、次いで「発作など突然の体調の変化が心配」が24.0%、「介助者が確保できない」が21.6%、「切符を買う方法や乗り換えの方法がわからない」が21.4%、「外出先の建物や乗り物が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」が20.5%の順となっています。選択肢「その他」の主な記述内容は、「意思疎通が難しい」「人混みに耐えられない」「大きな声を出す人が苦手」「視覚過敏によって気分が悪くなる」などとなっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、身体障がいでは「外出先の建物や乗り物が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」（34.0%）が最も多く、次いで「外出にお金がかかる」（26.4%）、「介助者が確保できない」（24.3%）となっています。

知的障がいでは「切符を買う方法や乗り換えの方法がわからない」(34.0%)が最も多く、次いで「介助者が確保できない」(31.8%)、「外出にお金がかかる」(30.6%)となっています。

精神障がいでは「発作など突然の体調の変化が心配」(35.1%)が最も多く、次いで「外出にお金がかかる」(33.5%)、「その他」(20.1%)となっています。

発達障がいでは「外出にお金がかかる」(37.4%)が最も多く、高次脳機能障がいでは「発作など突然の体調の変化が心配」(41.9%)が最も多く、強度行動障がいでは「介助者が確保できない」(51.6%)が最も多くなっています。

・「外出先のバリアフリー情報がない」は全体で9.7%ですが、身体障がいでは21.9%、難病では15.3%となっています。

また、「点字や音声案内がない」は全体で1.8%ですが、身体障がいでは4.3%となっており、身体障がいの種類別で見ると、視覚障がいのある人の17.3%が選んでいます。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
外出にお金がかかる	29.3	26.4	30.6	33.5	18.4	37.4	32.3	48.4
発作など突然の体調の変化が心配	24.0	21.0	23.6	35.1	28.6	27.6	41.9	35.5
介助者が確保できない	21.6	24.3	31.8	9.8	13.3	27.1	29.0	51.6
切符を買う方法や乗り換えの方法がわからない	21.4	16.4	34.0	11.6	8.2	28.6	19.4	40.9
外出先の建物や乗り物が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	20.5	34.0	19.8	8.8	27.6	14.3	29.0	19.4
外出先のバリアフリー情報がない	9.7	21.9	5.7	3.0	15.3	3.0	19.4	3.2
点字や音声案内がない	1.8	4.3	0.6	0.6	1.0	0.0	3.2	0.0
その他	17.5	17.4	14.2	20.1	24.5	20.7	19.4	23.7
無回答	19.6	17.4	17.8	22.3	22.4	13.8	12.9	7.5

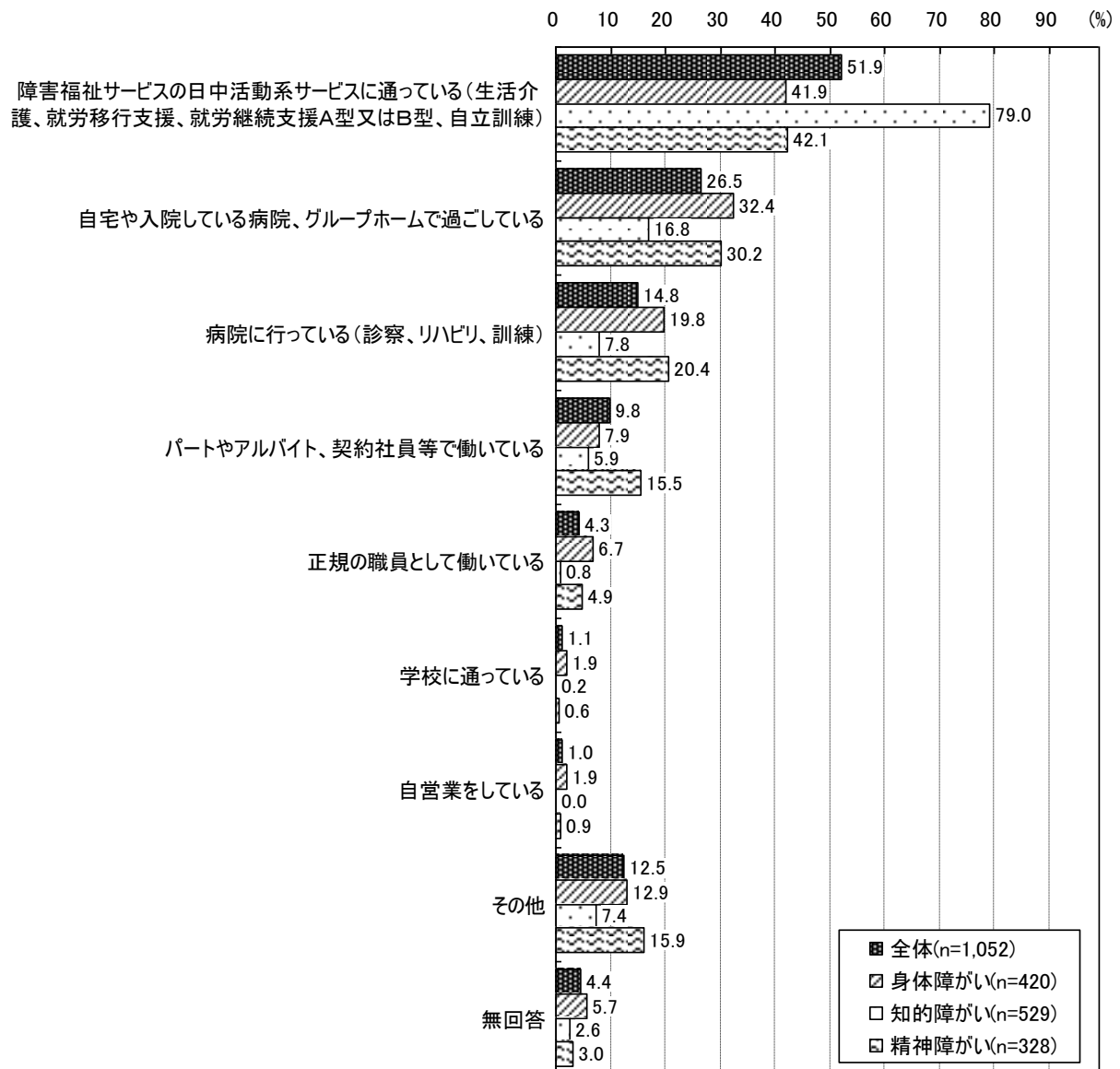
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
外出にお金がかかる	29.3	22.4	22.5	31.0	28.7	25.6
発作など突然の体調の変化が心配	24.0	14.3	15.5	26.2	25.0	33.3
介助者が確保できない	21.6	20.4	12.7	35.7	33.8	17.9
切符を買う方法や乗り換えの方法がわからない	21.4	19.4	7.0	28.6	15.3	17.9
外出先の建物や乗り物が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	20.5	36.7	14.1	40.5	45.4	20.5
外出先のバリアフリー情報がない	9.7	23.5	12.7	31.0	28.7	5.1
点字や音声案内がない	1.8	17.3	0.0	2.4	0.9	0.0
その他	17.5	19.4	25.4	14.3	13.9	15.4
無回答	19.6	13.3	25.4	21.4	14.8	20.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問16 あなたは、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。（時間が長いもの3つまでに○）



- ・全体では、「障害福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）」が51.9%、次いで「自宅や入院している病院、グループホームで過ごしている」が26.5%となっています。
- ・障がいの種類別にみると、身体障がいでは「正規の職員として働いている」を選んだ人が6.7%と、全体の4.3%に比べて割合が高くなっています。
知的障がいでは「障害福祉サービスの日中活動系サービスに通っている（生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型又はB型、自立訓練）」を選んだ人が79.0%と、全体の51.9%に比べて割合が高くなっています。
精神障がいでは「パートやアルバイト、契約社員等で働いている」を選んだ人が15.5%と全体の9.8%に比べて割合が高くなっています。

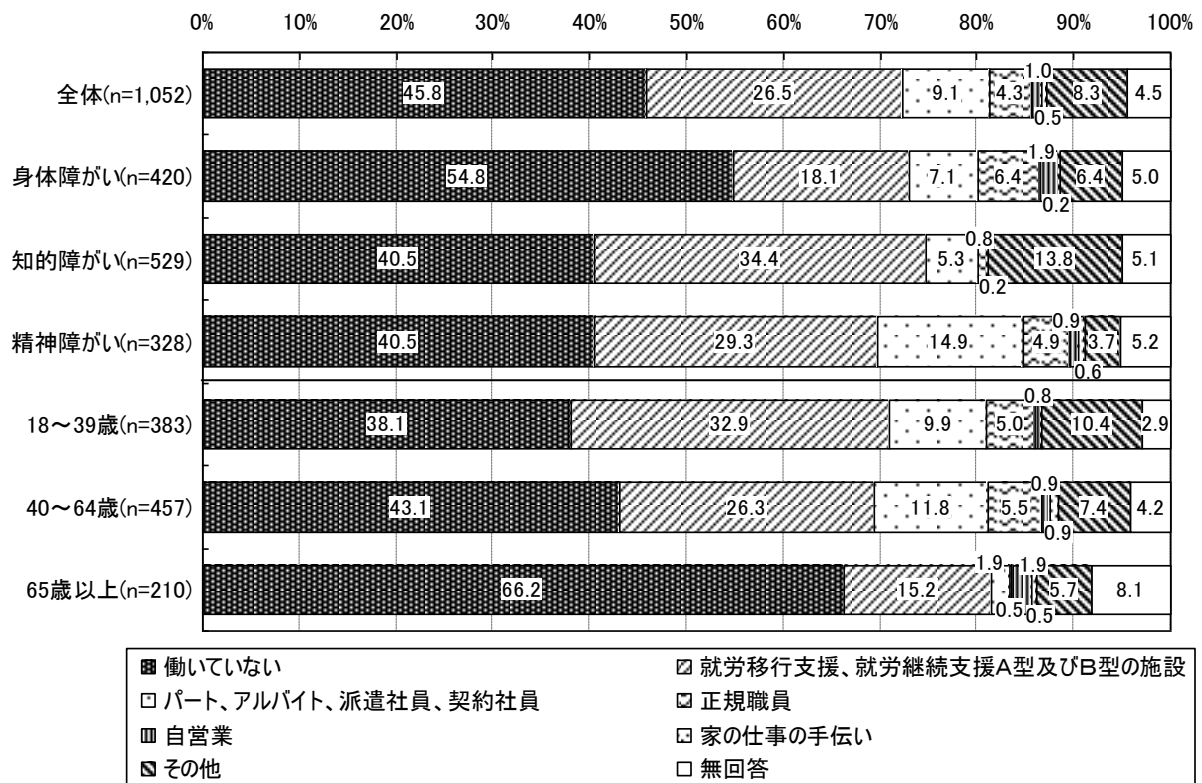
*** 吹田市 第7期障がい福祉計画の策定に向けたアンケート ***

(障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
障がい福祉サービスの 日中活動系サービスに 通っている	51.9	41.9	79.0	42.1	28.6	70.4	35.5	83.9
自宅や入院している病 院、グループホームで 過ごしている	26.5	32.4	16.8	30.2	35.7	19.2	32.3	23.7
病院に行っている	14.8	19.8	7.8	20.4	23.5	11.3	6.5	10.8
パートやアルバイト、契 約社員等で働いている	9.8	7.9	5.9	15.5	9.2	10.8	12.9	4.3
正規の職員として働い ている	4.3	6.7	0.8	4.9	0.0	3.4	3.2	0.0
学校に通っている	1.1	1.9	0.2	0.6	1.0	1.5	0.0	0.0
自営業をしている	1.0	1.9	0.0	0.9	3.1	0.0	3.2	0.0
その他	12.5	12.9	7.4	15.9	22.4	8.4	16.1	6.5
無回答	4.4	5.7	2.6	3.0	8.2	1.5	3.2	1.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問17 あなたは、現在、どのような仕事をしていますか。(あてはまるもの1つに○)



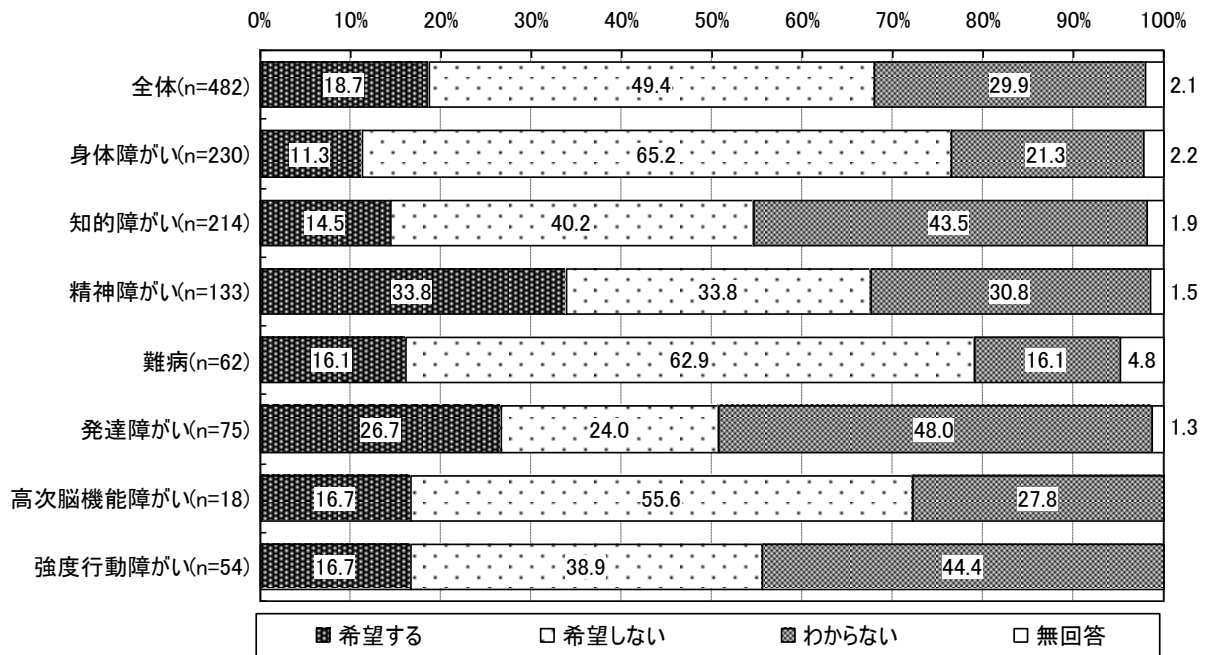
- ・何らかの形で働いている人は49.7%で、働いていない人が45.8%、無回答が4.5%となっています。内容別にみると、「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」が26.5%、「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」が9.1%、「正規職員」が4.3%となっています。
- ・年齢別にみると、「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」は年齢が若いほど、「働いていない」は年齢が高いほど多くみられます。
- ・障がいの種類別にみると、難病、高次脳機能障がい、強度行動障がいで「働いていない」が多くみられます。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
働いていない	45.8	54.8	40.5	40.5	63.3	36.9	58.1	58.1
就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設	26.5	18.1	34.4	29.3	13.3	33.5	19.4	18.3
パート、アルバイト、派遣社員、契約社員	9.1	7.1	5.3	14.9	9.2	10.3	12.9	5.4
正規職員	4.3	6.4	0.8	4.9	0.0	3.4	3.2	0.0
自営業	1.0	1.9	0.0	0.9	3.1	0.0	3.2	0.0
家の仕事の手伝い	0.5	0.2	0.2	0.6	1.0	0.5	0.0	0.0
その他	8.3	6.4	13.8	3.7	4.1	12.8	3.2	16.1
無回答	4.5	5.0	5.1	5.2	6.1	2.5	0.0	2.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問18 (問17で「1 働いていない」と回答した人) あなたは、働くことを希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

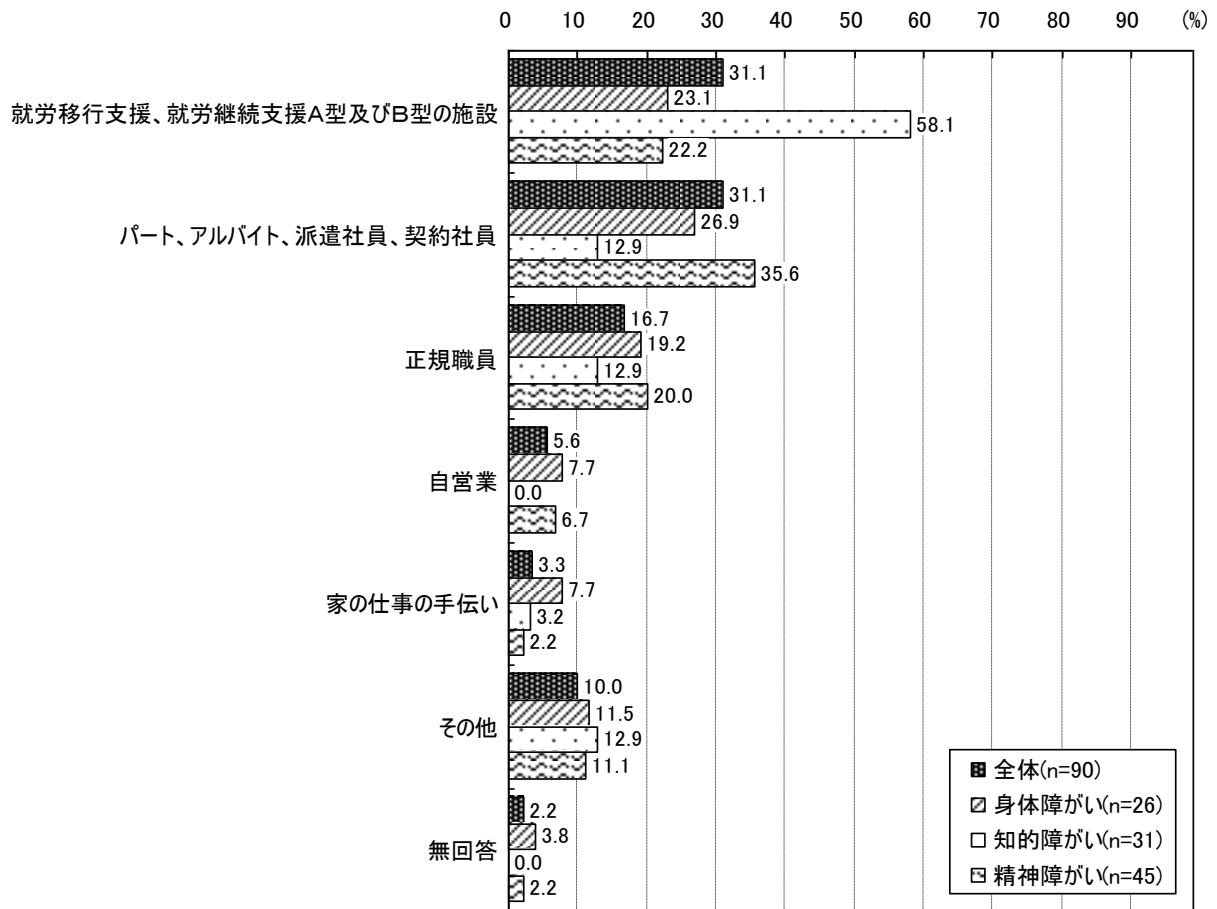


- ・現在働いていない人で今後も働くことを「希望しない」と答えた人は49.4%となっています。
- ・「希望する」と答えた人が多いのは、精神障がい(33.8%)、発達障がい(26.7%)となっています。
- ・年齢別にみると、18～39歳の方は「わからない」を選んだ方が43.2%と最も多く、次いで「希望する」と「希望しない」が28.1%で同じ割合となっています。

(年齢別クロス集計)

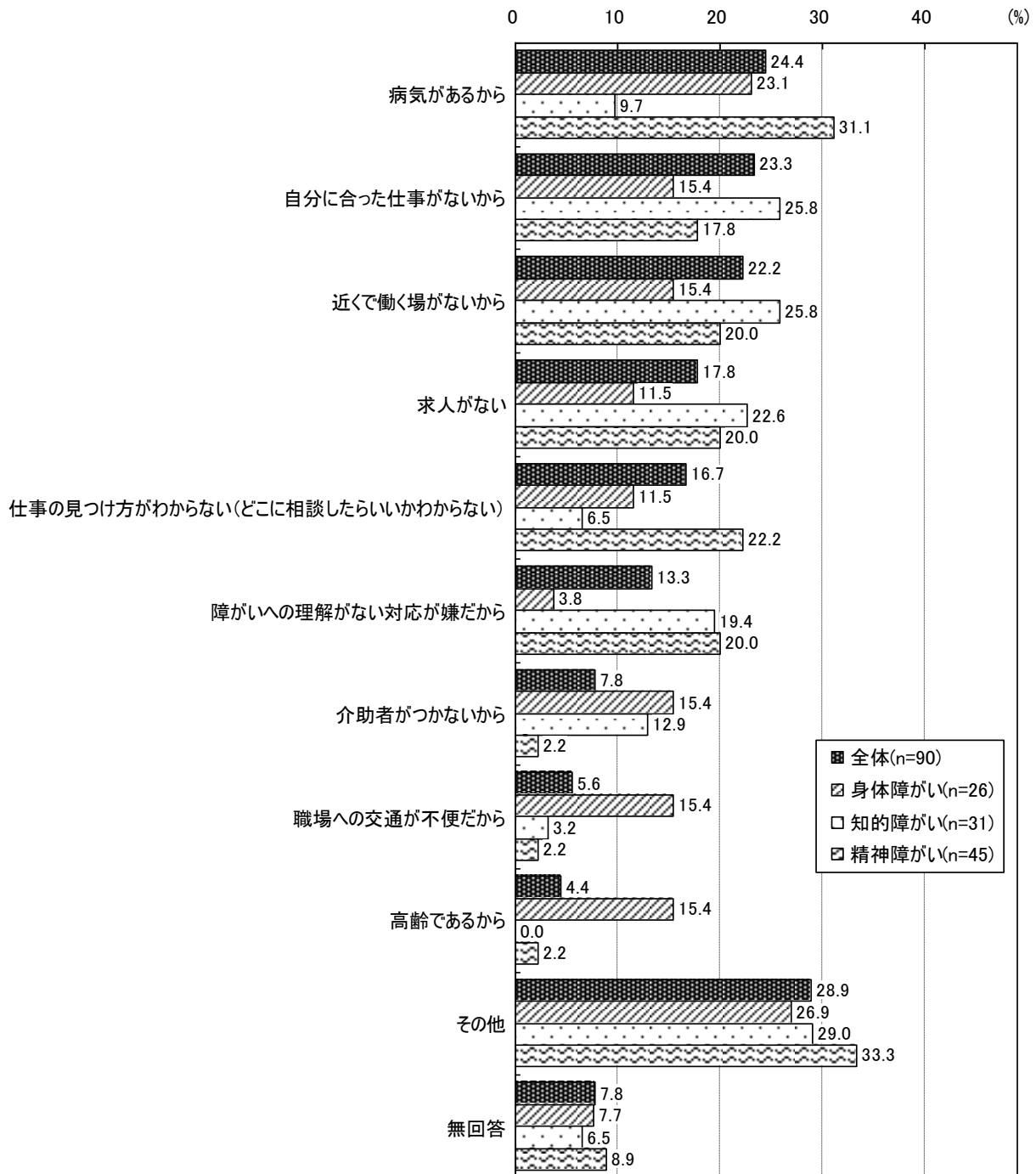
単位：%	全体 (n=482)	18歳～39歳 (n=146)	40歳～64歳 (n=197)	65歳～74歳 (n=69)	75歳以上 (n=70)
(働くことを) 希望する	18.7	28.1	21.8	7.2	1.4
(働くことを) 希望しない	49.4	28.1	44.2	69.6	88.6
わからない	29.9	43.2	32.5	15.9	8.6
無回答	2.1	0.7	1.5	7.2	1.4

問19 (問18で「1 希望する」と回答した人) あなたは、どのような仕事を希望しますか。(あてはまるもの1つに○)



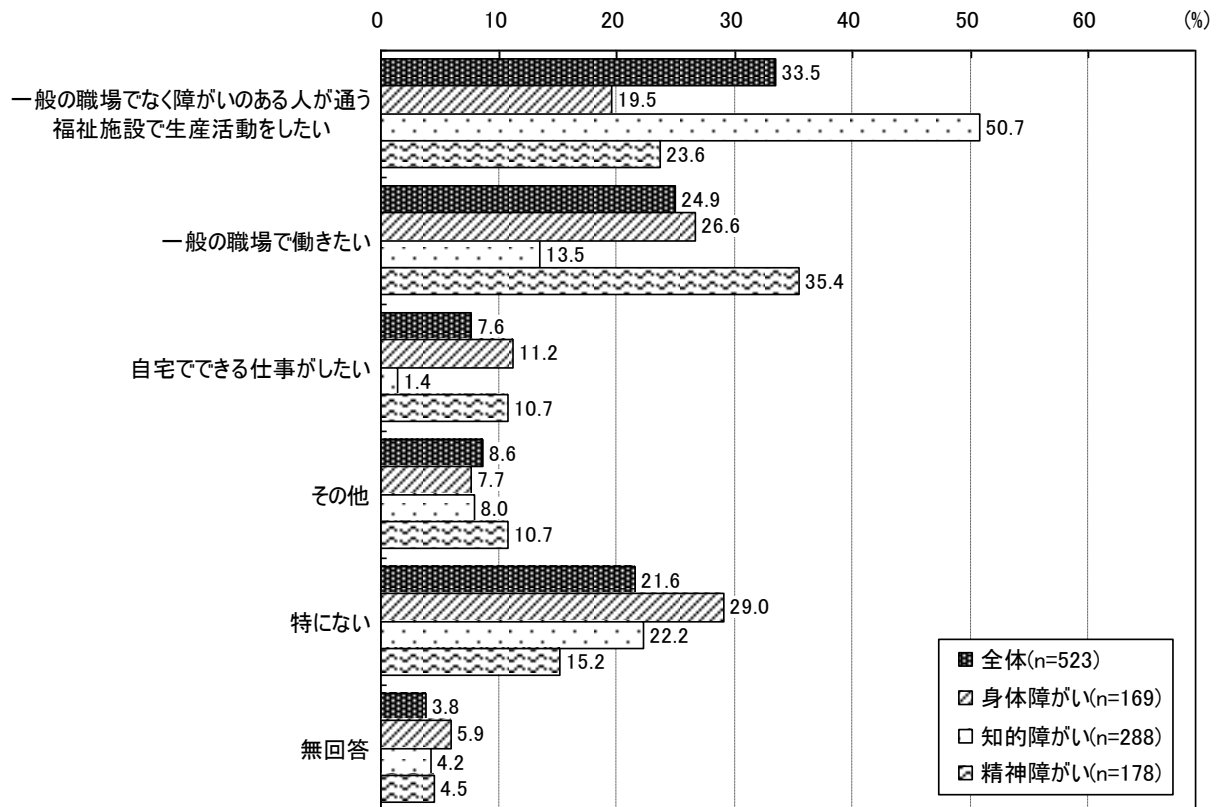
- ・全体では、「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」と「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」がそれぞれ31.1%、次いで「正規職員」が16.7%となっています。
- ・障がいの種類別にみると、身体障がいのある人（26.9%）と精神障がいのある人（35.6%）は「パート、アルバイト、派遣社員、契約社員」を選んだ人が最も多く、知的障がいのある人（58.1%）は「就労移行支援、就労継続支援A型及びB型の施設」を選んだ人が最も多くなっています。

問20 (問18で「1 希望する」と回答した人) あなたが、希望する仕事に就けない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)



- ・「病気があるから」が24.4%、「自分に合った仕事がないから」が23.3%、「近くで働く場がないから」が22.2%、「求人がない」が17.8%、「仕事の見つけ方がわからない(どこに相談したらいいかわからない)」が16.7%の順に多くなっています。
- ・「その他」の記述内容として書かれた主な内容は、学生のため、必要なスキルがないから、コミュニケーションを必要とする仕事がほとんどであるため、医師から止められているためなどとなっています。

問21 (問17で2～7までのいずれかと回答した人) あなたは、どのような働き方を希望されますか。(あてはまるもの1つに○)



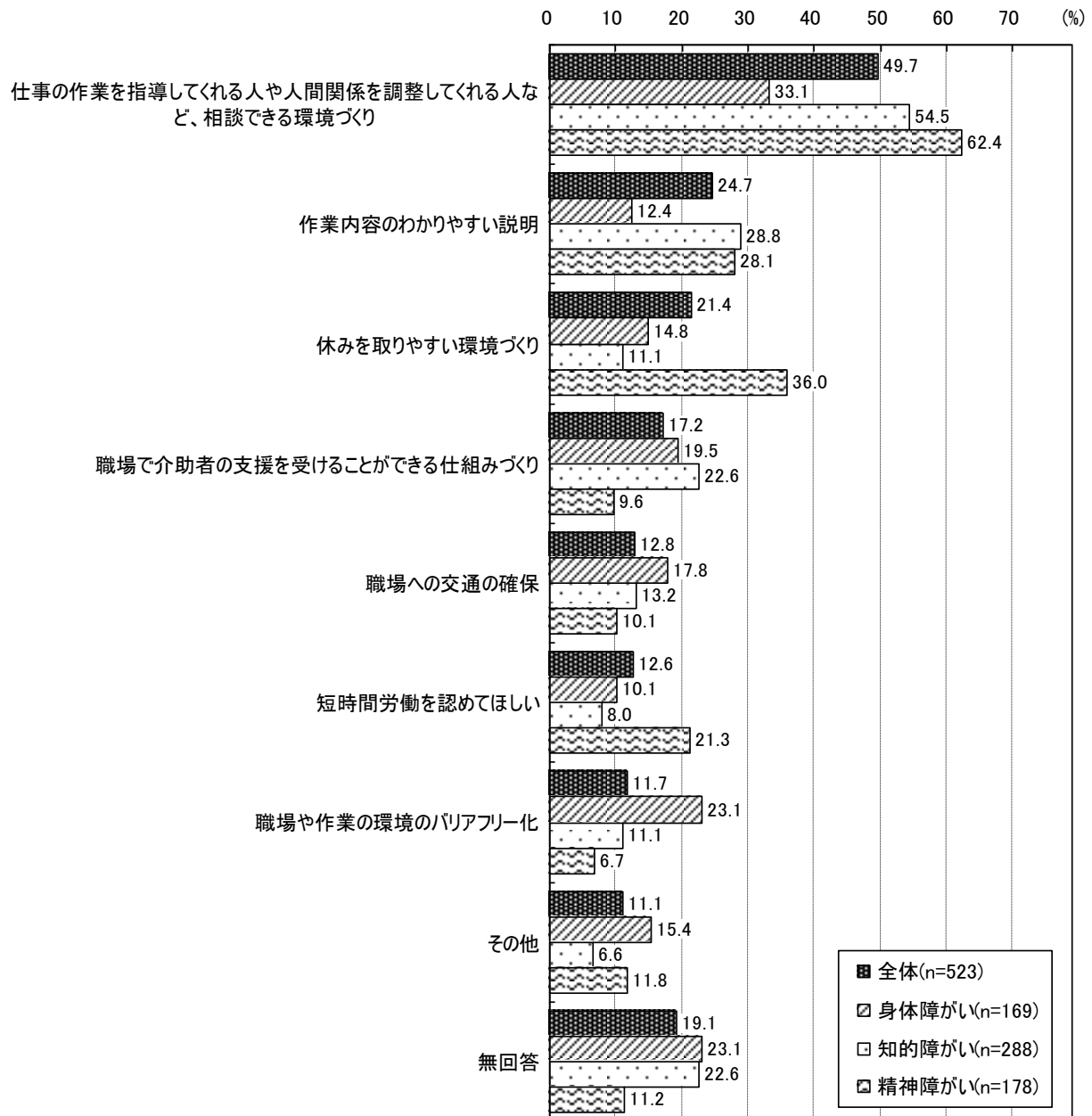
- ・ 現在何らかの形で働いている人にどのような働き方を希望するか尋ねたところ、全体では、「一般の職場でなく障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」が33.5%、「一般の職場で働きたい」が24.9%、「特にない」が21.6%となっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、「一般の職場でなく障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい」は強度行動障がいや知的障がい、「一般の職場で働きたい」は精神障がいなどでそれぞれ多くみられます。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=523)	身体障がい (n=169)	知的障がい (n=288)	精神障がい (n=178)	難病 (n=30)	発達障がい (n=123)	高次脳機能 (n=13)	強度行動 (n=37)
一般の職場でなく障がいのある人が通う福祉施設で生産活動をしたい	33.5	19.5	50.7	23.6	20.0	37.4	15.4	56.8
一般の職場で働きたい	24.9	26.6	13.5	35.4	23.3	25.2	38.5	13.5
自宅でできる仕事がしたい	7.6	11.2	1.4	10.7	6.7	7.3	15.4	0.0
その他	8.6	7.7	8.0	10.7	13.3	13.8	15.4	8.1
特にない	21.6	29.0	22.2	15.2	33.3	12.2	7.7	21.6
無回答	3.8	5.9	4.2	4.5	3.3	4.1	7.7	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問22 (問17で2～7までのいずれかと回答した人) あなたの現在の仕事に必要な支援は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)



- ・ 現在何らかの形で働いている人に現在の仕事に必要な支援を尋ねたところ、全体では、「仕事の作業を指導してくれる人や人間関係を調整してくれる人など、相談できる環境がほしい」が49.7%と最も多く、次いで「作業内容のわかりやすい説明」が24.7%、「休みを取りやすい環境づくり」が21.4%、「職場で介助者の支援を受けることができる仕組みづくり」が17.2%などとなっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、「仕事の作業を指導してくれる人や人間関係を調整してくれる人など、相談できる環境づくり」は精神障がいでは62.4%を占めています。
- ・ また、身体障がいでは「職場や作業の環境のバリアフリー」を選んだ人が23.1%と、全体の11.7%に比べて高い割合となっています。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=523)	身体障がい (n=169)	知的障がい (n=288)	精神障がい (n=178)	難病 (n=30)	発達障がい (n=123)	高次脳機能 (n=13)	強度行動 (n=37)
仕事の作業を指導してくれる人や人間関係を調整してくれる人など、相談できる環境づくり	49.7	33.1	54.5	62.4	10.0	58.5	38.5	59.5
作業内容のわかりやすい説明	24.7	12.4	28.8	28.1	6.7	30.1	7.7	35.1
休みを取りやすい環境づくり	21.4	14.8	11.1	36.0	23.3	18.7	15.4	16.2
職場で介助者の支援を受けることができる仕組みづくり	17.2	19.5	22.6	9.6	13.3	17.1	30.8	40.5
職場への交通の確保	12.8	17.8	13.2	10.1	20.0	12.2	30.8	13.5
短時間労働を認めてほしい	12.6	10.1	8.0	21.3	6.7	13.8	15.4	2.7
職場や作業の環境のバリアフリー化	11.7	23.1	11.1	6.7	10.0	7.3	7.7	5.4
その他	11.1	15.4	6.6	11.8	20.0	8.9	23.1	8.1
無回答	19.1	23.1	22.6	11.2	33.3	18.7	15.4	13.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

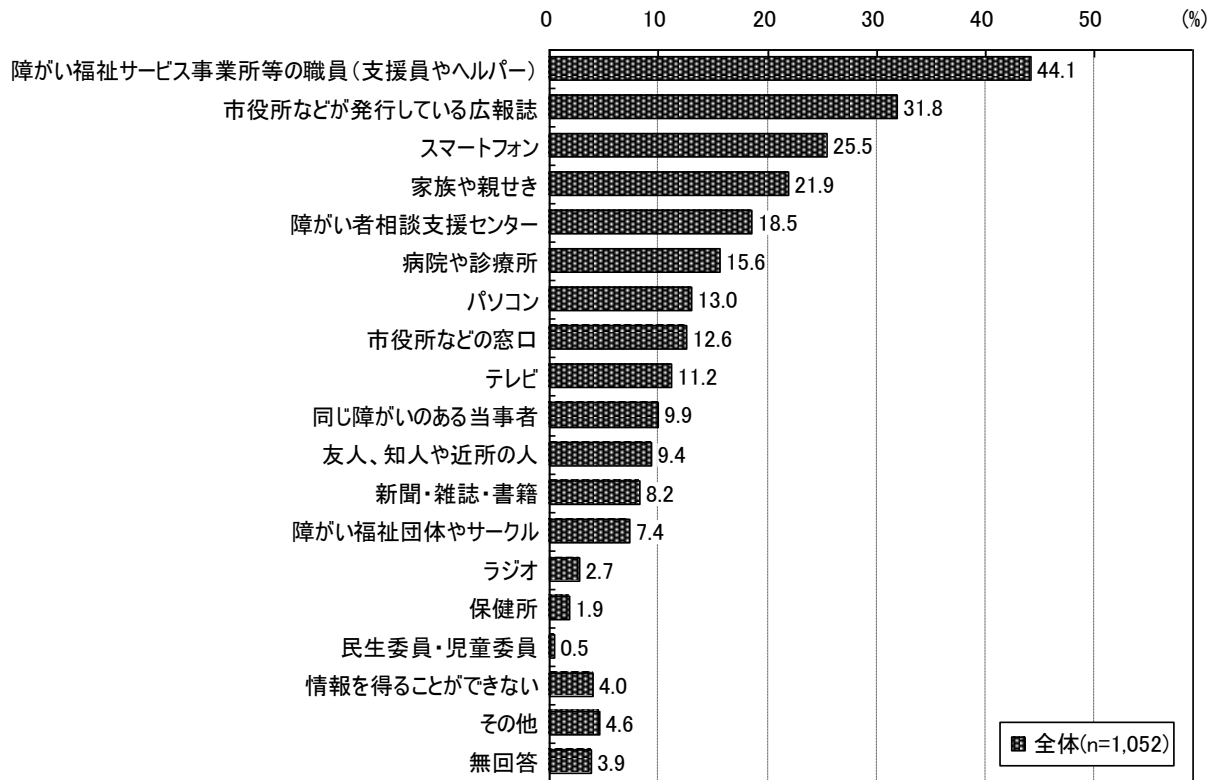
(障がい支援区分別クロス集計)

単位：％	全体 (n=523)	区分1 (n=8)	区分2 (n=32)	区分3 (n=26)	区分4 (n=68)	区分5 (n=53)	区分6 (n=61)	非該当 (n=1)
仕事の作業を指導してくれる人や人間関係を調整してくれる人など、相談できる環境づくり	49.7	50.0	56.3	53.8	55.9	47.2	45.9	0.0
作業内容のわかりやすい説明	24.7	25.0	18.8	26.9	29.4	15.1	19.7	0.0
休みを取りやすい環境づくり	21.4	25.0	25.0	11.5	5.9	5.7	6.6	100.0
職場で介助者の支援を受けることができる仕組みづくり	17.2	12.5	6.3	15.4	20.6	32.1	41.0	0.0
職場への交通の確保	12.8	25.0	6.3	7.7	19.1	20.8	18.0	0.0
短時間労働を認めてほしい	12.6	0.0	15.6	11.5	8.8	7.5	8.2	0.0
職場や作業の環境のバリアフリー化	11.7	25.0	9.4	7.7	8.8	20.8	16.4	0.0
その他	11.1	0.0	9.4	11.5	8.8	5.7	4.9	0.0
無回答	19.1	25.0	18.8	23.1	17.6	22.6	26.2	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

4 情報入手や相談支援に関する状況

問23 あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)



- ・全体では、「障がい福祉サービス事業所等の職員(支援員やヘルパー)」が44.1%と最も多く、次いで「市役所などが発行している広報誌」が31.8%、「スマートフォン」が25.5%、「家族や親せき」が21.9%、「障がい者相談支援センター」が18.5%の順となっています。
- ・年齢別にみると、「市役所などが発行している広報誌」は年齢が高いほど、「スマートフォン」は年齢が低いほど多くみられます。また、「家族や親せき」は18～39歳で全体より高い割合となっており、「テレビ」は65～74歳、75歳以上で全体より高い割合となっています。
- ・障がいの種類別にみると、「スマートフォン」は精神障がい、難病、発達障がいなどで全体より高い割合となっており、「障がい福祉サービス事業所等の職員(支援員やヘルパー)」は知的障がい、発達障がい、強度行動障がい、高次脳機能障がいなどで全体より高い割合となっています。また、「病院や診療所」は精神障がい、発達障がい、難病、高次脳機能障がいなどで全体より高い割合となっています。
- ・身体障がいの種類別にみると、視覚障がいのある人は「同じ障がいのある当事者」が全体9.9%に比べて17.3%、「家族や親せき」が全体21.9%に比べて28.6%、「ラジオ」が全体2.7%に比べて18.4%と高い割合で選んでいます。

聴覚・平衡機能障がいのある人は、「パソコン」が全体13.0%に比べて21.1%、「スマートフォン」が全体25.5%に比べて40.8%、「友人、知人や近所の人」が全体9.4%に比べて18.3%、「テレビ」が全体11.2%に比べて19.7%と高い割合で選んでいます。

音声・言語、そしゃく機能障がいのある人は、「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」、「障がい福祉団体やサークル」、「テレビ」を選んだ人の割合が、全体に比べて高くなっています。

(年齢別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	18歳～39歳 (n=383)	40歳～64歳 (n=457)	65歳～74歳 (n=113)	75歳以上 (n=97)
障がい福祉サービス事業所等の職員	44.1	46.2	44.6	45.1	32.0
市役所などが発行している広報誌	31.8	23.8	32.4	43.4	48.5
スマートフォン	25.5	33.7	25.2	15.9	6.2
家族や親せき	21.9	32.1	14.7	15.9	20.6
障がい者相談支援センター	18.5	21.9	19.7	8.8	11.3
病院や診療所	15.6	15.4	18.2	8.8	12.4
パソコン	13.0	13.8	15.3	8.8	4.1
市役所などの窓口	12.6	11.2	15.8	8.0	9.3
テレビ	11.2	7.3	11.4	19.5	16.5
同じ障がいのある当事者	9.9	12.0	10.9	4.4	3.1
友人、知人や近所の人	9.4	12.0	7.4	7.1	11.3
新聞・雑誌・書籍	8.2	4.7	8.3	15.9	12.4
障がい福祉団体やサークル	7.4	8.9	6.8	8.8	3.1
ラジオ	2.7	0.3	2.8	6.2	7.2
保健所	1.9	1.3	2.2	1.8	3.1
民生委員・児童委員	0.5	0.0	0.4	1.8	1.0
情報を得ることができない	4.0	3.1	4.6	1.8	7.2
その他	4.6	3.4	4.6	8.8	4.1
無回答	3.9	2.6	3.5	3.5	11.3

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
障がい福祉サービス事業所等の職員	44.1	42.9	58.2	37.5	34.7	47.8	61.3	68.8
市役所などが発行している広報誌	31.8	33.8	22.1	28.0	57.1	25.6	32.3	20.4
スマートフォン	25.5	22.6	14.6	35.1	34.7	32.5	25.8	20.4
家族や親せき	21.9	23.6	25.3	16.2	12.2	22.7	29.0	24.7
障がい者相談支援センター	18.5	19.5	23.3	20.1	13.3	20.2	12.9	19.4
病院や診療所	15.6	12.1	8.9	30.2	25.5	19.2	16.1	9.7
パソコン	13.0	13.3	5.7	18.3	15.3	14.3	9.7	11.8
市役所などの窓口	12.6	12.6	14.4	13.1	12.2	15.3	9.7	16.1
テレビ	11.2	15.2	7.6	9.5	17.3	7.4	12.9	4.3
同じ障がいのある当事者	9.9	12.9	9.5	9.5	10.2	7.4	9.7	9.7
友人、知人や近所の人	9.4	10.2	8.5	7.9	9.2	10.8	16.1	11.8
新聞・雑誌・書籍	8.2	9.5	4.0	9.1	16.3	3.9	9.7	4.3
障がい福祉団体やサークル	7.4	7.9	11.2	3.0	6.1	10.3	3.2	16.1
ラジオ	2.7	5.2	0.0	1.5	1.0	0.5	6.5	0.0
保健所	1.9	2.1	1.1	2.1	9.2	0.0	3.2	0.0
民生委員・児童委員	0.5	0.7	0.4	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0
情報を得ることができない	4.0	4.5	4.0	3.7	5.1	3.4	3.2	6.5
その他	4.6	3.8	5.1	5.8	3.1	4.9	3.2	4.3
無回答	3.9	3.8	4.7	3.0	5.1	2.5	3.2	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
障がい福祉サービス事業所等の職員	44.1	32.7	19.7	59.5	57.4	46.2
市役所などが発行している広報誌	31.8	35.7	42.3	35.7	31.0	17.9
スマートフォン	25.5	19.4	40.8	21.4	21.3	23.1
家族や親せき	21.9	28.6	26.8	14.3	22.7	25.6
障がい者相談支援センター	18.5	14.3	12.7	23.8	26.4	7.7
病院や診療所	15.6	11.2	11.3	9.5	12.5	17.9
パソコン	13.0	11.2	21.1	11.9	13.9	2.6
市役所などの窓口	12.6	13.3	9.9	16.7	15.3	10.3
テレビ	11.2	16.3	19.7	23.8	12.0	10.3
同じ障がいのある当事者	9.9	17.3	9.9	11.9	11.6	10.3
友人、知人や近所の人	9.4	11.2	18.3	14.3	7.9	10.3
新聞・雑誌・書籍	8.2	10.2	12.7	11.9	8.8	2.6
障がい福祉団体やサークル	7.4	8.2	5.6	14.3	9.3	2.6
ラジオ	2.7	18.4	1.4	0.0	2.3	0.0
保健所	1.9	4.1	0.0	0.0	1.4	2.6
民生委員・児童委員	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
情報を得ることができない	4.0	6.1	1.4	2.4	3.7	7.7
その他	4.6	5.1	2.8	2.4	3.7	2.6
無回答	3.9	3.1	5.6	9.5	4.2	0.0

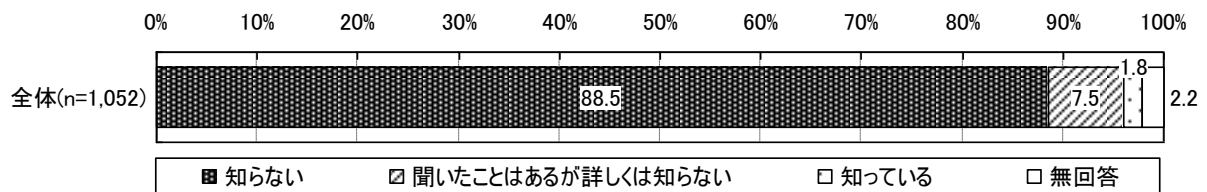
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(障がい支援区分別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	区分1 (n=19)	区分2 (n=53)	区分3 (n=49)	区分4 (n=118)	区分5 (n=99)	区分6 (n=165)	非該当 (n=1)
障がい福祉サービス事業所等の職員	44.1	52.6	39.6	40.8	58.5	70.7	69.1	0.0
市役所などが発行している広報誌	31.8	52.6	35.8	22.4	24.6	30.3	24.8	0.0
スマートフォン	25.5	26.3	34.0	14.3	14.4	21.2	12.7	100.0
家族や親せき	21.9	15.8	15.1	28.6	32.2	22.2	27.3	0.0
障がい者相談支援センター	18.5	31.6	17.0	12.2	24.6	19.2	27.3	0.0
病院や診療所	15.6	21.1	20.8	16.3	7.6	11.1	10.9	0.0
パソコン	13.0	21.1	11.3	6.1	8.5	9.1	10.3	100.0
市役所などの窓口	12.6	15.8	13.2	8.2	12.7	21.2	12.7	0.0
テレビ	11.2	26.3	15.1	12.2	6.8	12.1	9.1	0.0
同じ障がいのある当事者	9.9	5.3	7.5	8.2	9.3	14.1	13.3	0.0
友人、知人や近所の人	9.4	5.3	9.4	12.2	10.2	14.1	8.5	0.0
新聞・雑誌・書籍	8.2	26.3	9.4	10.2	5.9	2.0	7.3	0.0
障がい福祉団体やサークル	7.4	10.5	7.5	10.2	5.1	12.1	17.6	0.0
ラジオ	2.7	5.3	5.7	2.0	0.8	2.0	0.0	0.0
保健所	1.9	0.0	0.0	2.0	1.7	2.0	0.6	0.0
民生委員・児童委員	0.5	0.0	0.0	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0
情報を得ることができない	4.0	5.3	1.9	8.2	2.5	1.0	6.7	0.0
その他	4.6	0.0	11.3	2.0	10.2	2.0	5.5	0.0

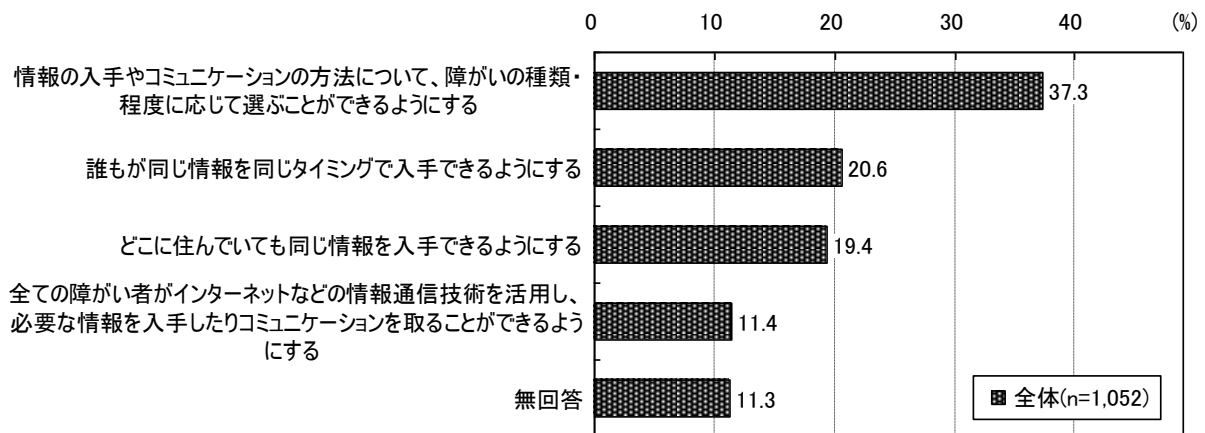
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問24 障がい者による情報の入手やコミュニケーションに関する施策を進めるため、令和4年5月に障がい者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行されました。あなたはその法律を知っていますか。(○は1つ)



・「知らない」が88.5%を占めています。

問25 障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の基本理念に関し、あなたが生活するうえで特に重要と思うものは何ですか。（あてはまるもの1つに○）



- ・「情報の入手やコミュニケーションの方法について、障がいの種類・程度に応じて選ぶことができるようにする」が37.3%と最も多く、次いで「誰もが同じ情報を同じタイミングで入手できるようにする」が20.6%、「どこに住んでいても同じ情報を入手できるようにする」が19.4%、「全ての障がい者がインターネットなどの情報通信技術を活用し、必要な情報を入手したりコミュニケーションを取ることができるようにする」が11.4%となっています。

（障がいの種類別クロス集計）

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
情報の入手やコミュニケーションの方法について、障がいの種類・程度に応じて選ぶことができるようにする	37.3	35.0	42.0	35.1	31.6	45.3	35.5	49.5
どこに住んでいても同じ情報を入手できるようにする	19.4	22.1	18.5	17.4	15.3	15.8	9.7	12.9
誰もが同じ情報を同じタイミングで入手できるようにする	20.6	21.2	18.9	19.5	27.6	19.2	29.0	19.4
全ての障がい者がインターネットなどの情報通信技術を活用し、必要な情報を入手したりコミュニケーションを取ることができるようにする	11.4	11.4	6.8	16.8	9.2	9.4	9.7	7.5
無回答	11.3	10.2	13.8	11.3	16.3	10.3	16.1	10.8

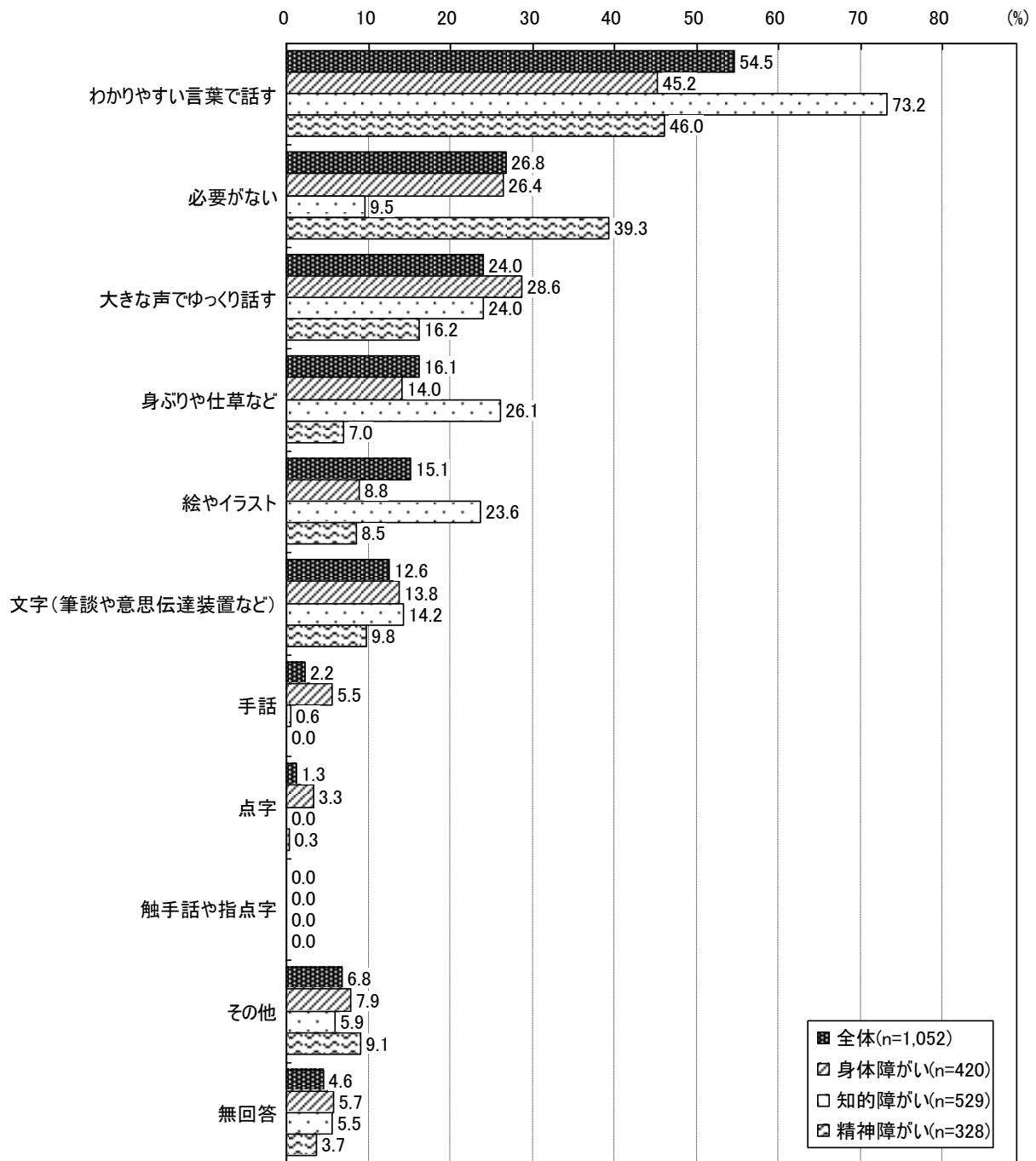
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
情報の入手やコミュニケーションの方法について、障がいの種類・程度に応じて選ぶことができるようにする	37.3	33.7	28.2	42.9	39.4	25.6
どこに住んでいても同じ情報を入手できるようにする	19.4	20.4	26.8	11.9	20.4	35.9
誰もが同じ情報を同じタイミングで入手できるようにする	20.6	25.5	14.1	19	21.3	17.9
全ての障がい者がインターネットなどの情報通信技術を活用し、必要な情報を入手したりコミュニケーションを取ることができるようにする	11.4	11.2	22.5	11.9	10.2	7.7
無回答	11.3	9.2	8.5	14.3	8.8	12.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問26 あなたが、コミュニケーションを取る時、必要な支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



・全体では、「必要がない」26.8%と無回答4.6%を除き、何らかの支援が必要な人は68.6%で、内容別には「わかりやすい言葉で話す」が54.5%、「大きな声でゆっくり話す」が24.0%、「身ぶりや仕草など」が16.1%、「絵やイラストなど」が15.1%、「文字（筆談や意思伝達装置など）」が12.6%の順となっています。

・障がいの種類別にみると、「わかりやすい言葉で話す」は強度行動障がい、知的障がい、発達障がい70%以上となっています。

・身体障がいの種類別にみると、視覚障がいのある人は「わかりやすい言葉で話す」(51.0%)が最も多く、次いで「大きな声でゆっくり話す」(36.7%)、「点字」(14.3%)となっています。

聴覚・平衡機能障がいのある人は「大きな声でゆっくり話す」(43.7%)が最も多く、次いで「文字(筆談や意思伝達装置など)」(42.3%)、「わかりやすい言葉で話す」(39.4%)、「手話」(29.6%)となっています。

音声・言語、そしゃく機能障がいのある人は「わかりやすい言葉で話す」(52.4%)が最も多く、次いで「文字(筆談や意思伝達装置など)」(33.3%)と「身ぶりや仕草など」(33.3%)が同じ割合となっています。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
わかりやすい言葉で話す	54.5	45.2	73.2	46.0	28.6	72.9	51.6	78.5
大きな声でゆっくり話す	24.0	28.6	24.0	16.2	10.2	26.1	41.9	31.2
身ぶりや仕草など	16.1	14.0	26.1	7.0	8.2	27.1	9.7	37.6
絵やイラスト	15.1	8.8	23.6	8.5	6.1	30.0	22.6	38.7
文字(筆談や意思伝達装置など)	12.6	13.8	14.2	9.8	4.1	21.2	16.1	22.6
手話	2.2	5.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
点字	1.3	3.3	0.0	0.3	0.0	0.5	0.0	0.0
触手話や指点字	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	6.8	7.9	5.9	9.1	9.2	9.9	12.9	12.9
必要がない	26.8	26.4	9.5	39.3	52.0	12.3	19.4	6.5
無回答	4.6	5.7	5.5	3.7	6.1	2.0	6.5	1.1

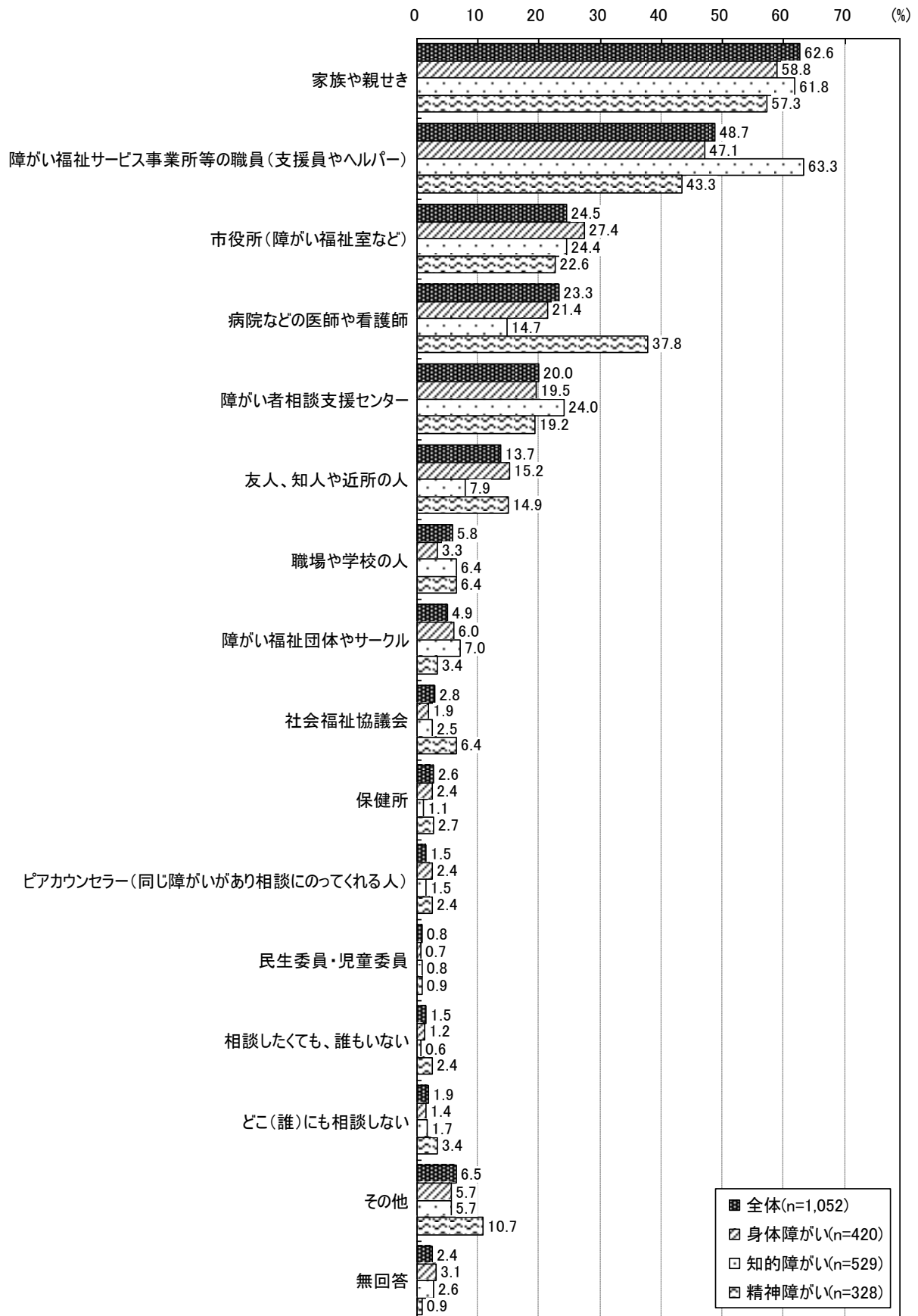
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
わかりやすい言葉で話す	54.5	51.0	39.4	52.4	45.4	61.5
大きな声でゆっくり話す	24.0	36.7	43.7	31.0	21.8	25.6
身ぶりや仕草など	16.1	2.0	21.1	33.3	16.7	20.5
絵やイラスト	15.1	4.1	9.9	21.4	12.5	10.3
文字(筆談や意思伝達装置など)	12.6	6.1	42.3	33.3	10.2	17.9
手話	2.2	2.0	29.6	7.1	0.5	2.6
点字	1.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
触手話や指点字	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	6.8	5.1	4.2	16.7	10.2	5.1
必要がない	26.8	24.5	11.3	7.1	27.8	25.6
無回答	4.6	4.1	2.8	9.5	7.9	5.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問27 あなたは、困ったことや相談したい時、どこ（誰）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）



- ・全体では、「家族や親せき」が62.6%と最も多く、次いで「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」が48.7%、「市役所（障がい福祉室など）」が24.5%、「病院などの医師や看護師」が23.3%、「障がい者相談支援センター」が20.0%の順となっています。
- ・障がいの種類別にみると、「障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）」は強度行動障がいや知的障がい、「病院などの医師や看護師」は高次脳機能障がいや難病、精神障がいそれぞれ多くみられます。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
家族や親せき	62.6	58.8	61.8	57.3	60.2	66.0	67.7	55.9
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	48.7	47.1	63.3	43.3	30.6	52.7	58.1	65.6
市役所（障がい福祉室など）	24.5	27.4	24.4	22.6	23.5	21.7	25.8	22.6
病院などの医師や看護師	23.3	21.4	14.7	37.8	38.8	22.7	41.9	23.7
障がい者相談支援センター	20.0	19.5	24.0	19.2	9.2	21.7	22.6	18.3
友人、知人や近所の人	13.7	15.2	7.9	14.9	25.5	15.8	19.4	14.0
職場や学校の人	5.8	3.3	6.4	6.4	0.0	10.3	0.0	6.5
障がい福祉団体やサークル	4.9	6.0	7.0	3.4	2.0	6.4	3.2	7.5
社会福祉協議会	2.8	1.9	2.5	6.4	1.0	2.0	3.2	1.1
保健所	2.6	2.4	1.1	2.7	10.2	1.5	9.7	3.2
ピアカウンセラー（同じ障がいがあり相談にのってくれる人）	1.5	2.4	1.5	2.4	3.1	1.0	6.5	2.2
民生委員・児童委員	0.8	0.7	0.8	0.9	1.0	0.5	3.2	0.0
相談したくても、誰もいない	1.5	1.2	0.6	2.4	1.0	1.5	0.0	2.2
どこ（誰）にも相談しない	1.9	1.4	1.7	3.4	1.0	3.9	0.0	2.2
その他	6.5	5.7	5.7	10.7	11.2	6.4	6.5	6.5
無回答	2.4	3.1	2.6	0.9	5.1	1.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

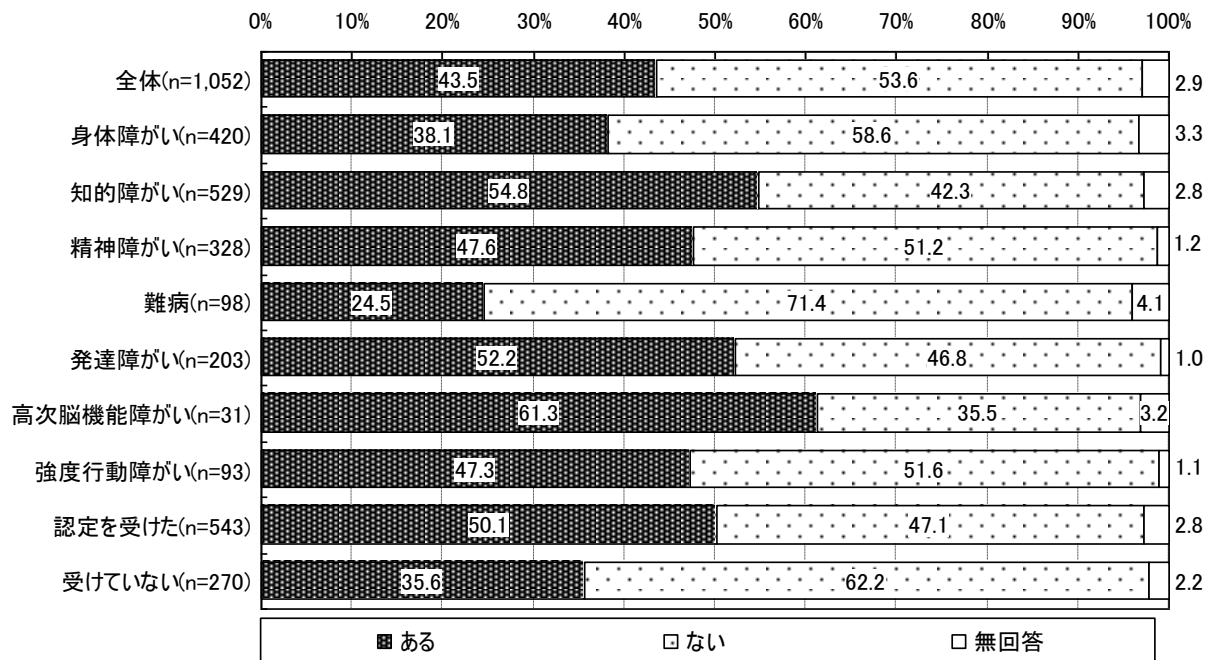
*** 吹田市 第7期障がい福祉計画の策定に向けたアンケート ***

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)	認定受けた (n=543)	受けていない (n=270)
家族や親せき	62.6	67.3	63.4	50.0	57.4	51.3	60.4	69.3
障がい福祉サービス事業所等の職員（支援員やヘルパー）	48.7	33.7	22.5	50.0	61.1	66.7	67.0	22.2
市役所（障がい福祉室など）	24.5	32.7	28.2	35.7	26.4	20.5	25.0	23.3
病院などの医師や看護師	23.3	26.5	8.5	21.4	24.1	23.1	18.8	30.7
障がい者相談支援センター	20.0	25.5	11.3	19.0	23.1	12.8	22.5	18.5
友人、知人や近所の人	13.7	18.4	22.5	4.8	12.0	17.9	11.6	19.6
職場や学校の人	5.8	3.1	1.4	4.8	4.2	0.0	6.6	6.7
障がい福祉団体やサークル	4.9	7.1	4.2	9.5	6.0	2.6	6.8	2.6
社会福祉協議会	2.8	4.1	0.0	0.0	0.5	2.6	3.1	2.6
保健所	2.6	8.2	0.0	2.4	1.4	0.0	1.1	3.3
ピアカウンセラー（同じ障がいがあり相談にのってくれる人）	1.5	3.1	1.4	4.8	2.8	0.0	1.7	1.5
民生委員・児童委員	0.8	2.0	1.4	2.4	0.5	0.0	0.2	2.2
相談したくても、誰もいない	1.5	2.0	1.4	2.4	1.4	0.0	0.7	2.2
どこ（誰）にも相談しない	1.9	1.0	2.8	0.0	0.9	0.0	0.9	3.3
その他	6.5	7.1	5.6	4.8	6.0	5.1	6.4	6.7
無回答	2.4	1.0	2.8	2.4	4.2	0.0	2.0	1.1

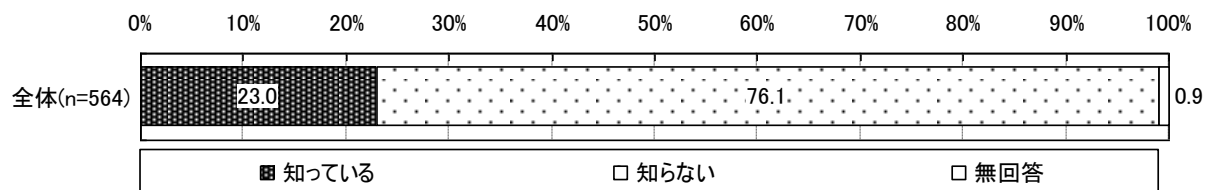
※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

問28 あなたは、障がい者相談支援センターを利用したことがありますか。(○は1つ)



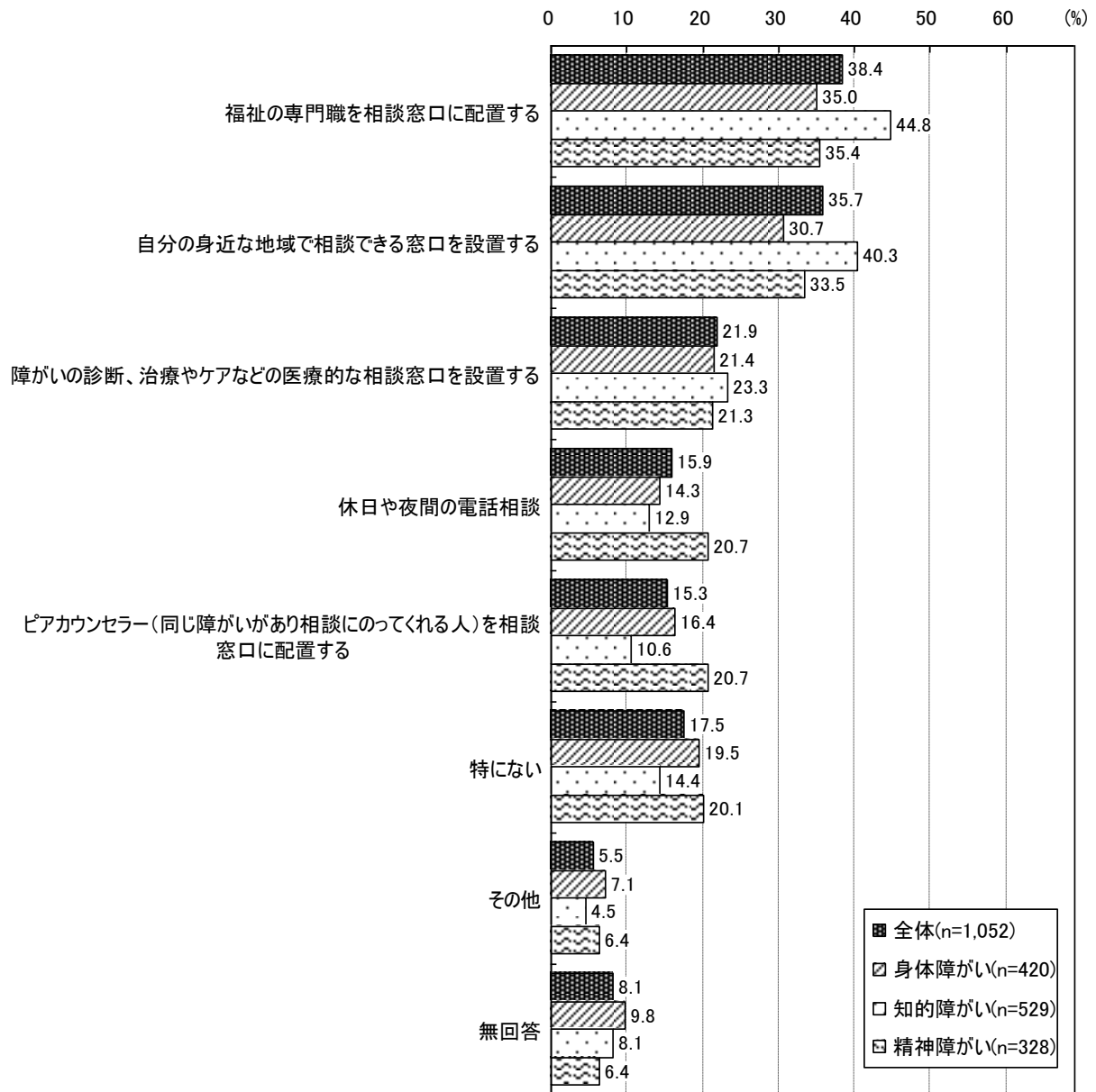
- ・ 全体では、利用したことが「ある」が43.5%、「ない」が53.6%となっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、高次脳機能障がいや知的障がい、発達障がいで「ある」と答える人が多くみられます。

問29 (問28で「2 ない」と回答した人) あなたは、障がい者相談支援センターが市内6か所に設置されていることを知っていますか。(○は1つ)



- ・ 「知っている」と答えた人は23.0%にとどまっています。

問30 あなたが、相談支援体制について希望することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



- ・全体では、「福祉の専門職を相談窓口配置する」が38.4%、「自分の身近な地域で相談できる窓口を設置する」が35.7%、「障がいの診断、治療やケアなどの医療的な相談窓口を設置すること」が21.9%となっています。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
福祉の専門職を相談窓口 に配置する	38.4	35.0	44.8	35.4	27.6	44.3	29.0	45.2
自分の身近な地域で相 談できる窓口を設置す る	35.7	30.7	40.3	33.5	39.8	42.9	38.7	48.4
障がいの診断、治療や ケアなどの医療的な相 談窓口を設置する	21.9	21.4	23.3	21.3	19.4	24.6	29.0	26.9
休日や夜間の電話相談	15.9	14.3	12.9	20.7	20.4	16.7	19.4	21.5
ピアカウンセラー（同じ障が いがあり相談にのってくれる 人）を相談窓口配置する	15.3	16.4	10.6	20.7	21.4	12.3	25.8	12.9
特になし	17.5	19.5	14.4	20.1	10.2	17.2	25.8	14.0
その他	5.5	7.1	4.5	6.4	9.2	5.9	9.7	6.5
無回答	8.1	9.8	8.1	6.4	13.3	3.9	9.7	6.5

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

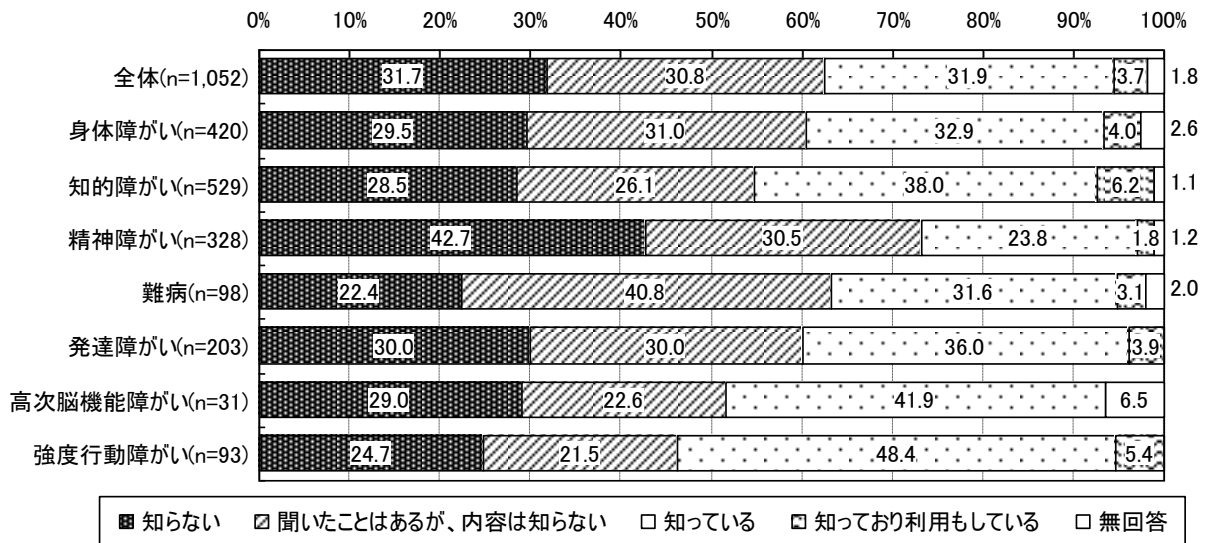
(年齢別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	18歳～39歳 (n=383)	40歳～64歳 (n=457)	65歳～74歳 (n=113)	75歳以上 (n=97)
福祉の専門職を相談窓口 に配置する	38.4	43.3	38.1	33.6	25.8
自分の身近な地域で相 談できる窓口を設置す る	35.7	14.6	17.3	11.5	13.4
障がいの診断、治療や ケアなどの医療的な相 談窓口を設置する	21.9	25.1	21.0	16.8	19.6
休日や夜間の電話相談	15.9	16.4	16.8	14.2	11.3
ピアカウンセラー（同じ障が いがあり相談にのってくれる 人）を相談窓口配置する	15.3	39.9	32.6	36.3	34.0
特になし	17.5	14.4	19.3	22.1	16.5
その他	5.5	5.0	6.3	3.5	5.2
無回答	8.1	4.4	8.1	9.7	19.6

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

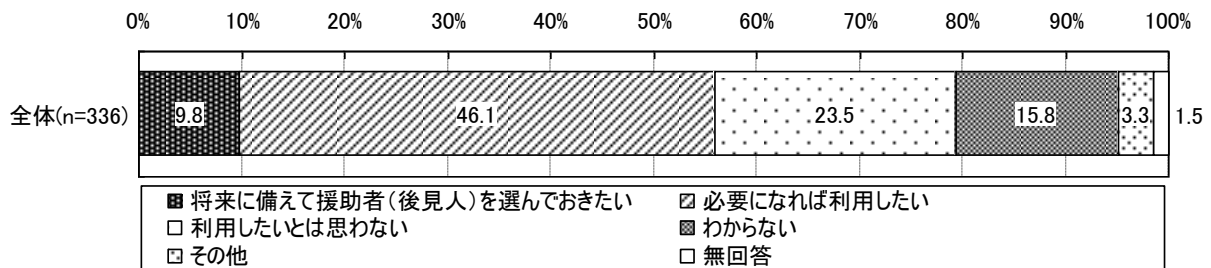
5 障がい者の人権や障がい者理解について

問31 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(〇は1つ)



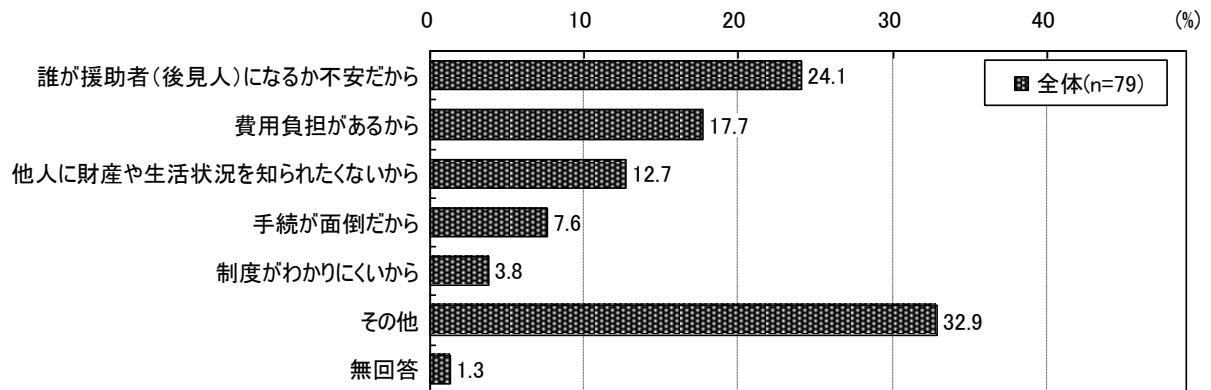
- ・ 全体では、「知っている」が31.9%、「知らない」が31.7%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が30.8%、「知っており利用もしている」が3.7%となっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、「知っている」は強度行動障がいや高次脳機能障がいで、「知らない」は精神障がいでそれぞれ多くみられます。

問32 (問31で「3 知っている」と回答した人) あなたは、支援が必要になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。(〇は1つ)



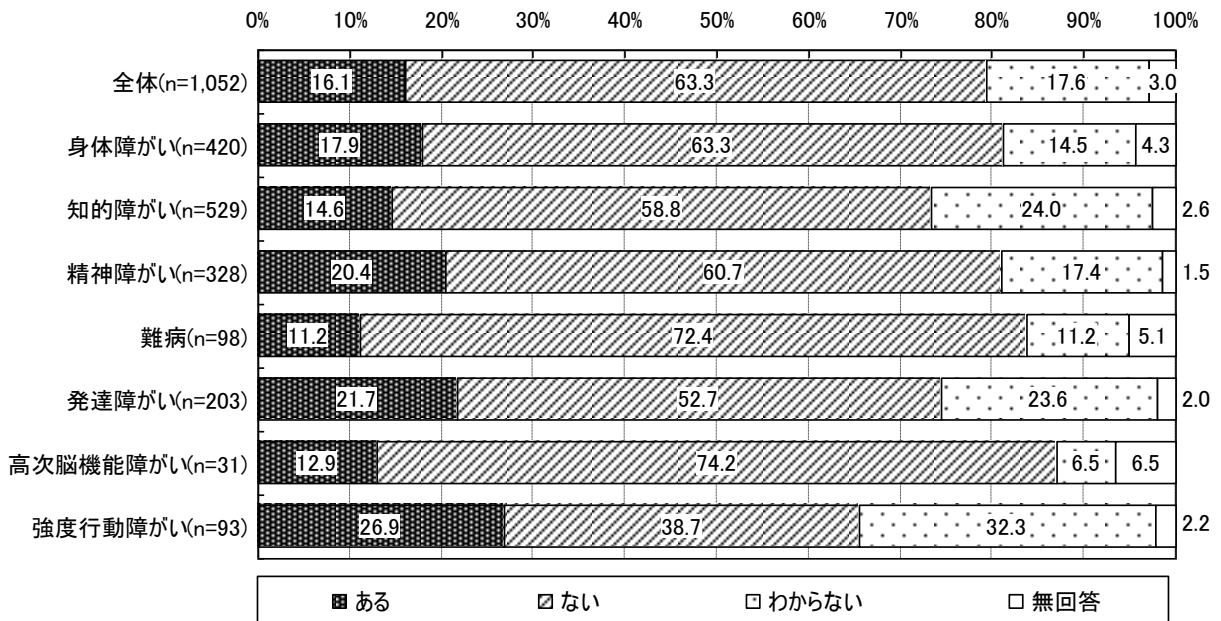
- ・ 「必要になれば利用したい」が46.1%、「利用したいとは思わない」が23.5%、「わからない」が15.8%の順となっています。

問33 (問32で「3 利用したいとは思わない」と回答した人) 利用したいと思わない理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○)



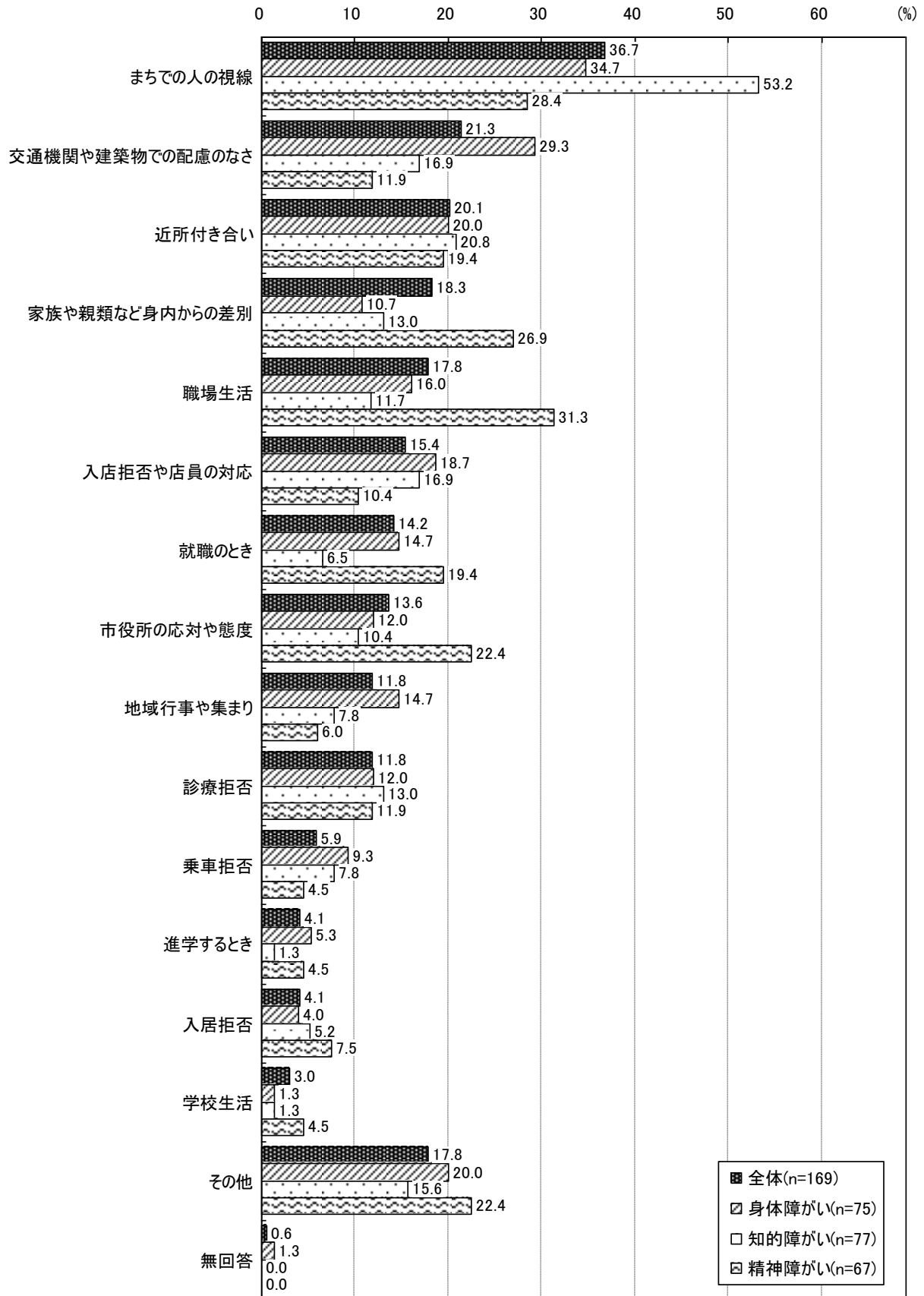
- ・「誰が援助者(後見人)になるか不安だから」が24.1%、「費用負担があるから」が17.7%、「他人に財産や生活状況を知られたくないから」が12.7%となっています。
- ・「その他」の記述内容として書かれた主な内容は、必要ないから、信用できないから、後見人を指定できないからなどとなっています。

問34 最近3年以内に、正当な理由なく、障がいを理由として拒否されたり、場所や時間帯などを制限されたり、障がいのない人にはつけない条件をつけられたりするなど差別を受けたり、偏見を感じたことはありますか。(〇は1つ)



- ・全体では、差別を受けたり、偏見を感じた経験がある人は16.1%となっています。
- ・障がいの種類別には、強度行動障がいで26.9%、発達障がいで21.7%、精神障がいで20.4%が「ある」と回答しています。

問35 (問34で「1 ある」と回答した人) どのような時に差別を受けたり、偏見を感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

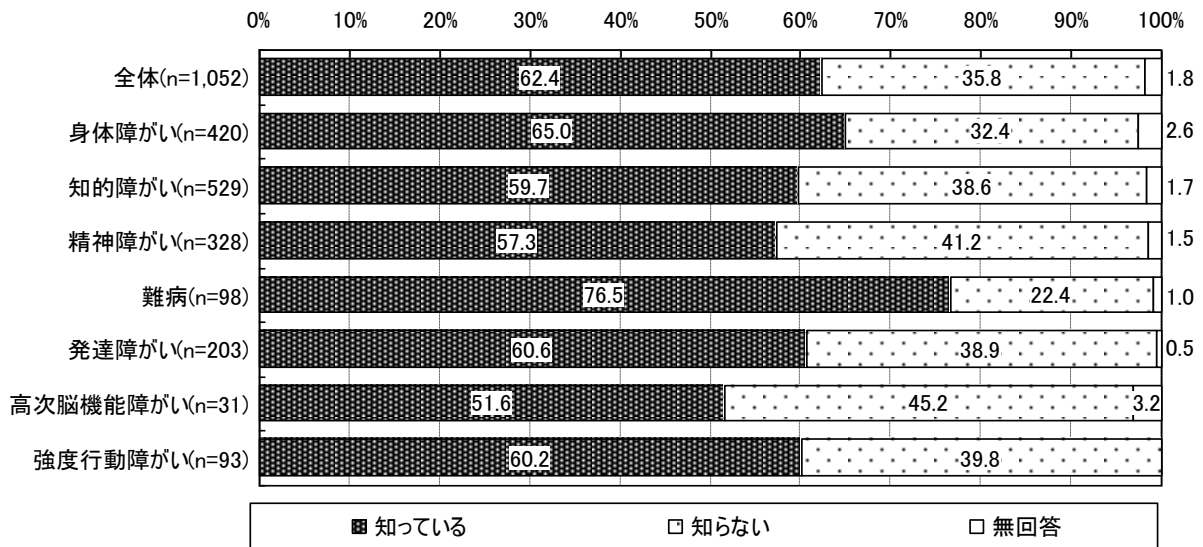


※有効回答数が30サンプル未満の属性については参考値です。

- ・ 全体では、「まちでの人の視線」が36.7%と最も多く、次いで「交通機関や建築物での配慮のなさ」が21.3%、「近所付き合い」が20.1%、「家族や親類など身内からの差別」が18.3%、「職場生活」が17.8%、「入店拒否や店員の対応」が15.4%などとなっています。
- ・ 障がいの種類別にみると、身体障がいのある人は「交通機関や建築物での配慮のなさ」が29.3%と、全体の21.3%に比べて高い割合となっています。
知的障がいのある人は「まちでの人の視線」が53.2%と、全体の36.7%に比べて高い割合となっています。
精神障がいのある人は「職場生活」が31.3%、「家族や親類など身内からの差別」が26.9%と、いずれも全体に比べて高い割合となっています。

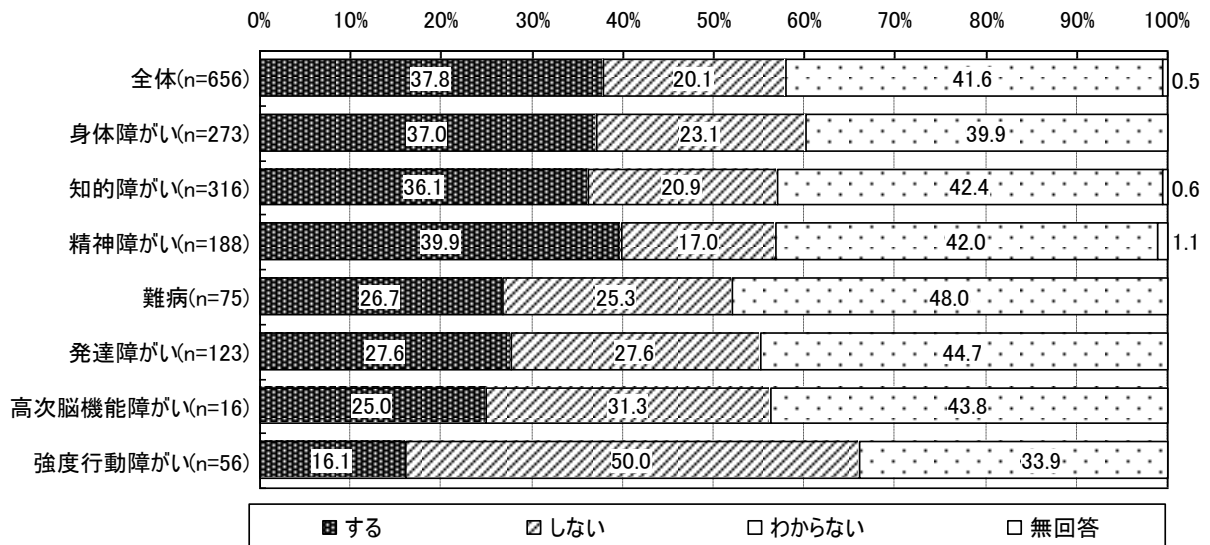
6 災害など緊急時の対応

問37 あなたは、地震などの災害時の、最寄りの避難所を知っていますか。(〇は1つ)



- ・全体では、最寄りの避難所を「知っている」人は62.4%となっており、障がいの種類別にみると、高次脳機能障がいの45.2%、精神障がいの41.2%が「知らない」と答えています。

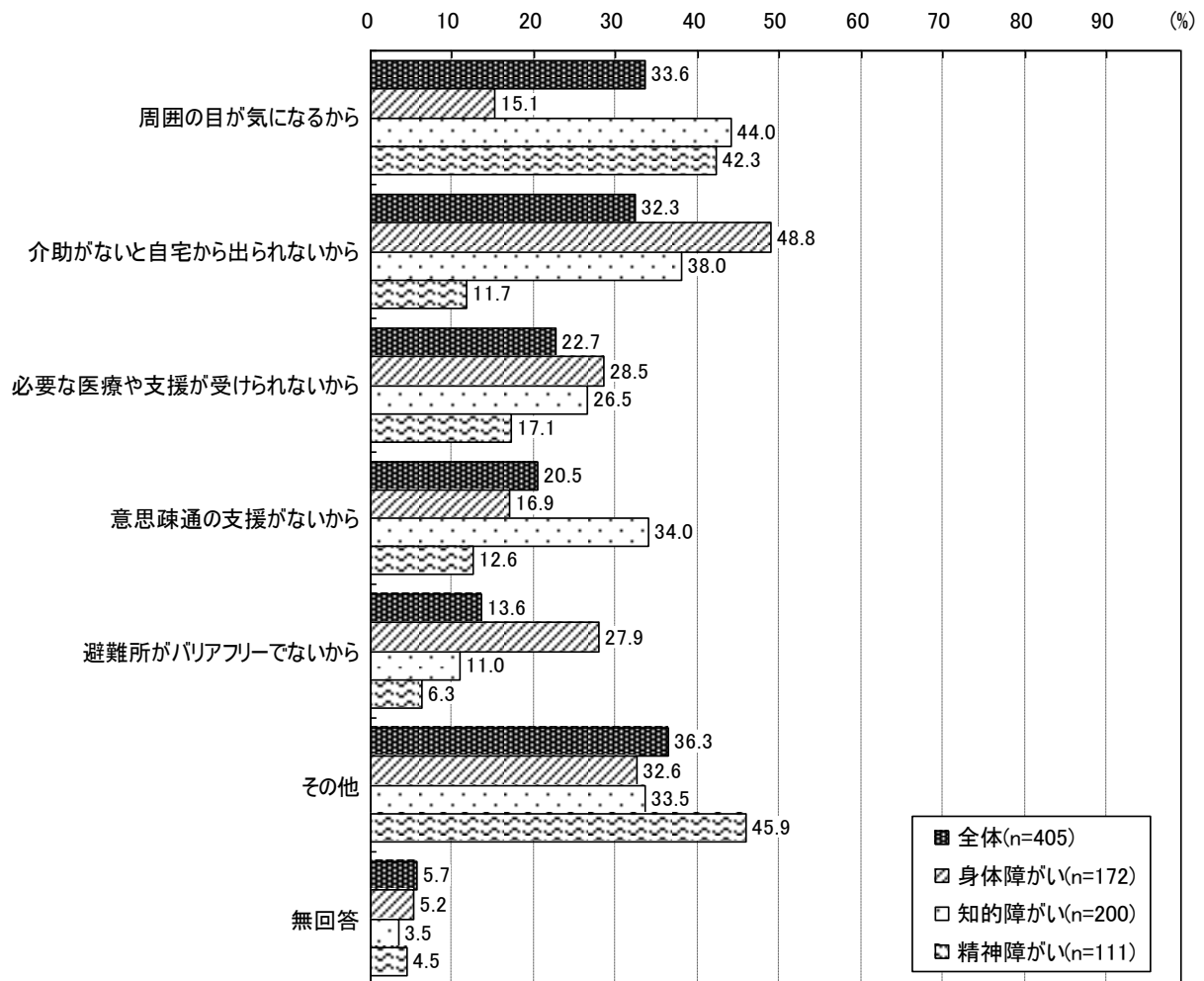
問38 (問37で「1 知っている」と回答した人) 災害が発生した時、あなたは避難所に避難しますか。(〇は1つ)



※有効回答数が30サンプル未満の属性については参考値です。

- ・避難所への避難を「する」と答えた人は37.8%となっています。

問39 (問38で「2 しない」または「3 わからない」と回答した人) 避難所に避難しない理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)



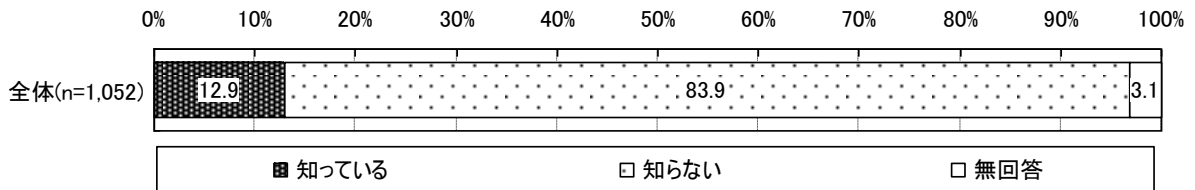
- ・全体では、「周囲の目が気になるから」が33.6%、「介助がないと自宅から出られないから」が32.3%、「必要な医療や支援が受けられないから」が22.7%、「意思疎通の支援がないから」が20.5%、「避難所がバリアフリーでないから」が13.6%となっています。
- ・「その他」の記述内容として書かれた主な内容は、「安全かどうか分からないから」、「不安でパニックになるから」、「発作で迷惑をかけると思うから」、「耐えられないと思うから」、「より病症が悪化すると思われるから」、「可能な限り自宅にいたいから」、「避難所のトイレを使用することが難しいから」などとなっています。

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=405)	視覚 (n=35)	聴覚・平衡 (n=27)	音声・言語 (n=18)	肢体不自由 (n=105)	内部 (n=12)	認定を受けた (n=226)	受けていない (n=105)
周囲の目が気になるから	33.6	5.7	7.4	11.1	20.0	8.3	38.5	31.4
介助がないと自宅から出られないから	32.3	54.3	25.9	55.6	54.3	66.7	43.4	16.2
必要な医療や支援が受けられないから	22.7	28.6	11.1	27.8	35.2	16.7	28.3	14.3
意思疎通の支援がないから	20.5	8.6	22.2	55.6	14.3	41.7	28.8	7.6
避難所がバリアフリーでないから	13.6	31.4	22.2	16.7	30.5	25.0	17.3	9.5
その他	36.3	40.0	29.6	33.3	30.5	25.0	34.5	42.9
無回答	5.7	2.9	11.1	0.0	3.8	8.3	2.7	3.8

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

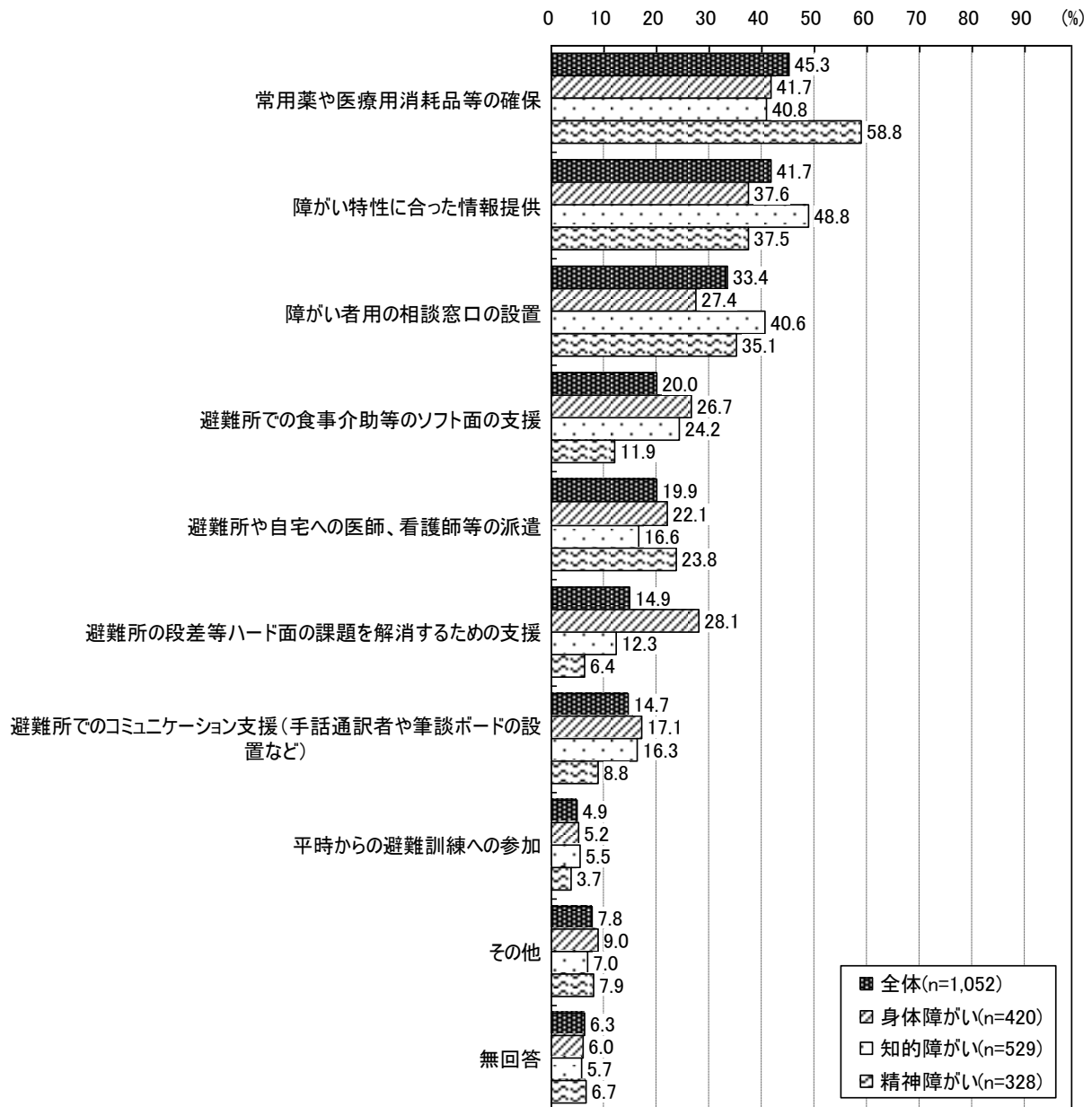
問40 吹田市では、災害時に要介護認定高齢者や障がい者等、一般の避難所では生活することが困難な方を対象に開設する避難所として、市内各地に福祉避難所が設置されています。あなたは福祉避難所を知っていますか。(○は1つ)



※最寄りの避難所を知っているという人への設問

・「知っている」と答えた人は12.9%にとどまっています。

問41 あなたにとって、地震などの災害時に、必要な支援は何ですか。（あてはまるものの3つまでに○）



- ・全体では、「常用薬や医療用消耗品等の確保」が45.3%と最も多く、次いで「障がい特性に合った情報提供」が41.7%、「障がい者用の相談窓口の設置」が33.4%、「避難所での食事介助等のソフト面の支援」が20.0%、「避難所や自宅への医師、看護師等の派遣」が19.9%などとなっています。
- ・障がいの種類別にみると、身体障がいでは「常用薬や医療用消耗品等の確保」（41.7%）が最も多く、次いで「障がい特性にあった情報提供」（37.6%）、「避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援」（28.1%）となっています。
- 知的障がいでは「障がい特性にあった情報提供」（48.8%）が最も多く、次いで「常用薬や医療用消耗品等の確保」（40.8%）、「障がい者用の相談窓口の設置」（40.6%）となっています。

精神障がいでは「常用薬や医療用消耗品等の確保」(58.8%)が最も多く、次いで「障がい特性にあった情報提供」(37.5%)、「障がい者用の相談窓口の設置」(35.1%)となっています。

難病では「常用薬や医療用消耗品等の確保」(55.1%)が最も多く、次いで「避難所や自宅への医師、看護師等の派遣」(32.7%)、「避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援」(23.5%)となっています。

- ・身体障がいの種類別にみると、「避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）」が全体では14.7%であるのに対し、聴覚・平衡機能障がいのある人は56.3%が選んでいます。

「避難所での食事介助等のソフト面の支援」が全体で20.0%であるのに対し、音声・言語、そしゃく機能障がいのある人は38.1%、肢体不自由のある人は36.1%が選んでいます。

「避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援」は全体で14.9%であるのに対し、視覚障がいのある人は34.7%、肢体不自由のある人は38.4%が選んでいます。

(障がいの種類別クロス集計)

単位：%	全体 (n=1,052)	身体障がい (n=420)	知的障がい (n=529)	精神障がい (n=328)	難病 (n=98)	発達障がい (n=203)	高次脳機能 (n=31)	強度行動 (n=93)
常用薬や医療用消耗品等の確保	45.3	41.7	40.8	58.8	55.1	46.3	54.8	51.6
障がい特性に合った情報提供	41.7	37.6	48.8	37.5	21.4	46.8	45.2	49.5
障がい者用の相談窓口の設置	33.4	27.4	40.6	35.1	18.4	40.9	29.0	36.6
避難所での食事介助等のソフト面の支援	20.0	26.7	24.2	11.9	20.4	16.7	32.3	25.8
避難所や自宅への医師、看護師等の派遣	19.9	22.1	16.6	23.8	32.7	15.3	12.9	15.1
避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援	14.9	28.1	12.3	6.4	23.5	7.4	25.8	12.9
避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）	14.7	17.1	16.3	8.8	5.1	15.8	12.9	21.5
平時からの避難訓練への参加	4.9	5.2	5.5	3.7	4.1	3.0	0.0	4.3
その他	7.8	9.0	7.0	7.9	11.2	8.9	6.5	11.8
無回答	6.3	6.0	5.7	6.7	7.1	5.4	6.5	3.2

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

(身体障がいの種類別クロス集計)

単位：％	全体 (n=1,052)	視覚 (n=98)	聴覚・平衡 (n=71)	音声・言語 (n=42)	肢体不自由 (n=216)	内部 (n=39)
常用薬や医療用消耗品等の確保	45.3	38.8	31.0	47.6	48.1	51.3
障がい特性に合った情報提供	41.7	42.9	53.5	42.9	33.3	35.9
障がい者用の相談窓口の設置	33.4	26.5	23.9	23.8	29.2	28.2
避難所での食事介助等のソフト面の支援	20.0	24.5	11.3	38.1	36.1	12.8
避難所や自宅への医師、看護師等の派遣	19.9	21.4	11.3	21.4	23.6	35.9
避難所の段差等ハード面の課題を解消するための支援	14.9	34.7	11.3	23.8	38.4	15.4
避難所でのコミュニケーション支援（手話通訳者や筆談ボードの設置など）	14.7	13.3	56.3	16.7	8.3	20.5
平時からの避難訓練への参加	4.9	7.1	7.0	7.1	2.8	7.7
その他	7.8	7.1	4.2	4.8	9.3	5.1
無回答	6.3	8.2	2.8	7.1	5.6	5.1

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

Ⅲ その他回答

問7 自宅で日常的に行っている医療的ケアはありますか。

- ・CPAP
- ・一週間に一回注射
- ・胃ろう、栄養及び薬、白湯
- ・インスリン
- ・眼科、内科
- ・理学療法士によるリハビリ
- ・血中酸素、血圧、服薬確認
- ・血糖値測定
- ・高血圧
- ・湿疹、ヘルペス等
- ・水晶体代わりのコンタクトレンズ
- ・装具装着
- ・脱肛のため毎日座薬使用
- ・てんかん発作多発時 座薬
- ・点眼薬
- ・糖尿で市民病院に通院している
- ・糖尿病（飲み薬あり）と整形外科通院
- ・鼻うがいでうみを出す
- ・服薬管理
- ・補聴器の管理（充電など）
- ・褥瘡処置

問8 あなたの現在の生活で、必要な支援は何ですか。

- ・100%全て介助必要
- ・片付けられない。筋肉が減ってきていて少し歩いては休みで、歩けない。緑内障で眼医者に行きたいが、遠くて腰、股関節、膝、足が痛くて行けないので、近くの内科で点眼薬のキサラタンとヒアレインを貰っているが、眼医者で眼圧や視野検査や緑内障の検査を受けたいが行けない。失明するのが怖い。
- ・環境整備（居室等）
- ・切符購入、銀行のATM入力、マイナンバーカードのパスワード入力等
- ・車いす移乗
- ・車の運転
- ・化粧（アイメイク）
- ・子供の世話等
- ・コミュニケーション
- ・時間が守れない
- ・週に1回ヘルパーさんに食事を作ってもらっています。1食分です

- ・就労移行支援
- ・手話通訳、筆談
- ・食器洗い等の家事の一部
- ・全ての事で声かけ確認が必要です
- ・洗濯
- ・洗濯物など重い物の移動、そうじ
- ・相談できる相手
- ・体調次第ですべて必要
- ・調理の手伝い
- ・通院
- ・爪切り、風呂そうじ
- ・テレビやDVDの操作
- ・電話対応
- ・排泄
- ・話し相手
- ・歯みがき
- ・服選び
- ・訪問看護
- ・発作時の介護
- ・物事の内容をわかりやすく説明する福祉制度なども用語がわからない
- ・重量のある家具移動など

問9 あなたを主に支援しているのはどなたですか。

- ・いない
- ・夫
- ・娘
- ・弟
- ・おば
- ・家族
- ・近所の友人
- ・グループホームの支援員、作業所の支援員
- ・計画相談、社協、病院の相談員、市役所
- ・就労支援センターの職員さん
- ・手話通訳者
- ・親せき
- ・精神的に息子
- ・父親の友だち
- ・通所送迎で土・日以外は毎日生活介護でお世話になっています
- ・妻

- ・同居の友人
- ・入所施設職員
- ・パートナー、友だち
- ・病院職員の方々
- ・訪問看護師
- ・友人、先生
- ・有料老人ホーム（サ高住）のスタッフ
- ・両親

問10 あなたはどのようなところで暮らしていますか。

- ・家族と同居週4、グループホーム週3
- ・彼氏と同棲
- ・救護施設
- ・月～金→作業所、グループホーム。週末（金曜夜、土・日）家で過ごす
- ・婚約者と同居
- ・障がい者グループホームに体験宿泊中です
- ・週末は自宅
- ・知人
- ・同居人と子供、うさぎ2羽
- ・二世帯住宅で同性の友人と生活。世帯主は本人。（別世帯に両親と弟が生活している）

問11 あなたは、将来、どのような暮らし方をしたいですか。

- ・今と変わらず妻と一緒に暮らす
- ・介護付き有料老人ホーム
- ・家庭を持って生活
- ・可能な限り、現状のまま
- ・結婚したい
- ・先のことは考えていない
- ・シェアハウス
- ・どうしたら良いのかわからない
- ・パートナーと同居

問13 あなたが、希望する暮らし方を実現するために、必要なことは何ですか。

- ・3人のグループホームの利用をしていますが、しゃべることもままならない本人、この先はもう少し、人の中での共同生活（10人程）ができれば楽しさがあるのではと考えています
- ・GHで最後まで過ごしたいが、医療体制が追いついてなく追い出されないか不安
- ・今はとても幸せでこのままで良いです
- ・夫の介護

- ・グループホームスタッフの質の向上
- ・車や各種資格取得した能力の育成指導、車の運転など
- ・障がい者が安心して頼れる諸サービスの整備・充実
- ・施設等の人材確保、人材育成
- ・重度行動障がいに移行しそうな場合、精神科病院ではなく重度行動障がいに対応できるグループホーム。器物破損の保障（民間損保では限界がある）
- ・障がい者用の施設の拡大や充実
- ・自立に向けての支援、相談も含む
- ・障がいをご近所の方に理解してもらえない
- ・市をまたいでの支援の充実。他市の施設への入所
- ・地域での暮らしやGHで暮らしている人に対して、いざという時に即支援できるような入所機能をもった地域生活支援拠点をもう一か所作ってほしい。GHから救急搬送することになると、他からの職員の支援がないと本人に付き添えず救急車が発車できなかった経験をしている
- ・賃金が発生する働き先
- ・通院や外出の介助
- ・低所得なので府営住宅に住みたい
- ・同居する（介助者）家族の健康維持
- ・パートナーの理解
- ・発達障がいについて考えてほしい
- ・病院通院のため、バス停にイスが望ましい
- ・福祉に関わる優秀な人材
- ・本人の状況に応じた的確な支援ができるサポート体制
- ・夜の介護サービス
- ・障がいの程度に合わせた行政・自治体側からの自発的かつ積極的な対応策の実施（現状、障がい者側（家族を含む）から積極的に探して動かないと福祉等を受けることが不可能である。医療機関を受診した時に、受けられる制度などがわかるようにしてほしい。できれば、診断書を発行する医療機関で、各種手続きが全て完結できるようにしてほしい）

問14 あなたは、どれくらい外出しますか。

- ・足が痛くて外には出ていない
- ・帰省時、施設のレクリエーション等
- ・コロナ前からA型をやめて通院日以外は引きこもり
- ・近くの散歩20分程度
- ・通院以外は外出しない
- ・寝たきり
- ・日による。うつがひどいと出ない日も多い
- ・まったく外出しない
- ・3ヶ月に一回

問15 あなたは、外出するとき、どのようなことに困っていますか。

- ・足の痛みがある
- ・新しい場所や公共の場の支援
- ・安心して利用できる場所や施設が少ない
- ・家にもバリアが多く外に出られない
- ・行き方を調べるが大変
- ・今までの知識から大きく離れた所へは行けない
- ・医療ケアが行える介助者が確保できない
- ・イレギュラーな日中活動等場所が変わると体調変化、腸過敏になり便失禁になる
- ・横断歩道の信号が見にくい
- ・音声による情報が入ってこない
- ・介護タクシーが唯一の手段だが高価
- ・遠方へ出かけるのに勇気がある
- ・介助者がつくとお金がかかる
- ・ガイドヘルパーの確保
- ・買い物時の荷物が重い
- ・買い物の時や施設を利用する時の、店の人とのやりとりに困っている
- ・会話が雑音下ではわからない
- ・家族以外としゃべれない
- ・休日は車いすを邪魔に思われる。人が多くて外出しにくい
- ・急な変化に弱い
- ・気力が起きない
- ・緊張する
- ・車の運転が恐ろしい
- ・掲示板等の表示が見えない
- ・券売機、自販機のボタン位置、飲食店の席
- ・公共交通機関に乗れないので、知り合い等に運転を頼むか、自分の体力が何とか大丈夫そうな時に自分で運転して外出。
- ・公共交通機関のバリアフリー化が整備されていない。特に大阪府外の場合
- ・行動援護介助者の必要性、そもそも人混みが苦手な不穩になる
- ・災害があった時や電車が止まった時の情報が伝わらない
- ・最近ではタクシーの台数減、乗り場の未整備、緑地公園駅が目立つ
- ・坂道を長い間は歩くのがしんどく歩けない
- ・障がい特性上“気になるもの、好きな物”が目に入ってしまうと突発的に走ってしまう
- ・自分では何もできない。説明と指導があれば対応可能
- ・視野が狭いため慣れない所は危ない
- ・視野が狭いため人混みが怖い
- ・車両を使いたい
- ・集中力がなく、スーパーなどでの機械による精算にミスが多い
- ・ストーマの処理

- ・全て家族でやっていますが、車への乗り移りや駐車場へ車を移動する時、一人で待たせる等とても苦労する
- ・スムーズに行動できず、公共交通機関の利用が困難。慣れない場所でのパニック。家族・介助者がいないと一人では外出できない
- ・外に出ると不安になる
- ・体調が悪い時の交通手段
- ・体力に不安がある。疲れやすい
- ・建物、乗り物の放送がわからない
- ・他人が気になる（人目が気になる）、声は聞きたくないのでイヤホンしてる
- ・他人の目、悪口
- ・聴覚過敏で電車内、駅、店、選挙などのアナウンス、スピーカーによる声
- ・杖を使う力がないので、押し車を使っている。道路がガタガタで困る
- ・天気に左右される（雨、暑さ、寒さ）
- ・点字が覚えられない。中途失明のため
- ・電車、バスの優先座席を代わってくれない、ヘルプマークつけてるのに
- ・電車の回数券がなくなり交通費が高くつく
- ・電車のパネル増やす（情報）
- ・転倒リスク
- ・トイレ。介助者が必要で身障者用トイレが個別ではなく、女子トイレ、男子トイレの中にそれぞれあったりする。
- ・トイレが近いので探すのに困る
- ・トイレでの上げ下げが難しくなってきたこと
- ・飛び出してくる人や車等に気づかず、ぶつかりそう、又はぶつかること
- ・トラブル発生した時の対処法
- ・年に何回かのエレベーターの検査時、使用できないことがあり不便（車いすを使用している）
- ・乗り物に一人で怖くて乗れない。腰、股関節、膝、足が痛くて歩くのがつらい
- ・バスの本数が少ない。バス停にベンチがない。歩道に自転車が走っていてぶつかりそう
- ・話しかけられること
- ・パニックなどあるので、それに対応できるガイドヘルパーがいないと外出できない
- ・ヘルパーの交通費を利用者が払うことがとても負担
- ・マスクで会話がしづらい
- ・まぶしい。自転車が歩道を通り危ない
- ・見えない
- ・目的地に行く方法がわからない
- ・文字情報がない
- ・休む座る所が少ない
- ・忘れ物やコミュニケーション不足によるトラブルが多い
- ・意思疎通が難しい
- ・雨の日の傘を持つと荷物運搬が困難

- ・大きな声で子供を叱る人や、大声で独り言を言う人など、大きな声を出す人が苦手で、恐怖を感じとりパニックになりやすい。
- ・電車の人混みに耐えられない。急な体調の変化がこわい。暑いか寒いかを自分で判断できない。外出のための身支度ができない時が多い。聴覚過敏によって車の音や人の声に気持ち悪くなる。視覚過敏によって買い物に行くと店内の照明や陳列された商品がまぶしくて気分が悪くなる。
- ・病院に行くのにも、精神的ストレスがある。障がいの緩和のために、薬を飲む必要があるが、薬を入手しようとすれば、病院に行く必要がある。精神的に非常に苦痛である。

問16 あなたは、平日の昼間の時間帯は、どのように過ごしていますか。

- ・デイサービス
- ・図書館
- ・家でゲーム
- ・一日中ベッドの上で生活
- ・うつ病で一日中、横になったまま、動きたいと思っても体が動かない、つらい。
- ・ガイドヘルパーを使って外出している
- ・買い物や散歩
- ・家事
- ・テレビを見ている
- ・家事と自分のできることを頑張っている
- ・休職中のため、図書館や本屋さん、買い物に出かけます
- ・健康のためプールでアクアビクス頑張っています
- ・高齢の母親の介助をしている
- ・高齢者のデイサービス
- ・リハビリに通っている、週一回
- ・施設（入所）内での作業
- ・施設で過ごしている
- ・自宅
- ・心身リフレッシュ（料理、買い物、音楽活動など含めた休養）
- ・スポーツジムで泳いでいる
- ・家族の病院に行くのに付き添っている
- ・地域交流サロンでの活動
- ・土・日は父母と外出
- ・友だちと会っている
- ・ピアサポーターとして施設に行っている
- ・ボランティア
- ・有料老人ホームで過ごしている
- ・ウォーキング、ツーリング
- ・在宅勤務
- ・地域活動支援センターに通所している。

問17 あなたは、現在、どのような仕事をしていますか。

- ・ 介護施設の事務
- ・ 学生
- ・ 資源リサイクル業
- ・ 除草、トイレそうじ、内職など
- ・ 生活介護
- ・ 生活保護
- ・ ビラ配り
- ・ 正規職員だが育休中
- ・ 時間的にも時間带的にも、内容的にも、その時の病状による。

問19 （問18で「1 希望する」と回答した人）あなたは、どのような仕事を希望しますか。

- ・ 細かく決めていない
- ・ 自宅でできる仕事、内職
- ・ 身体がしびれと力不足のため、長時間立てない、歩けない
- ・ 生活介護事業所で働き給料をもらっているが、制度的には生産活動としてのサービスを受けてる位置づけ。労働者として社会貢献しているのに利用料を払わないといけないことに矛盾を感じる。（実際は利用料負担は軽減され、￥0だが、制度的に働くことを認められていない？）
- ・ 生活介護で僅かながら給与がありますが、就労Cというものがあれば良いと思う
- ・ 通所施設の仕事
- ・ 夕方からでも働けるような仕事（軽作業）

問20 （問18で「1 希望する」と回答した人）あなたが、希望する仕事に就けない理由は何ですか。

- ・ 朝が起きれないので時間帯がずらせるような場所があればうれしい
- ・ 安全な職場で働きたい
- ・ いじめられてトラウマになって失業中。次探してます
- ・ 今の状況以外思いつかないから
- ・ 遠距離歩行はまだ恐怖を覚えるから
- ・ 親の介護、自分の体調の変化
- ・ 学生だから
- ・ 緊張する不安
- ・ 子供が保育園に入れなかったから
- ・ 障がいとして働くのが嫌
- ・ 自分自身の整理がついていないから
- ・ 職場でコミュニケーションを取るのが難しい。トイレ等の問題
- ・ 職場での対人環境が怖い

- ・障がいを持つ子供（2人）のフォローをしなければならないため
- ・生活介護で行っている作業に、もう少し給与としての評価がもっとあれば良い
- ・その域に達していないから
- ・長い間働いていなかったから、働くことへの恐怖、不安、トラウマがある
- ・膝や腰の痛みがあるから
- ・一人で通勤できないから
- ・まずできる仕事がない。介助して仕事…？
- ・コミュニケーションを必要とする仕事がほとんどであるため
- ・ドクターストップがかかっているため
- ・必要なスキルが無い

問21 （問）17で2～7までのいずれかと回答した人）あなたは、どのような働き方を希望されますか。

- ・A型での就業時間延長。もっと働きたい
- ・空いてる時間を利用して2時間程度の仕事がしたい
- ・安心して働ける所で（精神的に）
- ・一般でも福祉施設でも安心して生活できる場で働きたい
- ・一般の職場で理解があるところ
- ・今できる軽作業を続けたい
- ・今の仕事を続けたい
- ・今の職場で働きたい
- ・今の職場は理解のある人たちばかりなので、パートタイマーで働きたい
- ・今は一般の職場ですが、もう少し年をとったら福祉施設で働きたい
- ・グループホームや入所施設で本人に見合った働き方ができたらと思います
- ・在宅可能な一般の職場で働きたい
- ・自営業を続けたい
- ・手話のできる支援の方がいる作業所
- ・視力に配慮してくれるところ
- ・正社員か準社員を希望しています
- ・正社員で自宅で働きたい
- ・体調が常に悪く少しでも体力を残したいので、家の近くでできるだけストレスの少ない働き方をしたい
- ・他者のいない場所で働きたい
- ・定年後もA型で働き続けたい
- ・人と会話をあまりしなくてすむ仕事につきたい
- ・ヘルパーさんと一緒に買い物へ出かけられるように
- ・一般と福祉施設のミックスで出社と在宅勤務の混合で働きたい
- ・週2～3日、毎2～4時間とし、体調次第では2週間程休ませていただいている。

- ・精神的ストレスを全く感じない、障がいの程度やその時々状況に合わせて融通性が大きく効く短時間労働。

問22 (問17で2～7までのいずれかと回答した人) あなたの現在の仕事に必要な支援は何ですか。

- ・一般就労でも生かせることを作業に取り入れてほしい。レジ打ちやパソコンなど
- ・一般の職場で働ける指導と情報がほしい。
- ・今の職場では何も求めないです。働きやすい環境にしてくださっているので
- ・強度行動障がいの状態の人に対するマンツーマンの支援
- ・掲示板、資料等の拡大化
- ・言語コミュニケーションが問題なので、わかりやすい筆談での指示等の配慮がほしい
- ・コミュニケーションが苦手で、それ故の不安を取り除く支援
- ・在宅でできる仕事（役割）
- ・作業所での仕事の確保
- ・作業所の職員や利用者との問題を相談・指導できる窓口や、不安に思っていることについて障がい福祉室として定期的なアンケート実施してほしい
- ・仕事内容の選択肢を増やしてほしい
- ・自宅でできる仕事で単純な内容のもの
- ・障がい特性の理解
- ・障がいに対する過剰すぎる配慮をやめてほしい
- ・障がいの特性を理解し、協働する環境の充実。制度はあってもソフトがない
- ・自分の希望の道を相談する機会があればいい
- ・情報保障（筆談、手話通訳、UDトークなど）
- ・職員が足りない。増やしてほしい
- ・職務に関わる情報の保障
- ・視力への配慮
- ・ストレスにならないよう仕事量の調整、通院時間の確保、しんどい時に休めるよう配慮
- ・相談できる環境がある
- ・知識を持った人の介助がほしい
- ・入浴介助、生活介助
- ・本人が話せませんのでわかりません。但し、うれしそうに参加就労しているように感じます
- ・マスクがなくなる環境づくり
- ・その時々病症状況に合わせたフレキシブルな対応が取れる態勢。障がい者本人に何らかの異常がありそうだと、周囲の者が感じた場合の「声かけ」支援など。

問23 あなたは、保健や福祉サービスに関する情報をどのように入手していますか。

- ・YouTube
- ・親同士のつながり
- ・ケアマネ

- ・ ケースワーカー
- ・ 市からの郵便物
- ・ 社協
- ・ 市役所のホームページ
- ・ 所属している福祉団体
- ・ 視力がないため、何があるのか、必要かは都度ヘルパー等に相談してる
- ・ 成年後見人
- ・ 訪問看護師

問26 あなたが、コミュニケーションを取る時、必要な支援は何ですか。

- ・ 相手への信用
- ・ 諦めている
- ・ 頭が真っ白になったり、頭の中がこんがらがったりした場合に対してのフォロー
- ・ アボがあり、込み入った話は文字の補足があると助かる
- ・ 言いたいことを推測し確認してもらう。失語症への対応
- ・ イライラせず優しく好意的に話してくれる。威圧感があると場面緘黙になる
- ・ 大きな文字で表してほしい
- ・ 家庭的な環境
- ・ 軽いボディタッチ
- ・ 簡潔な文
- ・ 繰り返し話す
- ・ コミュニケーション能力が乏しいので、意思決定は困難なので支援者へ最善と思われる支援をお願いしたい
- ・ 静かな場所
- ・ 実物。知的最重度で自閉症スペクトラムの対応の仕方
- ・ 障がいの特性をふまえた話し方
- ・ ショートメッセージ、メール
- ・ 代理人に話してもらう
- ・ 短時間で終わる
- ・ 電話でその都度伝える
- ・ 話す機会を作ってもらう
- ・ 表情を見ながら目と口で会話する
- ・ 補聴器
- ・ 本人が慣れていないと意思疎通は難しい
- ・ マスクをはずしてもらう（口の形を読み取るため）
- ・ 右耳聞こえず、左視野欠損なので左から話す、視野に入るように顔の表情を見せてもらう
- ・ 目や顔の表情で会話しています
- ・ 優先順位の明確化（大切な話と雑談は分けて話をする）
- ・ 理解するまで待つてほしい

- ・1人で判断できない事が多いので、親と一緒に見聞きして判断の手助けが必要
- ・その時の病症に合わせたきめ細かい臨機応変な対応。タイミングも含む。病症は、その日その日によっても変化するし、相違する。時間によっても変化するし、相違する。
- ・具体物、写真

問27 あなたは、困ったことや相談したい時、どこ（誰）に相談しますか。

- ・施設のスタッフ
- ・親がその時に適した所に相談
- ・カウンセラーの先生
- ・ケアマネジャー
- ・ケースワーカー
- ・訪問看護師、成年後見人
- ・週一、訪問リハビリ時、先生に相談する
- ・成年後見人
- ・ツイッター等
- ・同居人
- ・内容によりますが専門の方に相談する
- ・何に困っているか伝えられない
- ・ぬいぐるみ
- ・弁護士
- ・老人ホームのスタッフ

問30 あなたが、相談支援体制について、希望することは何ですか。

- ・家から出れない。電話で相談できないのでオンラインの相談ができればうれしい
- ・インターネットでの相談窓口
- ・多くの電話番号が知りたい
- ・堅苦しい感じをなくす
- ・声をかけやすい窓口にしてほしい
- ・手話通訳者を配置する
- ・親身になってくれる相談員がほしい。相談できる人が常に同じ人でいてほしい
- ・心理的カウンセラーにいてほしい
- ・すべての手続きができるよう（以前のように）にしていきたい
- ・成年後見人とつながってほしい
- ・専門職が職場やグループホームに出向き、定期的に状況を把握し必要な支援について助言するシステムの充実
- ・相談支援員を増やしてほしい
- ・相談支援専門員に利用計画を作成してほしいが、人が足りない
- ・相談内容によっては支援センターから市へ問い合わせるよう言われ、地域のセンターとしての役割が不明なのでわかりやすくしてほしい

- ・相談内容の明確な返答をできる人を配置してほしい。「施設へ聞いて」という回答はやめてほしい。たらい回しはやめてほしい
- ・相談の途中で見捨てない
- ・相談窓口に行くことも困難なので、電話相談窓口希望
- ・通所施設の職員に相談しているので、今のところ希望することはない
- ・電話以外の方法で連絡できる体制
- ・等級が低いけど、だからこそ半端で困っている。相談しにくい
- ・どこに相談したら良いかわからない人がたくさんいると思う
- ・何を相談すれば良いのかわからない
- ・福祉サービス内容をわかりやすく分類記載にした一覧表をまとめていただきたい
- ・法学部出身者を置いてもらいたい
- ・訪問カウンセリング
- ・本人及び家族の交流支援
- ・役所用語や『ピアカウンセラー』のような一般には使わないカタカナ言葉を使わないでほしい
- ・利用しやすいこと。市役所との違いをわかりやすくしてほしい
- ・メールでの相談、家に訪問してくれる
- ・仕事においての悩み相談
- ・単なる相談では、何の意味も持たない。障がい者の障がいの種類や等級、程度に応じた支援ができる知識と経験を持った人員の配置が必要。現在、市の福祉室窓口（障がい者支援センター含む）対応する担当者は、障がい者本人の障がいの種類や等級を判断可能な状態で対応しなければならないはずであると思われるが、障がい者の程度を全く考慮していないと感じられる。障がい者手帳の受け取り行為も含めて、全ての関連事項をわざわざ市役所に行かなくても「各障がい者相談支援センター」で完結するようにしてほしい

問32 （問）31で「3 知っている」と回答した人）あなたは、支援が必要になったときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。

- ・兄がいるので後見人にしたいと思っています
- ・利用している

問33 （問32で「3 利用したいとは思わない」と回答した人）利用したいと思わない理由は何ですか。

- ・妹がいるから
- ・親亡き後も姉がいるため不要
- ・家族がしてくれるから
- ・考えたことがない
- ・現に娘が成年後見人になっているが、何のメリットもない。むしろ不要
- ・後見人に負担がかかる。選挙権がなくなるのが嫌である
- ・後見人によって差があるようなので。特にお金の管理について
- ・子供が支援してくれる

- ・財産がない
- ・自分でできるから
- ・自立生活ができているため
- ・制度が本人たちにとって良いと思えないから
- ・誰が後見人に選任されるかわからず、解任もできない。月々の費用も多額。金銭の使途について家族の意思が反映されない
- ・妻がいるので利用しない
- ・手続き後も不便な部分が多いと聞くので（親としては）
- ・テレビで「後見人が本人の意思にまったく応じない」というのを見て後見人制度に疑問を持っている
- ・必要がないから
- ・複雑な対人関係は苦手
- ・本人に「必要か？」ではなく、「金銭を守るため」であり、「自分に必要なお金」を使えなくなると聞いているから
- ・身内で十分
- ・利用する側にも依頼される側にも、手続きの面倒さも含め負担が大きすぎるし、とても拘束感があります
- ・信用できない

問35 （問34で「1 ある」と回答した人）どのような時に差別を受けたり、偏見を感じましたか。

- ・いろいろなけ者にされた
- ・院長のひと言であなたをどうにでもできると言われた
- ・コロナ禍
- ・サッカー観戦の会場の対応
- ・障がいとして働くこと
- ・手話通訳を拒否された
- ・スポーツジムへの入会拒否
- ・選挙の時
- ・相談員がヘルパーの嘘を信じて私の言うことを信じない
- ・通院している病院の受け付け対応
- ・テニススクール
- ・一人で外出することが多いので、偏見、差別や外で私のことを噂話
- ・ぶつかりそうになるとか
- ・周りに避けられる
- ・SNS
- ・マスクができない(直ぐに取ってしまう)のに、病院で屋外で待つように言われた
- ・警察官の対応
- ・友人作りやサークル活動

問39 (問38で「2 しない」または「3 わからない」と回答した人) 避難所に避難しない理由は何ですか。

- ・新しい建物に住んでいるから
- ・安全かどうかわからない
- ・家から遠いのと坂道があり車いす困難
- ・行った方が良いかどうかの判断ができない
- ・一般の人と同じ空間で日常生活は困難だと思います。避難せず私と息子は家にいるつもりです
- ・いつ避難すればいいかわからないため
- ・犬がいるから
- ・医療的介護の器具（ネブライザー、介護用ベッド等）が避難所におそらく無い
- ・動くのがおっくうだから
- ・多くの人が集まる場所が苦手なパニックをおこすのが心配
- ・大声を出したり、物音をたてたりするため。排泄の難しさがある
- ・音が気になるから
- ・表沙汰にはならないレイプ等が心配
- ・親の判断にゆだねる
- ・介助があっても着脱とトイレの心配
- ・階段が多いから自宅の方が安全
- ・感染が怖い。薬で免疫を落としているから
- ・強度行動障がいによる行動が激しくなり、本人は落ち着かないと思うから
- ・緊急時は弱者は排除される社会だから
- ・高層階に住んでおり津波の状況等によっては家の方が安全
- ・子供が避難所生活をできないと思うから
- ・こだわりがあり避難しても家に帰りたがる
- ・これからお世話になるグループホーム職員の指示に従います
- ・災害の状況や程度により、必要に応じ判断いたします
- ・災害の程度にもよるが、避難所に行くまでの歩行が困難になれば行かない
- ・地震など耐震構造はしっかりしており、移動中のリスクを考えるとわが家が一番安全だから
- ・自宅で十分避難できるため
- ・障がいの有無にかかわらずキャパシティを越えるのが予測できるから
- ・自分とその家族、まとめて動けない
- ・周囲に迷惑をかけるのではないかと気になる
- ・集団生活になじめない
- ・集団での不自由な生活環境に耐えられない心配がある
- ・主人が車いすのため、エレベーターが動かない限り、5階に住んでいるため無理
- ・親せきが隣町だから
- ・生活に必要な支援が受けられないから
- ・多人数になり過ぎて、逆に不便なことがあるかもしれないから

- ・聴覚過敏があるので子供の泣き声やいろんな人が大勢いる場所が不安になる
- ・トイレ回数が多いので困るから
- ・トイレが利用できないため、紙パンツの交換など人目が気になります
- ・入居しているグループホーム所在地画に福祉避難所がある
- ・眠れない。感染が心配。気を使う
- ・一人でいるのは不安だけど、大勢の人がいる所は苦手。何が起こるかわからない恐怖でパニックになって判断できない。
- ・必要な医療機器や道具が必要なため
- ・避難所がわからない
- ・避難するにもいろいろな物が必要だから（おむつなど）
- ・周りの状況を説明してもらえないから
- ・見た目で不自由とわかりにくく障がいだと理解してもらえない
- ・眠剤で寝る環境が必要だから
- ・みんながジロジロ見る
- ・食材や調理法により体調変化が大きいため配給される食事内容と、トイレ利用が懸念されるから
- ・精神的なストレスになり、耐えられない。より病症が悪化すると思われるから

問41 あなたにとって、地震などの災害時に、必要な支援は何ですか。

- ・安全な場所へ誘導と家族への連絡
- ・意思疎通不可。介助する人たちの安全・安心できるマニュアル
- ・いつも見守ってくれている介助員やヘルパーがいてくれること。心の安心。なぜ、今その場所にいないかならないのか、いつまでいないといけないのか、それを理解することが難しいため、なるべくいつものように過ごせる場所の提供があることがうれしい。それが一番で、その次に医療や情報、食事など
- ・移動、トイレ、食事後の吸引、就寝前の呼吸器、胃ろうの管理等
- ・犬と一緒に避難所
- ・衛生面の管理
- ・大勢の中から離れることのできるスペースと間仕切り
- ・親が近くにいられない時に不安を感じないような支援
- ・介護する親が不調の時の介助
- ・家族だけの空間がほしい
- ・環境整備が必須
- ・筋力が弱っていく病気なので先のことはわかりづらいです
- ・グループホーム、生活介護から災害時に家族に自宅に連れて帰るよう言われているが、自宅でケアが難しくGHに入っているため、福祉避難所から迎えがくることになり、福祉避難所でケアが受けられたら安心です
- ・車いすを押してもらいたい
- ・行動障がい者に対しての環境整備。静かな環境、刺激の少ない環境
- ・災害時、避難所での生活は厳しいため、食料配布等自宅へ

- ・在宅で留まっている人への食料、生活用品の支援を避難開始5～7日目位にしていいただければ良いと思います。自宅で留まるので一週間位は何とかなるよう準備をしていると思います
- ・視覚障がい者を避難場所へ連れていくこと
- ・障がい者が使いやすいトイレ
- ・静かな環境やプライベート空間の確保、避難所への移動支援
- ・自宅から出られないので自宅に来てほしい
- ・自宅で生活できる支援（電源、食材等の確保）
- ・自宅での生活ができる場合も、コミュニケーション支援の必要を感じ取っていただきたいと思っています
- ・自宅にいても被災者として扱ってもらふこと。子供に集団生活は無理なため、自宅に留まるしかないと思う
- ・自宅に支援物資を届けてほしい（避難所には行けないので）。以前、断水の際、給水所で水をもらえると聞いたが、要介助の障がい者を連れてもらいに行けないし、留守番もさせられず給水を受けられなかった
- ・自宅への救助。場所変更に対応できない
- ・障がい者トイレなど行けないのでいろいろと気を使う
- ・障がい特性に合わせた避難場所
- ・障がい者は福祉避難所に避難できるにしても、その家族も一緒に避難できるようにしてほしい。吹田市広報に福祉避難所を載せてください
- ・自分が何をしたら良いのか教えてほしい
- ・情報や相談窓口があっても一人ではたどり着くことができません。一人になった時は探していただけますか。今、グループホームに入っています
- ・主人が車いすなので、災害時は階段は無理のため、室内で無事が確認できたら無理して避難はしない方が良くと思っていますが（二次被害を防ぐため）、無事を伝達できる障がい者専用の連絡先があればと思います（救助のためにも）。スマホなどつながらない可能性もあるので
- ・早急に福祉避難所を増設してほしい
- ・相談時にカウンセリングやメンタルケアの対応
- ・大量の飲食物、娯楽品、きれいなトイレ、寝処
- ・できれば本人に適した避難所への誘導
- ・電源の確保
- ・トイレ等の症状に関わる必要な機能の充実
- ・透析場所の確保
- ・避難所での移動支援
- ・避難できなかった時にも障がい特性に合った情報提供をもらえるようにしてほしい
- ・周りの人たちに理解してもらえるような配慮
- ・水、トイレ、非常食、毛布
- ・ルールや災害時のマニュアルを書いたイラスト付きの本
- ・冷暖房など（皮膚疾患があるので空調がないとしんどいです）
- ・配給食の原材料明示。トイレ利用の配慮
- ・補聴器や補聴器用電池の確保、案内の文字化

IV 自由記述

問 36（問 34 で「1 ある」と回答した人）差し支えなければ、あなたが経験されたことを具体的に記入してください。

- ・自由記述欄に87人から記載がありました。

【障がい理由に要望を拒否された経験】

- ・コロナに感染した時、自分の事がすべてできないので、母と一緒にホテルに入りたかったが拒否された。
- ・コロナの影響で通っていたジムが閉店となり、少し遠くの所に見学に行き、ヘルパーさんと一緒に入会したいと伝えると、一人で利用できない人は入会できないと断られた。
- ・コロナ禍だからではあるが、発熱時に障がいがあることを告げると診療拒否され、たらい回しになった。
- ・テニススクールを入会希望したところ、安全面で保証できないという理由で入会を拒否された。

【合理的配慮を断られた経験】

- ・映像祭、映画が終わったあとのパネルディスカッションに手話通訳を依頼したが、主催者に拒否された。
- ・電車乗車時、介助担当の駅職員に途中で新快速への乗り換えを希望する旨を伝えたが面倒なので普通で行けと聞く耳持たず無理やり電車に乗せられた。

【障がいがあることや障がいの状態を理由に不当な扱いを受けた経験】

- ・親族から縁を切られ、無視をされ、義理の母のお葬式にも呼んでももらえなかった。
- ・グループホームに住んでいたが、声を出したり生活時間がずれていることなどを理由に退居させられた。
- ・マッサージの仕事の面接の際に、「全盲だとベッドの上に髪の毛が落ちていても拾えますか？」と聞かれた。目が見えないので、自治会費の金額を多く請求された。（集金や自治会の活動ができないため）
- ・雨の日、ヘルパーさん同伴にもかかわらず、駅前のタクシーを待っているのを無視され、後ろの人を乗車させられた。運転手が直接私の後ろの人に「どうぞ乗って」と声をかける。
- ・兄弟の結婚の時、結婚する相手の親族より偏見の目で見られた。また差別的発言をされた。
- ・障がいがあることを伝えた瞬間、就く仕事を制限された。

他 24 件の意見がありました。

【障がいについて理解してもらえない経験】

- ・ふだんから酸素飽和度が低いため、マスクをつけると呼吸しにくくなるため、病院受診時マスクをつけていない時に注意され、事情を説明してもわかってもらえなかった。
- ・外食時など、障がい理解が十分ではなく、下見や打合せなど入念な準備に心身共に消耗する。それでも嫌な顔をされるので外食はしない。
- ・子供が義務教育において合理的配慮を得るために、親が診断書などをとる労力、金銭時間をかけ、さらに学校や教育委員会を説得する理論を考え説明をしても、配慮が受けられるか、なかなかわからないこと。
- ・視覚障がい者1級です。白杖を頼りに歩行して、他人の物にたまたま杖が当たり、とても注意された。
- ・タクシー乗車時に車椅子での利用を伝えるとあからさまに嫌な顔された。
- ・動きにくくなっている時にも家事全般を無視し、私にさせたり、短時間で起こったことに対して取り乱してしまった時に、「精神的に弱いから」と言われた。症状を伝えても信じてもらえないと思うので、言い出せない。
- ・聞かれた時に、自分は聞こえないので筆談でお願いしますと言っているのに、また同じことを聞かれて、まだまだ聴覚障がい者のことに対する理解がなされていない人がいるんだなと思いました。

他16件の意見がありました。

【他人の視線が気になる経験】

- ・まわりの人間が何か自分をバカにしているような感じがしたり、人の笑い声がバカにされているような気になって、それがすごく腹が立つことが多々ある。
- ・精神的な病気があるため、黙っているのに近所の知らない人とかに、お買い物する所とか、近所の人に病気のことや生活のこと、作業所で仕事をしていることとか、一人暮らししていることとか、ヘルパーさんに週に1回来てもらっていることとか噂話されて、しんどかった。じっと見られて視線を感じる。

他2件の意見がありました。

問42 最後に、障がい者施策の推進に向け、要望があれば、記入してください。

・自由記述欄には364人から記載がありました。

【サービス、制度、施策についての要望】

・今はまだ大きなご支援をいただくことなく生活ができていますが、加齢等、今後の心配はあります。もしもの時に困らない施策をお願いします。気軽に相談できる窓口はやはり必要だと思います。

・表現が適切ではないかもしれませんが、元気な医療ケアが必要な知的障がい者はとても数が少なく、他の知的障がいがある方々に比べて、福祉サービスの利用がかなり制限されています。少数派の意見も取り入れていただけたらと願っています。

・大阪市内に住んでいる方は市営のバス・電車の乗車券を貰えるのがいいなと思いました。吹田市のタクシー券は個人的に活用しにくいなと思っているので、公共交通機関の方が助かります。タクシー券は車いすの方には良いと思うけど、視覚障がい者にはちょっと違うかなと自分は思いました。

・新御堂の西側に住んでいるので、最寄りの病院等が豊中で、無料で受けられる支援が受けにくい。

・現行の成年後見制度では、後見人の指定ができず、本人にあった支援の専門的な知識がある方が後見人になってもらえると限らない。また、後見人や後見監督人に支払う報酬が、本人の負担になる。年1回の金銭報告だけではなく、日々の暮らし、手続きをサポートしてもらえる制度があるとうれしい。

・作業所を増やしてほしい。障がいの内容に合った作業、個人のニーズに合った作業所があればと思う。

・吹田市内にもっといろんな種類のA型作業所、B型作業所があればいいなと思っています。パソコン系の作業やイラスト系の作業だったり。

・重度障がい者医療費の負担を障がい者手帳1級だけではなく、全員が500円で受けられるようにしてほしい。ヘルプマークを付けていても何の効果もない。手帳を持っても意味がなされていない。特に電車等の交通面に関して。

・障がい者を育てる働く母を支援する日中一時支援事業の充実をお願いしたいです。

・療育手帳の更新が5年毎、2回に1回は面談がある。障がい者はもう30歳。殆ど変化がないのに更新時の面談で、暴れ、自傷、他傷、親が気持ち的にまいてしまう。ある年齢になると更新制度は止めてほしい。

・障がい者手帳の継続更新手続きが可能な申請窓口に「障がい者相談支援センター」が存在するが、障がい者手帳の交付は、市役所の障がい福祉室にいかなければならない。この手続きを「障がい者相談支援センター」で一括して実施してほしい。(理由：何のための「障がい者相談支援センター」なのか？ 障がい者にとっては、単純な手続きでも負担であるため)

・公的支援では対応できない困りごとを手伝ってくれる学生ボランティアの育成と、マッチング支援。遠方への出張時など吹田市外へ短期滞在する時に普段利用している介助支援と同様のサービスが受けられる仕組み。障がいの種類によって不要な方にもサービスが提供されているので、そこを厳格化し本当に必要な方に対する支援の拡充。災害発生時にまずとるべき行動など様々な障がいに応じたガイドラインの策定。

・高校卒業し生活介護に通っていますが、帰りが早く、土日も預ける所があまりなく困っています。デイサービスはたくさんできているものの、卒業後に通える日中一時がなくなってしまっていることに疑問です。需要と供給のバランスを考えたサービス提供をお願いします。

・本人が手続き等できないので、できるだけまとめて手続きできるように、情報を一元化してほしい。障がい者手帳は、府・市、障がい者年金は国、同じ一人の人間なのに、その度に医師の診断書、意見書等が必要で、一人で行動できないのに負担が大きいので制度をまとめてほしい。

他58件の意見がありました。

【入所施設やグループホーム等の整備についての要望】

・今入居しているグループホーム以外にも、本人が違う所を見学したり体験して入居できるように、もう少し障がいの特性などに合わせたグループホームの開設などお願いいたします。

・親が高齢になってきて、障がい者本人（子）の先のことが心配です。できるだけ早くグループホームを利用したいと思っていますが、重度の障がい者を受け入れるグループホームがありません。吹田に早く作ってほしいと思います。

・親亡き後の子供の将来がとても心配です。グループホームも足りない現状で、最後まで親子で暮らせる、親子で入れるグループホームを吹田にも作ってほしいです。親が急病になった等の緊急のショートを増やしてほしいです。あいほうぶは18歳からということで、18歳までの子が入れる緊急ショートもほしく、夜間でも相談できる窓口がほしいです。

・看護師（医療行為のできる人）の常駐するグループホームを増やしてほしい。

・高齢障がい者の施設がないと聞いています。今後、そのような施設を作っていただきたいです。

・入所施設やグループホーム等を作り増やしてほしい。時代に逆行していると思われると思いますが、子供の障がいの特性など考えると、施設が必要です。自宅や家族だけで見ていくのは限界がある。親が元気なうちに、子供が安心して暮らしていける所、居場所を見つけ、暮らしている姿をみて親も安心したい。福祉法人だけで、どうにかできる問題ではないと思います、どうかよろしくお願いします。

他43件の意見がありました。

【経済的支援についての要望】

- ・ 特定疾患が原因で受診している他の科で特定疾患の手帳が使えず、医療費の負担が辛いです。発病してから体調の良い時間はゼロになりました。出費も多く働かざるを得ません。難病手当を継続していただきたいです。
- ・ 医療費を無償化にしてほしいです。交通費の出費だけでも毎月かなりかかっています。作業所を充実し、送迎してくれる所を増やしてほしい。タクシー券は初乗り料金のみなので、支援金額を増やしてほしい。通院などで大雨など外出しづらい時にタクシー券を利用させていただいていますが、交通費の負担が大きいです。
- ・ 現在療育手帳B1を持っているため、自動車などの免許は習得する予定なし。現在、新幹線や飛行機利用の際の割引等がありますが、日常的には使用することもなく、一度も利用したことがない。一方で日常使いする電車、バス（バスは通学定期のみ割引あり）については、割引等なく、障がい者が一番必要としている面でまったく障がい者の立場にたっていないと思う。上限を決めて公共機関（電車、バスなど）の助成や割引をご検討いただけると有難い。（障がい者療育手帳B1の母）
- ・ 精神障がい者手帳であっても、バス、鉄道の割引が受けられるようにしていただきたいです。市によって差があり、吹田市は割引がないため、外出時の交通費が負担に感じます。
- ・ 最近値上がりで、障がい年金と安月給で生活が厳しくなっている。吹田市に電車やバス乗り放題のカードがあれば助かると思う。

他20件の意見がありました。

【制度等の広報、周知等についての要望】

- ・ 吹田市の訪問系サービス支給ガイドラインを情報公開してください。自分がどれだけのサービス支給を受けることができるのか、よくわからないで、一人暮らしを踏み切れないで、親の介護支援に頼っている状態が経過してきました。豊中市や西宮市等のように、誰でも確認できるように、支給に関するガイドラインを公表して下さい。
- ・ せっかく良い施策を立てていただいても、本人が知らないと利用すらできないのではと思います。手帳を持っている人対象に、情報をリーフレットみたいにまとめて送付していただくなどの提供は必要と思います。
- ・ ヘルプマークの存在を知ってほしい。電車やバスで席を変わってくれない。若く友だちとしゃべっている人など気づいていない。小・中・高でもっと障がいについて学ぶべき。
- ・ 本当に必要とする人のところへ情報が届いていない。何でもホームページでとか、パソコン等がなければいけなくなっている。難しいと思いますが考えてほしい。サービスも使っている人は殆ど使っているが、本当に必要な人は現在を必死に生きていくのに精いっぱいであるのを見てきた。
- ・ 難聴でも手話を使うことがないので、文字で情報を得られるとうれしい。
- ・ 一般の人の中に障がい者に対する理解が深まるような広報活動などをしてほしい。それによって、福祉関係者以外からも、障がい者支援に参加する人が増えるようになってほしい。

他14件の意見がありました。

【人材確保についての要望】

- ・意思疎通をしっかりとできる方をもっと増やしてほしい。施設、グループホーム等のスタッフの人数を増やしてほしい。
- ・障がい福祉サービスや施設で働いてくださっている方達のお給料UPや環境改善をまずしないと、人不足で必要なサービスをこれからますます受けられなくなるのでは…と不安です。
- ・生活面、日中活動面の支援者が足りない。もっと市が支給量を増やして、生活面、日中活動面の人手と時間の保障してほしい。
- ・生活面を支える施設の職員不足があります。非正規から正規職員になれず、辞めざるを得ない状況もあり、定着率は低いように思う。障がい福祉サービスの報酬を引き上げて、職員の生活も安定した職場であってほしいと願っています。

他11件の意見がありました。

【その他についての要望】

- ・A型に仕事に行っているのですが、15時までなので、その後通える所があると親の仕事をセーブしなくて生活が安定する。
- ・いろんな支援やサービスも大事ですが、一番思うのは障がいのある人を見ても差別しない世の中になってほしい。小さい子供の頃からの教育が大事だと思います。車いすを見てもジロジロ見ないなど。
- ・できれば余暇活動で障がい者対象の教室がもう少し増えれば嬉しいのですが。バドミントン以外にも他市で実施されている卓球、スポンジテニス、アーチェリー、ボウリングなどのスポーツや料理教室、おやつ作り、生花などの文化教室も良いと思います。場所の確保、指導者など難しいところはありますが、障がいがあっても健常者と同じように楽しむ音ができればと親の願いでもあります。
- ・家族の高齢化による生活の不安や、病気のため働けず不安。介護する家族も、自分のことだけで精いっぱい（60代の兄弟）。障がい者だけの支援ではなく、家族も含めて安心して生活できる支援がほしい。
- ・グループホームも少ないので、府営住宅に入りたい。何度も応募していますが、外れてばかりです。障がい者はもっともっと優先的に府営住宅に入れるようにしてほしい。
- ・最近地震が多発していて関西にも大地震がくる可能性が高くなっています。エレベーターが停まると車いすユーザーは困ってしまいます。その場合、どんな支援が受けれるか、災害時どんな支援が受けれるのかを教えてください。
- ・支援学校を卒業し、福祉に関する情報などが入手しにくくなっていると思います。これから親がいつまで一緒にいれるかわからない。障がい者が安心して暮らせる社会になってほしいです。
- ・障がい者が入りやすい専用の美容院、病院など身近に行きやすい場所を作してほしい。緊急の時に利用できるヘルパーさんを利用できるようにしてほしい。病院など一人でいけないので。
- ・自分の伝えたいことを伝えられずに困っていますし、他者との関わりにも少なからず影響します。定期的に勉強したり体験できる場があればうれしいです。難しいことですが公共の場のトイレについて、鍵やボタン等、同じにしていただけなら困難なく使用できるのではと思います。
- ・障がいのある人は苦しみも悲しみも心に持っている。皆さんは「人は人」、自分は自分と思っています。年に1回くらいお話し会あっても良いのではないかな。不安も少しは和らぐでしょう。

- ・障がいのある人もない人も一緒に（共に）どちらもより良く暮らせる社会づくり。
- ・障がい者本人だけでなく、お世話されている家族などへの支援も手厚くしてもらいたい。
- ・身体障がい者手帳、療育手帳2冊持っていますが、いずれも紙の手帳のため破れてしまいやすく保持しにくいので、プラスチックカードにしてほしいし、できることならばマイナンバーカードにひもづけして一つにまとめてほしいです。本人にたくさんのカードを保持させることが難しいです。
- ・それぞれの障がいに応じた施策は工夫されたりしていても、重複障がいがあれば利用できないことも多いので困ることもあります。
- ・中途障がいと身体が不自由だが仕事がしたい。それを支援する仕組みがないので困る。自分の能力を生かし、やりたいことができるような社会になってほしい。障がいのない人、一般の市民の力を借りてやりたいことを実現したい。力を貸してくれる人はたくさんいると思う。自分のアイデアや企画を聞いてもらう場がほしい。
- ・健常者とGIVE & TAKEで対等に生きていきたいです。障がい者に限らず、誰でも苦手なことがあれば、そうでない分野もあると思います、しんどいところを一方向的に守ったり守られたりするのではなく、得意な分野は積極的に頼るべきだし、頼られた側も「役割」与えられれば「心的にも居場所」ができ、生きがいにもつながると思います。
- ・福祉を充実してほしい。もっと福祉関係への財政確保してほしい。人手不足、支給量不足を解消できるようにしてほしい。
- ・誰でも病気や事故やけがなどで、障がい者になる可能性があるという共通認識を持たせるような学校教育を推進してほしい。もし健康な人が障がい者となった時、切り捨てるのではなく、社会に再参加できる社会であってほしい。そのためには心のケアや医療体制の充実を求めたい。
- ・電動車いすは今より軽いのが買えたら良いなあと思っています。
- ・障がい福祉サービスの利用に際して、重度訪問介護を担う事業所が増加していくような支援をお願いしたい。私は以前、利用していた事業所の人材不足をきっかけに相談支援員を通じて重度訪問介護をしてくださる事業所を探していたが、吹田市内では一か所も事業所が見つからなかった。重度訪問介護を担う事業所を増やしていくことが必要だと思う。また、災害時の支援について、私は人工呼吸器ユーザーのため、停電が起こった場合の呼吸器のバッテリー充電のための電力確保ができないのではないかととても心配している。おそらく災害時は病院の方は在宅の患者の電源確保の支援までは状況的に難しいかと思われる。病院とは別に医療機器の充電ができるような支援をお願いしたい。

他174件の意見がありました。